
都市生活学部

都市生活学科

都市生活学部 都市生活学科

人材の養成および 教育研究上の目的

都市生活学部は、魅力的で持続可能な都市生活の創造のため、生活者のニーズを構想・企画へと描きあげ、その実現のため事業推進、管理運営を行っていく、企画・実行業務を担う実践力のある人材を養成することを目的とする。(学則 第4条の2より)

カリキュラムポリシー

教育課程の編成方針

都市生活学部では、持続的で魅力的な都市生活の創造にかかわる企画・業務において、国内は勿論、グローバルな場で活躍できる人材を育成するため、以下の方針に基づき教育課程を編成する。

1. 複雑化する社会の中で、社会人としての確かな視点の獲得を目指して、社会、文化、歴史に関する広い教養を修得できる科目を設定する。
2. 国際的知識をはじめ外国語コミュニケーション能力などグローバルな場面で活動するための基礎を形成する科目を設定する。
3. 「都市のライフスタイル」「都市のマネジメント」、「都市のデザイン」、「都市のしくみ」の4領域において企画・業務の遂行力の獲得をめざし、総合的、専門的、実践的に学べる科目を設定する。
4. 商学・経営学を基礎におき、社会科学的方法論、芸術・工学的方法論という複眼的な方法論を獲得し、それを企画、業務の実践に生かす能力を修得するための科目を設定する。
5. リサーチスキル、デザインスキル、プレゼンテーションなどの専門スキル向上のための演習型授業科目を設定する。
6. 専門的知識、専門的スキルを総合し、自ら問題発見し、対象を分析し、その問題解決に深く取り組むために、プロジェクト演習、卒業研究などの少人数学習科目を設定する。
7. 社会で活躍できる人材となるため、自らのキャリアについて深く考える科目を初年次から継続して設定する。

ディプロマポリシー

学位授与の方針

所定の年限在学し、以下の能力を身につけるとともに所定の単位を修得した者に、学士（都市生活学）の学位を与える。

1. 複雑化する国内外の社会を見通す広い教養と、国際的な場で活躍できる十分なコミュニケーション能力を有し、責任ある社会人として活躍できる基礎能力を身に付けている。
2. 商学・経営学的な知識を基礎に、社会科学的方法論と芸術・工学的方法論を複合的に習得し、それらを企画・業務の実践に生かせる応用力を身に付けている。
3. 都市生活についての総合的・横断的な知識を基礎に、特定領域の専門的な深い知識を持ち、それらを応用して魅力的で持続可能な都市生活の創造に導く構想力および実践力を身に付けている。

備考

1. 都市生活学部のカリキュラムポリシーとディプロマポリシーは、大学基準協会の大学設置基準、日本学術会議の経営学分野および土木工学・建築学分野の参照基準に準拠している。
2. カリキュラムポリシーとしては宅地建物取引士資格、1・2級建築士資格受験、公務員受験に必要とされる科目群も参照基準としている。
3. 領域別の教育到達目標レベルは、各領域で定めている。
4. 領域内の系統的な教育を促進するために、履修モデルを作成し、学修要覧などに掲載している。

1. 都市を創る人材の育成

「都市生活」という学部名から皆さんはどのような内容を想像されるでしょうか？「都市」と言えば工学,「生活」と言えば生活科学などを対象とする分野として考えられる傾向がありました。しかし、私達の学部は東京都市大学が新しい発想で創る「都市」をテーマに総合的に学ぶ社会科学系の学部としてスタートした学部です。都市は、工学的見地から捉えようとすると建築や工作物などのハードウェアを中心にした見方になり、生活科学から見た場合には、家の中や限られた周辺環境の発想にとどまりがちになります。しかし、現実の都市には人々が集まって、働き、暮らし、楽しむ場としての重要な機能があり、そこには人間のドラマや、そこで生まれる活動やそれを演出する空間があります。こうした人間社会を対象とする分野は社会科学が得意とする領域ですが、都市と結びつけた考え方は、これまでわが国の大学教育の枠組みからは抜け落ちていました。このため、私たちはこうした都市の中で営まれるライフスタイルの創造を目標に据え、ゆきみの源となる都市の文化、それを生み出す舞台としての街、活動する人達の居場所としての住まいの分野を対象にした教育研究を行うため、2009年に「都市生活学部」を開設いたしました。

今後、都市とそこで働き、住まい、楽しむ人々にとって、新しい世代の価値観を構築する必要があります。グローバルスタンダード、金融、消費、成長を中心に組み立てられたモノ中心の社会構造から、より精神的な豊かさ、人と人との新たな繋がり、歴史や文化へのリスペクトに根ざしたコト中心の都市社会の構築へと舵を切らなければならないと考えます。同時に、少子高齢化社会を前提とした、政策転換と社会資本や制度の整備が、待ったなしで求められている状況です。

まず第1に、わが国では、総人口はゆるやかに減少しています。しかし、その傾向の中でも、東京を始めとする大都市への人口集中つまり都市化の傾向が長い間続いてきました。この傾向は欧米先進国にも共通しており、また、人口が増加している発展途上国では急速に都市化が進んでいます。これら世界的な都市化の動きは、資産・情報・文化・産業の集積へと繋がり、都市は活力と個性を獲得してきました。そして、国家という枠を一気に飛び超え、都市間競争の時代を迎えています。

しかし、同時に様々な歪が生まれ、これまでの考え方だけでは解決し得ない複合した「社会課題 (Social Issue)」を生み出しています。それらを横断的に分析し、統合的な解決案を提示し、人々がより精神的な豊かさを実感しながら働き楽しみ生活する＝「価値ある都市生活 (Value of Urban Life)」の場と機会を創り出すことが大切になってきたと考えます。

第2に、日本は長年続いてきた製造業を核とした産業構造から、サービス・マネジメント・オペレーションといった社会や人々の生活を持続的に魅力あるものと育てていく、新しい産業と製造業との両輪型の産業構造に急速に移行しつつあります。その課題に取り組むときに、都市はフローからストックの時代を迎えていることを認識しなければなりません。新しい建物や施設を建設することから、既存の社会資本を活用し、街をより安全で快適で魅力のあるものに育てていくこと、それを実現するマネジメントが求められています。そのためには、地球環境を見据えて将来の世代に引き継いでいける価値ある生活環境の構築や、歴史やローカル文化・風土との共生を志向する価値観や理念を確立し、それを支える新しいルールと社会関係資本を形成していくことが求められます。工学系を軸として発展してきた東京都市大学で、都市生活学部が担うべき責務は、そういった職能を担っていける人材の育成ということになります。

第3に、中国やアジアを中心とした発展途上にある国では、人口増加と経済規模の拡大が急速に進んでいます。人件費の安い国に工場を作って安い製品を輸入するといった考え方は既に過去のもので、これらの国々が今後消費の中心にあるのは疑う余地もありません。まだ発展の初期段階にある国も急速に経済力を押し上げてきているのが現状です。国際競争の中で、日本は、技術力に加えマネジメント力とデザイン力を磨き、価格競争ではなく、商品・サービス・空間の価値創造力で戦っていかねばなりません。更には、それらの国々も、近い将来消費一辺倒を脱し、人々は豊かさに価値の軸足を移していくことになり、サービス・マネジメント・オペレーションのニーズが認識されていくでしょう。

東京都市大学は、オーストラリアのパスを拠点とした東京都市大学オーストラリアプログラム (TAP)、国際化に向けたカリキュラム構築、国際インターンシップの開発など、2015年度から、国際化に向けて大きな舵を切ることになりました。都市生活学部はその先兵役を果たし、その中心になることが求められています。都市生活学部では全学部の中でも最も多い90名の学生のTAP参加を予定しています。また、日本を牽引してきた大企業だけではなく、製造、流通、サービス、そして都市開発や管理運営分野の企業の多くが国内外というバウンダリーを超え、アジアを中心とした海外で、あるいは、海外とのビジネスを進めています。IT技術や輸送ノウハウの進歩と国家間の障壁を低くする様々な仕組みづくりが、それに拍車をかけています。都市生活学部としては、この大きな流れの中でしっかり戦える人材を、社会に送り出していくことが、国際化に対する答えだと考えます。

第4に、社会の構造や価値観の変化とともに、旧来からの、近隣で完結するあるいは血縁や所属組織を核としたコミュニティの考え方が、成り立たなくなってきました。SNS の発達で、良くも悪くも、時には距離や国や履歴を超えて、人と人を新しく結び付けることを可能にしています。そのような新しい時代に相応しい、個々の様々な発想やテーマごとの集合による新しい連携と、旧来型の地域中心の連携を再生しながら融合させていく、新しいソーシャル・コミュニティの構築が求められています。また、都市や地域の課題や中心を担う世代や人物は更新されていくので、変化や不確実性に対して緩やかで打たれ強いマネジメントが必要です。社会全体の豊かさや価値の創造とは、国や自治体による公共政策や法律・制度・計画と、民間資本による市場原理に基づくビジネスが、地域やテーマによるコミュニティと相互にフィードバックしながら、イノヴェートしていくことの積み重ねであると考えます。

第5に、企業や組織の中ですべての業務が完結しない時代を迎えました。個人のネットワークの時代という人もいます。実践的教育を標榜する以上、質量両面で、産業界、行政、他の教育機関と協同していくことが教育の1つの柱になると考えます。まずは、様々なシンポジウム、イベント、ワークショップ、コンペティションへの積極的な参加、都市生活学部の特徴を活かして一定の役割を担う産官学協同プロジェクトへの参加、更には、都市生活学部の1つのあるいは複数の研究室が核になる社会連携プロジェクトの実行に、学部をあげて挑戦することが望まれます。また、将来的には、本学部の枠を超え、他の学部・学科と単位互換のルール作りを進め、多くの企業と連携を図り、より統合的横断的な教育・研究環境を整備すべきでしょう。足場を固めた後は、他大学との連携も積極的に図る方向を模索すべきです。

このように、国内外の都市における、今後ますます複雑で横断的になっていくと想定される「社会課題 (Social Issue)」を分析し解決策を提案し、人々の「価値ある都市生活 (Value of Urban Life)」すなわち質の高い働き方、暮らし方、楽しみ方、賑わい、そして人と人の新しい繋がりを企画し、実現し、運営していく人材が、世界中で必要とされています。私たちの生活の質を向上させる商品やサービス、街の賑わいや個性的な空間、人々の心を刺激し豊かにする文化、環境と共生する穏やかな社会、それらを支える制度とシステム、そして、これらがもたらすであろう魅力的で持続可能な都市生活の創造という新しい価値創造が求められているのです。

都市生活学部では、都市生活の様々な社会課題を調査分析し、構想・企画へと描きあげ、その実現と継続のためのマネジメントを担う人材を教育と研究の両面で育成します。商学・経営学にベースを置き、工学技術マインド、意匠造形マインドを有し、国際的な視野を持って、企画・実行・運営業務を担う人材を、実践的に養成していきます。

2. 横断型人材育成のストラクチャー

都市生活学部が目指す横断型人材は、工学部のように1つの分野を深く掘り下げる専門家ではなく、また、教養学部のように浅く広い分野の知識を身につけることではありません。いわば、その中間で、1つの領域の専門知識とスキルを持ちながら4つの領域の幅広い知識を有するという十字型の人物像です。現在は、プロジェクト演習前期がその役割を最も色濃く担っていますが、演習、専門科目の両方で、1つの専門領域に軸足を置きつつ、他の3領域を学べるカリキュラム体系と履修要件にする必要があります。

横断型人材は、様々な利害関係者をマネジメントする能力育成が不可欠です。国際化を目指すのであればその重要度は今後ますます増していくでしょう。幅広い知識習得とともに、コミュニケーション能力育成が最も重要で基礎的な要素になります。主として演習科目がその目的を担うことになります。自分の考えを自分の言葉で話すことから始まり、言葉や文章のほかにCAD・BIM・模型・IT等の多様なツールを利用してのプレゼンテーション力を磨き、チームで成果を出すことのトレーニングを行い、合意形成をしていくことのできる人材を育成することに重点を置きたいと考えます。

これらを実現する人材を具体的に示すと以下ようになります。

- ・都市空間を生み出す人：東京臨海副都心、みなとみらい21、渋谷など新しい街の建設では、建築のみならず、環境、文化、社会、経済など、様々な分野を視野に入れ、都市や街づくりのプランを作成し、各分野の専門家や技術者と協力してプロジェクトを実現させていく人達がいいます。その活躍の舞台は、中国・アジアをはじめ世界へと広がっています。
- ・街をカタチにする人：東京、上海、ニューヨーク、ロンドンなどでは、毎年のように新しい建物が完成し、街の景観がどんどん変化していきます。このように、独自の個性や魅力的な景観を持った都市空間を実現するため、新しい都市開発や街づくりのコンセプトに合わせて建築をデザインしていく人達がいいます。

-
- ・街の仕組みをつくり経営を実践する人：まちづくりやその運営には都市の特徴や文化に根差しながら未来を見据えたルールづくりが必要です。また、道路や広場の整備には財源が必要であり、都市の開発には資金調達と収入の確保が不可欠です。そのため行政や不動産、金融の専門家たちが活躍しています。これらすべてが都市を舞台にした、私たちの生活を豊かにするための活動です。
 - ・生活の豊かさを顧客に手渡す人：素晴らしい商品やサービスがあって初めて、街での生活は豊かなものとなり、その街の魅力が形成されていきます。このような高感度な商品やサービスを創造し提供する人もまた、街の文化を創造する人たちなのです。商品やサービスを企画開発する人、その商品やサービスを営業という手段で顧客に手渡していく人、これらの人々のすべての活動が連なって人々の生活が豊かになっていきます。
 - ・楽しさを演出する人：イベント、お祭り、エンターテインメント、テーマパークなど都市には楽しさが集まっています。これらを演出し、街に人々を集客するには、伝統を掘り起こしたり、エンターテイナーを呼び寄せたり、空間を魅力的に演出したりして、楽しさを様々に提供する人達が活躍しています。
 - ・商品やサービスの魅力を伝える人：商品やサービス、空間もその魅力を引き出し伝えることが重要です。センスの良い広告によって伝えたり、雑誌やインターネットなどの媒体によって紹介したり、観光商品化して人々を呼び寄せたりしている人達が、広告、出版、ネット、旅行など、多岐にわたる業界で活躍しています。
 - ・住む空間をデザインする人：家に住む、マンションに住む、ホテルに住むなど、都市に暮らす人々の様々な価値観や、ライフスタイルに合った居住空間が求められています。グローバルな現代社会では、居住空間を商品として多様なサービスを含めて提供することも重要となっています。また、スクラップアンドビルドだけではなく、空間の価値と採算性を考慮して、リノベーションを行ったり、非居住空間を住空間へ再生したり、質の高い工業化住宅の開発に取り組む人達がいます。

これらの人々すべてが都市を舞台に私たちの生活を豊かにするための活動を行っています。そのため、都市生活学部では、新しいライフスタイルを生み出す商品やサービス、美しい街や快適な住まい、そして、これらがもたらす魅力的で持続可能な都市生活の創造のため、商学・経営学をベースに、工学マインド、意匠造形マインドをもって企画・実行業務を担う実践力のある人材を育成していきます。

3. 4つの領域とその要素

「社会課題（Social Issue）」と「価値ある都市生活（Value of Urban Life）」を構成する領域は、都市のライフスタイル Lifestyle、都市のマネジメント Management、都市のデザイン Design、都市のしくみ System の4領域です。

都市のライフスタイル（Lifestyle）の領域を構成する要素としては、都市生活をより創造的なものにする文化・芸術・楽しみ、それを世界の人と共有する観光と集客、都市の経済を活性化し商品やサービス、それらを支える経営戦略、マーケティング、物流、金融のシステムです。

都市のマネジメント（Management）の領域を構成する要素は、都市の将来像を中長期に渡って描くマスタープラン、都市開発を支える不動産マネジメントとプロジェクトマネジメント、都市生活の新しい人と組織の関係を創造するソーシャル・コミュニティマネジメント、都市の経営運営を担うタウンマネジメント・エリアマネジメント、施設の経営運営を担うプロパティマネジメントとオペレーションとなります。

都市のデザイン（Design）の領域を構成する要素は、都市の美しい景観や豊かな都市空間の創造を担う都市デザイン、都市の活動の拠点となる建築・空間、人々の生活の基本である居住を支えるハウジングと居住環境のコミュニティデザイン、CAD、CG、プログラミング、BIMなどのデザインや企画・設計を支える技術です。

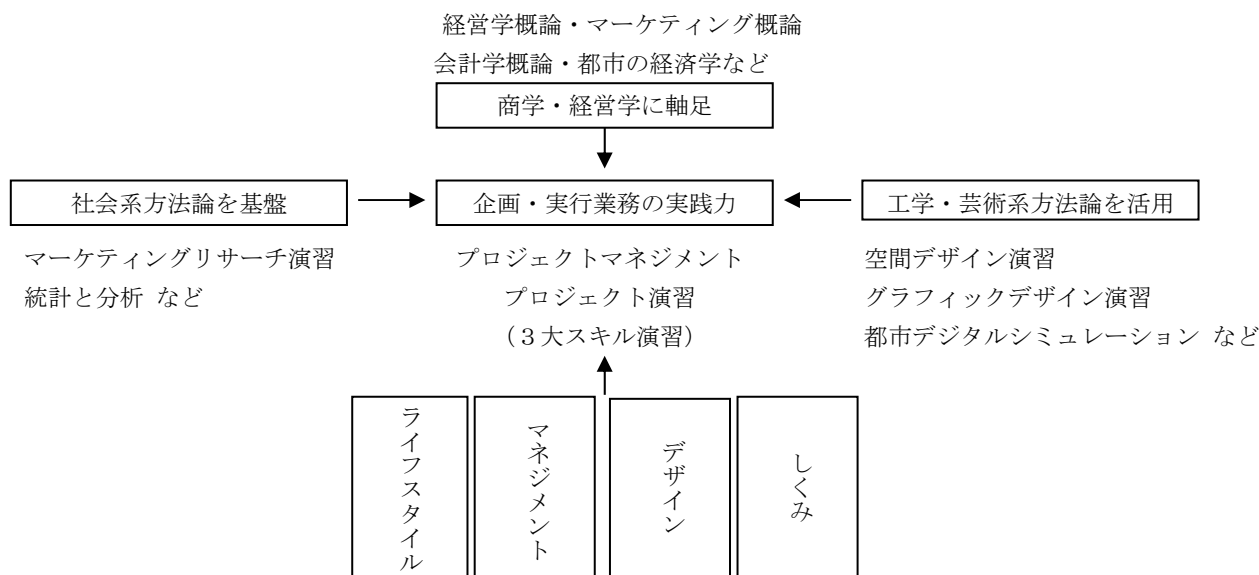
都市のしくみ（System）を構成する要素は、都市の様々なアクティビティを支えるインフラ、豊かな都市生活を共有するための環境、様々な都市の活動を有効に機能させるために不可欠の公共政策、制度・システム、高齢化社会に向けた社会福祉のシステムとデザイン、都市を実際につくりあげる施工、工法、調達と考えます。

これらは、時代とともに、その形式や価値を常にイノベーションしなければいけません。それを、学習し、研究する学部が都市生活学部なのです。

4. 教育の理念と体系

都市生活学部においては、都市の中で営まれるライフスタイルの創造を目標に据え、商学・経営学に軸足を置き、社会（生活者、市場など）に対する方法論を基盤に据えつつ、工学・芸術（技術、意匠造形）の方法論を活用し、都市における空間、商品・サービスに関する生活者のニーズを構想・企画へと描きあげ、その実現のため事業推進、管理運営を行っていく企画・実行力を身につけるための教育研究を行うことを理念とします。

このような企画・実行力を身につけるための実践的な教育体系は、以下の図のようになります。



また、この体系の下、具体的には下記の専門領域ごとに下記の要素を学習する諸科目を配置しています。

(1) 都市のライフスタイル Lifestyle

この専門領域では下記の要素について学習します。

- ①Culture, Art, & Amusement 文化・芸術・アミューズメント
- ②Product & Service 商品・サービス
- ③Marketing マーケティング
- ④Logistics 物流・商流
- ⑤Finance & Accounting 金融・会計
- ⑥Tourism 観光
- ⑦Human Attract 集客

(2) 都市のマネジメント Management

この専門領域では下記の要素について学習します。

- ①Master Plan マスタープラン
- ②Real estate 不動産
- ③Project management プロジェクトマネジメント
- ④Area・Town management エリア・タウンマネジメント
- ⑤Property Management & Operation 管理運営
- ⑥Community Management コミュニティマネジメント

(3) 都市のデザイン Design

この専門領域では下記の要素について学習します。

- ①Urban design 都市デザイン
- ②Space & Architecture 空間と建築
- ③Housing & Community Design 住居とコミュニティデザイン
- ④Computer Technology コンピュータ技術

(4) 都市のしくみ System

この専門領域では下記の要素について学習します。

- ①Infrastructure インフラ
- ②System 制度・システム
- ③Public Policy 公共政策
- ④Environment 環境
- ⑤Social Welfare 社会福祉
- ⑥Construction & Procurement 施工と調達

カリキュラムには、これらは次のように具体的に反映されています。

①都市のライフスタイル、まちづくり、居住環境等についての実践的な教育研究

都市の文化、まちづくり、居住環境に関する4つの専門領域を設け、都市のライフスタイル領域（13科目）、都市のマネジメント領域（13科目）、都市のデザイン領域（12科目）、都市のしくみ領域（13科目）の専門科目を設置し、実践的な教育研究を行います。

②構想・企画を描きあげ事業推進、管理運営を行う企画・実行業務の実践力育成

「プロジェクトマネジメント」により企画・実行力を育成し、演習科目の「コンピュータ演習」、「グラフィックデザイン演習」、「空間デザイン演習」、「都市デジタルシミュレーション」、「マーケティングリサーチ演習」のスキルを身に付けることにより実践力を発揮することができます。

③商学・経営学をベース

必須科目の「マーケティング概論」、「経営学概論」のほか、「簿記論」、「会計学概論」、「都市の財政学」、「経営戦略論」を学ぶことにより商学・経営学のエッセンスを学びとります。

④社会（生活者、市場など）系方法論を基盤

社会系方法論の学習として「マーケティングリサーチ演習」により、社会調査、マーケティングリサーチのスキルを身に付けます。

また、社会（生活者、市場など）への対応方法としての「統計と分析」、「ブランド戦略」、「広告コミュニケーション」、「まちの観察」、「情報社会とくらし」、「ユニバーサルデザイン」などにより生活者、市場の知識を学びます。

⑤工学・芸術（技術、意匠造形）系の方法論を活用

工学・芸術（技術、意匠造形）双方の方法論として「グラフィックデザイン演習」、「空間デザイン演習」、「都市デジタルシミュレーション」、でデザインのスキルを身に付けます。

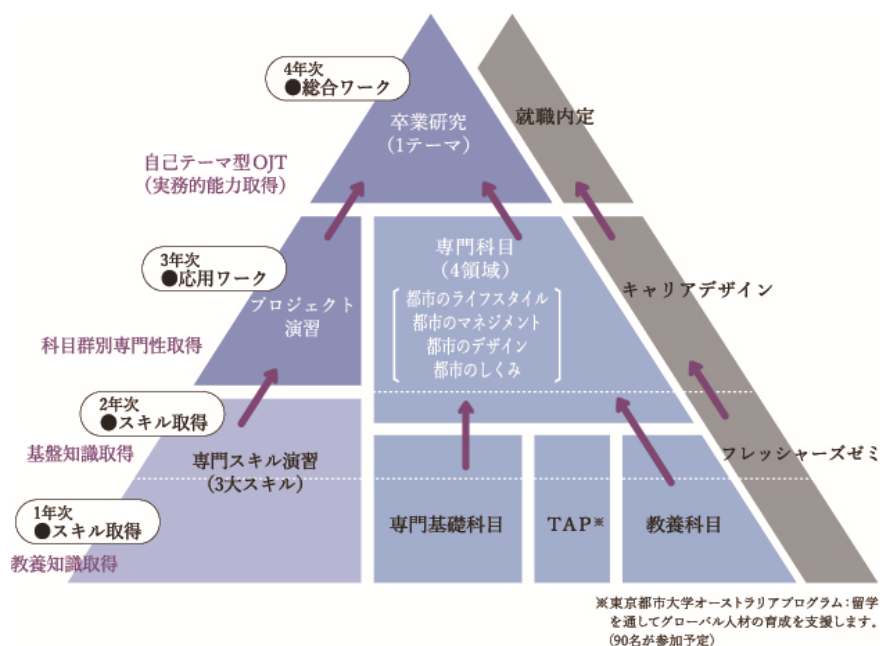
都市生活学部では、社会系の方法論を基盤に工学・芸術系の方法論を活用するという複合的な教育体系の中で学習していくことから、さまざまな資格への挑戦が可能となります。その中で、特に建築デザイン分野は、工学部の建築学科と専門的に親しい関係となります。建築学科では建築空間を対象に工学・芸術（技術、意匠造形）の方法論を基盤に据えつつ社会（生活者、市場など）の方法論を活用していく立場となるのに対して、都市生活学部都市生活学科では、都市における空間のみならず商品・サービスをも対象として商学・経営学にベースをおき、社会（生活者、市場など）に対する方法論を基盤に据えつつ、工学・芸術（技術、意匠造形）の方法論を活用して、「都市文化のクリエイター」、「街づくりのプロデューサー」、「住環境・商環境のデザイナー」になれる素養を有した人材を育てていきます。

これらの点から、都市生活学部卒業生は建築学科と異なり、全員がものづくりに携わるのではなく、営業、開発、事務をはじめ多岐の業務に携わります。そのため、スキルの教育に当たっては「ものづくり」教育よりも「理解する」教育を主眼としています。当学部卒業生が実社会で活躍する場合、幅広く商品・サービスの企画開発と事業展開を行っていくためには、都市建築系やデザイン系の専門家、行政、住民との協同作業が頻繁にあることが予想されますが、その際、協同作業者に自分の企画内容を的確に伝えて技術的、意匠的に深めてもらうためには、最低限必要なスキルと知識を習得することが必要となり、そのため、ものづくりを「理解する」力を養うためのスキル教育を用意しています。



5. カリキュラムの特徴

都市生活学部は、1～2年次を中心に教養科目や専門の基礎となる科目を学んだのち、2～3年次を中心に4領域の専門科目で知識を深めていきます。それと併行して、1～2年次で専門スキルを演習形式で身に付け、3年次のプロジェクト演習や4年次の卒業研究で学んできた専門知識と結び付けて応用展開し、個人毎の専門能力を育成します。一方、大学生活やキャリア形成を行うため、少人数クラス制のフレッシュャーズゼミ、キャリアデザインによって個人単位でのきめ細かい指導を行い、進路の適切な選択、決定へと導きます。こうした専門能力の育成と進路選択という二筋の教育によって実践力のある人材となって社会に出ていきます。



1) 4つの専門領域の科目と進路

専門科目を「都市のライフスタイル」「都市のマネジメント」「都市のデザイン」「都市のしくみ」の4領域に分類し、将来の進路に適切な科目を選択できるようにしています。コースや専攻とは異なり、科目群を横断しての選択ができますので、興味や関心に応じた学習を行い、異なった進路を目指すことが出来ます。

【専門領域1 都市のライフスタイル】

- ①専門科目 : 人々の創造性を刺激し、生活を楽しくしてくれる都市の文化を企画・実施する能力の涵養
都市の社会学、経営戦略論、ファッション文化、都市観光計画、ソーシャルマーケティング、簿記論、広告コミュニケーション、ブランド戦略、集客空間論、エリアマーケティング、マーチャンダイジング、集客学、トラベルプランニング
- ②将来の進路 : 都市文化のクリエイターの育成
商品開発クリエイター (流通、メーカー)、文化・芸術イベントのプロデューサー、広告プランナー (広告代理店)、編集者 (出版社)、トラベルコーディネーター (旅行業、航空、鉄道)、インターネット開発クリエイター など

【専門領域2 都市のマネジメント】

- ①専門科目 : 美しく暮らしやすい都市の空間を企画・開発・運営する能力の涵養
都市政策、プロジェクトマネジメント、住宅と不動産、まちの防災、参加型まちづくり、プランニングサーベイ、都市空間の演出、都市開発プロジェクト、不動産ビジネス、商環境とホテルの企画、エリアマネジメント、コミュニティマネジメント、ファシリティマネジメント
- ②将来の進路 : 街づくりのプロデューサーの育成
都市開発プロデューサー (デベロッパー)、都市プランナー、まちづくりコンサルタント、不動産ビジネスマン (不動産会社)、資産投資マネージャー (金融)、公務員 (街づくり担当) など

【専門領域3 都市のデザイン】

- ①専門科目：社会ニーズに合った環境に優しい、安全で快適な住環境や商環境をデザインする能力の涵養
都市デザイン、建築空間論、インテリアデザインと実務、建築法規、建築史、建築材料、住宅計画、建築構造、リノベーションとコンバージョン、構造力学(1)及び演習、構造力学(2)及び演習、鉄筋コンクリート構造
- ②将来の進路：建築士・住環境や商環境デザイナーの育成
建築士（設計事務所・建設会社）、住宅・商業関連商品開発クリエイター（メーカー）、住宅デザイナー・営業（ハウスメーカー）、インテリアデザイナー・コーディネーター、建築家、建築コンサルタント など

【専門領域4 都市のしくみ】

- ①専門科目：都市を構成する様々な要素を分析し、設計する能力の涵養
都市の環境、都市と交通、都市の財政学、ユニバーサルデザイン、情報社会とくらし、ランドスケープデザイン、都市のインフラ、住まいの構法・生産・流通、住まいと環境、都市計画(2)、環境と設備、都市経営、福祉のまちづくり
- ②将来の進路：街づくりの分析者、コンサルタント、公務員の育成
国家公務員、地方公務員、中央・地方の独立行政法人職員、公益法人職員、建設コンサルタント、建設会社員、鉄道会社・バス会社社員、電力・ガス・通信事業会社社員 など

2) 3・4年次のプロジェクト経験

3年次での「プロジェクト演習」は、専門科目で学んだ知識と演習で身に付けた専門スキルを結びつけ、応用展開するものです。4年次の「卒業研究」ではそれをさらに深化させ、4年間の学習の総仕上げを行います。

これらのプロジェクト実施の母体となる研究室の一覧を以下に掲載します（平成28年4月現在）。

都市のライフスタイル

マーケティング研究室 企業ブランド、商品・サービスブランド、地域性を活かした街、商業集積、特産品等のブランドの開発・育成を中心にマーケティング・マネジメント全般を研究対象とします。

ひとあつめ空間研究室 人をとりまく空間や都市との関係について研究を行います。なぜ人がその空間に惹きつけられるのか、また魅力ある施設や仕掛け、都市の未来像をどう創るか、「ひとあつめと都市」について考えていきます。

まちづくり会計研究室 ビジネスや開発プロジェクトがうまくいくのか。またその成果はどうだったのか。会計数値を通じた分析やシミュレーションの研究をします。会計的な技術だけでなく、経営や都市開発に関わる幅広い知識を学び、未来をイメージする力を身につけます。

都市のマネジメント

コミュニティマネジメント研究室 「コミュニティ形成を通じた生活価値の創造」をテーマに、都市から地方まで多様な地域におけるコミュニティプロジェクトの実践的研究を行います。

エリアマネジメント研究室 豊かな都市生活を持続可能に展開していくために、エリアマネジメントによるまちづくりとまち育ての手法を研究し、よりよい景観や魅力あるパブリックスペースの創出とマネジメントについて考えていきます。

不動産マネジメント研究室 オフィス、住宅、商業など、街並みを構成する不動産にフォーカスをあて、例えば、J-REIT等の不動産投資ビジネスや、不動産と都市やインフラなどとの関わる領域（スマートシティ等）について研究を行っています。

プロジェクトマネジメント研究室 建築や街づくりにおけるプロジェクトマネジメント、すなわち、価値創造に軸足を置いた企画の組み立てと、横断的統括的で効率の良い業務の実行についての研究を進めます。

都市プランニング研究室 既存の街の再生や新しい街区の開発など魅力的な街を創り出すための計画づくりについて都市デザイン、事業実現、市民参加などの視点で実際の街を対象に研究を進めていきます。

都市のデザイン

インテリアプランニング研究室 快適な生活空間を、最新のデジタル技術（CAD）を駆使して、研究・提案し、実際のデザインコンペティションに参加するなどして、実践的なインテリアデザインの研究を行っていきます。

空間デザイン研究室 エクステリアやインテリアデザインという定義を越え、魅力的な都市に繋がる新しい空間デザインの提案や、都市景観のデザイン、コミュニティデザインなどを実務に反映すべく研究を進めていきます。

空間生成研究室 生物や自然界の形態「生成」のように建築や都市をつくることを目指し、「アルゴリズム・デザイン」を学びつつ、建築、そして街・都市は、どうしたらもっとよくできるか、を研究していきます。

都市のしくみ

ユニバーサルデザイン研究室 年齢や性別、障がい、国籍等によらず、誰もが過ごしやすい環境や使いやすい物品のデザインを研究します。色々な人のニーズを知り、それに制度や技術を最適に融合させ、より良い生活環境を創造・提案します。

都市インフラストラクチャー研究室 道路や上下水道等の都市生活を支える上で不可欠な都市のインフラストラクチャーのマネジメントを対象として、計画、整備、維持管理・運営に関しての一連の研究を行っていきます。

都市再生研究室 「都市の公共政策」を研究しています。特に、住民、企業、地権者がそれぞれ思惑で行う諸活動が、都市を良くする方向に自然に導かれていくための「見えないルール」のつくり方を考えます。

住宅生産研究室 建築を商品として捉え、顧客のニーズを把握して構想デザインや機能、性能要求を明らかにし、工業化住宅、建築生産システムについての研究を行っていきます。

3) 少人数クラスのベストケア

10～15名程度の学生を教員1名が担当するクラス担当制を導入しています。学習をはじめ、大学生活全般にわたる個人指導を行います。1年次でのフレッシュャーズゼミ、2・3年次でのキャリアデザインなど、大学生活の始動や進路探索、就職支援に関するプログラムを用意して、学生一人ひとりの興味や能力を把握した上での指導を行ないます。

クラス配属は、1年次～3年次前期は入学時に学籍番号を基準として行い、3年次後期～4年次においては研究内容や進路希望の申請をもとに定員を配慮して研究室ごとに振り分けを行ないます。

①大学生活始動：フレッシュャーズゼミ（1年次）

キャンパスプランの作成

専門教育のための基礎的能力育成

②進路探索：キャリアデザイン（2～3年次前期）

進路選択指導

インターンシップ指導

③就職支援：ゼミでの個人指導（3年次後期～4年次）

エントリー指導

面接指導

就職活動カルテによる指導

4) 情報化社会のビジネススキル

ノートPC必携で基礎から応用まで、情報化社会に不可欠なITスキルを身に付けて社会に出て行きます。

入学時にノートパソコンを購入し、まずコンピュータの基礎スキルを修得します。そして、「空間を創造できる能力」、「コンピュータでデザインする能力」、「情報の収集・分析能力」といった3種類のスキルを習得するため、1・2年次に「空間デザイン演習」、「都市デジタルシミュレーション」、「マーケティングリサーチ演習」の各科目を配置します。

さらに、3年次では「プレゼンテーション」の授業で、社会では不可欠なプレゼンテーション能力を養います。

5) 街における実体験学習

①街観察のフィールドワーク

都市を学ぶ上で、「実物」を観察することが何より大切です。自由が丘や代官山、渋谷など、キャンパスの近くにある人気の街を学びの舞台にして、景観や建築デザイン、環境、ファッションなどの調査を行います。

②海外研修

希望者を対象に、世界の都市を視察し、フィールドサーベイを行う海外研修を予定しています。海外の複数の都市を自分の目で観察し、視野を広げるのが目的で、これまでの実績は以下の通りです。

・「世界の都市」研修—ヨーロッパ編

研修先：イタリア・フランス・イギリス

実施年：H22. 03, H23. 03, H24. 03, H25. 03, H26. 03, H27. 03

・「世界の都市」研修—中国編 [中国都市開発ビジネスインターンシップ]

研修先：上海

実施年：H23. 09

・「世界の都市」研修—アジア編

研修先：シンガポール・ベトナム

実施年：H26. 02, H27. 02, H28. 02

③東京都市大学オーストラリアプログラム (TAP)

オーストラリア、西豪州パースのエディスコワン大学 (ECU) に短期留学しています。

短期留学先：エディスコワン大学 (ECU)

実施年：H28. 2～6

④その他

特別プログラムとして、以下の実体験を行ったこともありました。

・「東北地方ボランティア活動と復興視察プログラム」

研修先：石巻市・女川町・南三陸町など

実施年：H23. 09



区分	科目群	授業科目	必修の別	単位数	週時間数								担当者 (平成28年度現在)
					1年		2年		3年		4年		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
001	人文学系	哲学(1)	G	2	2							SC開講	
002		哲学(2)	G	2		2						SC開講	
003		倫理学(1)		2	2							SC開講	
004		倫理学(2)		2		2						SC開講	
005		倫理学		2		2						YC開講	
006		文化人類学		2		2						SC開講	
007		視覚芸術史(1)	G	2	2							SC開講	
008		視覚芸術史(2)	G	2		2						SC開講	
009		デザイン概論(1)	G	2			2					SC開講	
010		デザイン概論(2)	G	2				2				SC開講	
011		文学	G	2	2							SC開講	
012		日本文学	G	2			2					木内英実	
013		西洋史(1)	G	2	2							SC開講	
014		西洋史(2)	G	2		2						SC開講	
015		民俗学	G	2		2						SC開講	
016		比較文化史	G	2	2	(2)						SC開講	
017		宗教学	G	2	2							SC開講	
018	社会科学系	社会学(1)		2	2							木村豊	
019		社会学(2)		2		2						木村豊	
020		社会学入門		2	2							YC開講	
021		経済学(1)		2	2							伊藤潤平	
022		経済学(2)		2		2						伊藤潤平	
023		日本経済論	G	2					2			YC開講	
024		政治学(1)		2	2							SC開講	
025		政治学(2)		2		2						SC開講	
026		日本の政治	G	2			2					YC開講	
027		国際関係論(1)	G	2	2							中山裕美	
028		国際関係論(2)	G	2		2						中山裕美	
029		日本国憲法		2	2	(2)						SC開講	
030		民法		2		2						SC開講	
031		法学		2	2							SC開講	
032		行政史	G	2	2							SC開講	
033		西洋経済史	G	2		2						SC開講	
034		人文地理学		2	2							SC開講	
035	現代中国論	G	2		2						SC開講		
036	人間科学系	教育学(1)		2	2							SC開講	
037		教育学(2)		2		2						SC開講	
038		スポーツ・健康論		2	2	(2)						SC開講	
039		心理と生理		2	2							SC開講	
040		文化とパーソナリティ		2		2						SC開講	
041		学習と動機づけ		2	2							SC開講	
042		発達と教育		2		2						SC開講	
043		心理学概論		2	2							森山徹	
044		心理学入門		2	2							YC開講	
045		社会とジェンダー		2		2						YC開講	
046		国際化と異文化理解	G	2					2			山中美子	
047		日本文化の伝承	G	2		2						榎本宗白	
048		演劇文化論	G	2					2			小林由利子	
049		地域福祉論		2				2				倉田新	
050		現代の疾病と食生活		2			2					早坂信哉	
051	自然・情報科学系	論理学(1)		2	2							SC開講	
052		論理学(2)		2		2						SC開講	
053		生活とメディア		2			2					松浦李恵	
054		公衆衛生学		2					2			早坂信哉	
055		現代の物理		2			2					YC開講	
056		科学技術と社会		2				2				YC開講	
057	その他	PBLによる産学協働演習		2	2							SC開講	
058		ボランティア(1)		1								信太洋行	
059		ボランティア(2)		1								信太洋行	
060		教養ゼミナール(1)		2	2	(2)	教養ゼミナールと教養特別講義は、各4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。それぞれ4単位を超える同科目の単位は、卒業要件に算入できない。科目詳細は、シラバスを参照すること。					SC開講	
061		教養ゼミナール(2)		2	2	(2)						SC開講	
062		教養特別講義(1)		2	2	(2)						SC/T C開講	
063		教養特別講義(2)		2	2	(2)							

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し、100分を2時間（1コマ）としてカウントします。

単位数の計算もこの原則に基づいて行います（「1-2.単位数」の項参照）。

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成28年度現在)	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
外国語科目	英語科目	Study Skills	○	1	2							出野, 瀬端, 矢崎	064
		Communication Skills(1)	○	1	2							グレコ, 倉持, 瀬端, 岡島	065
		Communication Skills(2)	○	1		2						グレコ, 倉持, 瀬端, 岡島	066
		Reading and Writing(1)	○	1		2						出野, 瀬端, 矢崎	067
		Reading and Writing(2)	○	1			2					丸山令子, 白須洋子	068
		TOEIC Preparation	○	1				2				土肥一夫, 丸山令子, 白須洋子	069
		英語でライティング&プレゼンテーション		2	2	(2)						SCまたはYC開講	070
		アカデミック・イングリッシュ・セミナー		2	2	(2)						SCまたはYC開講	071
		Advanced TOEIC		2	2	(2)						出野由紀子	072
		英語読解力養成		2	2	(2)						SCまたはYC開講	073
		海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)						SCまたはYC開講	074
		英語文法トレーニング		2	2	(2)						SCまたはYC開講	075
		英語発音・聴解トレーニング		2	2	(2)						SCまたはYC開講	076
		キャリア・イングリッシュ		2	2	(2)						SCまたはYC開講	077
		サバイバル・イングリッシュ		2	2	(2)						SCまたはYC開講	078
		ニュースを英語で読む		2	2	(2)						SCまたはYC開講	079
		スポーツで学ぶ英語		2	2	(2)						SCまたはYC開講	080
		映画で学ぶ英語		2	2	(2)						ローマングレコ	081
		文学で学ぶ英語		2	2	(2)						杉本裕代	082
		音楽で学ぶ英語		2	2	(2)						SCまたはYC開講	083
		Cultural Comparison		2	2	(2)						SCまたはYC開講	084
		Modern Society		2	2	(2)						SCまたはYC開講	085
		科学技術英語		2	2	(2)						SCまたはYC開講	086
		外国語特別講義(1)		2	2	(2)						SCまたはYC開講	087
		外国語特別講義(2)		2	2	(2)						SCまたはYC開講	088
	英語以外の外国語科目	ドイツ語(1)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	089
		ドイツ語(2)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	090
		フランス語(1)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	091
		フランス語(2)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	092
		スペイン語(1)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	093
		スペイン語(2)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	094
		イタリア語(1)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	095
		イタリア語(2)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	096
		中国語(1)		1	2	(2)						中川友	097
		中国語(2)		1	2	(2)						中川友	098
		アラビア語(1)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	099
		アラビア語(2)		1	2	(2)						SCまたはYC開講	100
		韓国語(1)		1	2	(2)						長渡陽一	101
		韓国語(2)		1	2	(2)						長渡陽一	102
体育科目	基礎体育(1)		1	2							SC開講	103	
	基礎体育(2)		1		2						SC開講	104	
	応用体育(1) *集中授業あり		1			*2	(*2)				SC開講	105	
	応用体育(2) *集中授業あり		1			*2	(*2)				SC開講	106	

G：国際化（グローバル化）に対応した教養科目

「教養科目」において、「海外の歴史と文化」「我が国の歴史と文化」に関連し、国際化（グローバル化）に対応した教養となる科目に「G」を付しています。

区 分	科 目 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成28年度現在)	
					1 年		2 年		3 年		4 年			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
107	専門基礎科目	基幹科目	マーケティング概論	○	2	2							伊藤裕一	
108			経営学概論	○	2	2							大森寛文	
109			都市計画(1)	○	2	2							明石達生	
110			都市の経済学	○	2		2						宅間文夫	
111		基礎共通科目	統計と分析	△	2	2							上原義子	
112			世界の住まい	△	2	2							岩村和夫	
113			民法と商法	△	2		2						天野聖悦	
114			都市の文化・芸術	△	2		2						上田佳乃, 宮崎俊哉	
115	会計学概論	△	2		2							永江総宜		
116	世界の都市	△	2		2							平本一雄		
117	専門科目	演習領域	コンピュータ演習	○	2	2							西山, 高柳, 諏訪	
118			グラフィックデザイン演習	○	2	2							末繁雄一, 田久保彬, 常橋恵美	
119			まちの観察	○	2			2					末繁雄一	
120			プレゼンテーション	△	2			2					伊藤裕一, 川口英俊	
121			空間デザイン演習(1)	○	3	4							川口英, 高柳, 基, 伊藤, 押尾, 酒井	
122			空間デザイン演習(2)	△	3		4						山根, 川口英, 浅石, 基, 押尾, 佐々木	
123			空間デザイン演習(3)	△	3			4					渡辺誠, 浅石優	
124			都市デジタルシミュレーション(1)	○	3		4						信太, 高柳, 末繁, 河村, 山川	
125			都市デジタルシミュレーション(2)	△	3			4					信太, 高柳, 末繁, 河村	
126			マーケティングリサーチ演習(1)	○	3		4						永江, 宇都, 坂倉, 小松	
127		マーケティングリサーチ演習(2)	△	3			4					永江, 宇都, 坂倉, 小松, 劉		
128		都市のライフスタイル	都市の社会学	△	2		2						坂倉杏介	
129			経営戦略論	△	2				2				未定	
130			ファッション文化		2			2					小沢ちとせ	
131			都市観光計画		2			2					小松史郎	
132			ソーシャルマーケティング		2			2					伊藤裕一	
133			簿記論		2			2					永江総宜	
134			広告コミュニケーション		2				2				京井良彦	
135			ブランド戦略		2				2				伊藤裕一	
136			集客空間論		2				2				川口和英	
137			エリアマーケティング		2					2			未定	
138			マーチャンダイジング		2					2			未定	
139			集客学		2						2		川口和英	
140			トラベルプランニング		2						2		北上真一	
141			都市のマネジメント	都市政策	△	2		2						明石達生
142				プロジェクトマネジメント	△	2					2			山根格
143	住宅と不動産				2			2					小田切利栄	
144	まちの防災			2			2					稲垣景子		
145	参加型まちづくり			2			2					山路清貴		
146	プランニングサーベイ			2				2				末繁雄一		
147	都市空間の演出			2				2				山根格		
148	都市開発プロジェクト			2					2			平本一雄		
149	不動産ビジネス			2						2		未定		
150	商環境とホテルの企画			2					2			山根格		
151	エリアマネジメント		2					2			坂井文, 小林重敬			
152	コミュニティマネジメント		2						2		坂倉杏介			
153	ファシリティマネジメント		2						2		宇都正哲			

注：週時間数の欄に記載されている数字は授業の時間数を表し、100分を2時間（1コマ）としてカウントします。
 単位数の計算もこの原則に基づいて行います（「1-2. 単位数」の項参照）。

区 科 目 分 群	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成27年度現在)	
				1 年		2 年		3 年		4 年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
専 門 科 目	都 市 の デ ザ イ ン	都市デザイン	△	2		2						川口英俊	154
		建築空間論	△	2				2				渡辺誠	155
		インテリアデザインと実務		2			2					高柳英明, 河村容治	156
		建築法規		2			2					信太洋行	157
		建築史		2			2					岩谷洋子	158
		建築材料		2			2					永井香織	159
		住宅計画		2				2				佐々木龍郎	160
		建築構造		2				2				樋渡健	161
		リノベーションとコンバージョン		2					2			吉里裕也	162
		構造力学(1)及び演習		3					4			遠藤龍司	163
		構造力学(2)及び演習		3						4		遠藤龍司	164
		鉄筋コンクリート構造		2						2		遠藤龍司	165
	都 市 の し く み	都市の環境	△	2		2						石井久史	166
		都市と交通	△	2					2			宮本和明	167
		都市の財政学		2			2					大島誠	168
		ユニバーサルデザイン		2			2					西山敏樹	169
		情報社会とくらし		2			2					中村秀治	170
		ランドスケープデザイン		2			2					坂井文	171
		都市のインフラ		2				2				宮本和明	172
		住まいの構法・生産・流通		2				2				信太洋行	173
		住まいと環境		2				2				未定	174
		都市計画(2)		2					2			明石達生	175
		環境と設備		2					2			未定	176
		都市経営		2						2		明石達生	177
		福祉のまちづくり		2						2		西山敏樹	178
	総 合 領 域 1	フレッシューズゼミ	○	1	1	1						永江総宜, 川口和英 他	179
		キャリアデザイン(1)	○	1				2				伊藤裕一 他	180
		キャリアデザイン(2)	○	1					2			伊藤裕一 他	181
		キャリアデザイン(3)	○	1						2		信太洋行 他	182
		キャリアデザイン(4)	○	1							2	信太洋行 他	183
		プロジェクト演習(1)	○	2					4			末繁雄一 他	184
		プロジェクト演習(2)	○	2						4		末繁雄一 他	185
	総 合 領 域 2	海外研修(1)		2								末繁雄一	186
		海外研修(2)		2								山根格	187
		インターンシップ(1)		1								信太洋行	188
		インターンシップ(2)		1								信太洋行	189
		卒業研究	○	6								明石達生 他	190
		まちづくり演習(1)		2								各教員	191
		まちづくり演習(2)		2								各教員	192
		まちづくり演習(3)		2								各教員	193
		特別講義(1)		2								山根格	194
		特別講義(2)		2								末繁雄一	195
		特別講義(3)		2								各教員	196

注 卒業必要単位数は下表のとおりとする。

合 計	1 2 4 単位	以下を含むこと
教養科目	1 0 単位	
外国語科目	6 単位	右記を含むこと ○必修 6 単位
専門基礎科目	1 6 単位	右記を含むこと ○必修 8 単位 △選択必修 8 単位
専門科目	7 8 単位	右記を含むこと ○必修 3 0 単位 △選択必修 1 8 単位 (演習領域 6 単位を含む)

履修要綱

履修要綱は、本学の学則第5章及び第8章に基づき定められたものです。学生諸君はこの要綱を精読し、記載された内容とルールに従って授業を履修してください。

1. 単位

1-1. 単位制度

本学の教育課程は「単位制度」に基づいて編成されています。この単位制度は学修の基本ですので、各自が十分に理解する必要があります。「単位」は履修した科目の学力が一定レベルに達したと認められた場合に与えられるものです。そのためには教室内で授業を受けるだけでは不十分であり、予習、復習、宿題などの「自学自習」を必要とします。

大学の授業は講義、演習、実験、実習及び実技等の方法で行われ、各授業科目の単位数は、学則第18条の基準に従い、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせて45時間として計算されます。本学では講義については、2時間の授業に対して、4時間の自学自習を行わせることを基準にしています。

なお、本学都市生活学部を卒業するためには、4年以上在学して総計124単位以上を修得しなければなりません。

1-2. 単位数

授業の方法によって授業時間に対する自学自習の必要時間が異なりますから、週1時限（2時間）の授業に対して与えられる単位数は次の通りです。（学則第18条参照）

(1) 講義・演習

① 2時間の授業、4時間の自学自習、週1回半期15週では、

$(2 + 4) \times 15 = 90$ 時間 $90 \div 45 = 2$ 単位

② 通年30週の場合：**4単位**

(2) 実験・実習・製図・実技

① 2時間の授業、1時間の自学自習、週1回半期15週では、

$(2 + 1) \times 15 = 45$ 時間 $45 \div 45 = 1$ 単位

ただし、授業時間外の自習によって準備または整理を行う必要のある科目については、その程度に応じて単位数増加してあります。

また、学則第18条の2に基づき、各授業科目の授業は、10週または15週にわたる期間とするものの、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果がある場合、この期間を変更する場合があります。科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合がありますが、詳細は授業時間表で確認してください。

1-3. 単位の授与

各授業科目を履修した者に対して、試験（中間試験その他の評価を含む）によりその成果を判定した上で単位を与えます。この場合の履修とは単位制度に基づくもので、所定の単位を修得するためには必要な時間数の授業を受けていなければならないことは勿論、定められた時間数の自学自習が行われていなければなりません。

なお、履修したが合格点に達せず単位を与えられなかった科目のうち、単位の修得が義務づけられた科目（必修科目）は、次年度以降に低学年の授業時間表に従って再履修しなければなりません。

1-4. 標準履修の目安

学生諸君は、4年次においてはその1/2～2/3の時間が卒業研究に費やされますから、3年次末までには115程度の単位を修得することが望まれます。そのための目安として、**1日に2科目を履修**し、それらが合格すれば、標準の単位数を修得することができます。

2. 授業科目

2-1. 科目の区分

授業科目はその内容により、「教養科目」「外国語科目」「体育科目」「専門基礎科目」「専門科目」に区分されています。それぞれに属する各授業科目については、別ページに掲げる「教育課程表」にすべて記載されているので同表を参照してください。

2-2. 科目の種類

授業科目は必修科目、選択必修科目、および選択科目に分かれます。その違いは次の通りです。

- (1) 必修科目……………必ず履修しなければならない科目（教育課程表中の○印）
- (2) 選択必修科目………学科で指定された科目の中から選択して履修しなければならない科目（教育課程表中の△印）
- (3) 選択科目……………自由に選択して履修できる科目（教育課程表中の無印）

なお、科目の選択は各自の履修上特に慎重な配慮を要するので、選択にあたっては必ず以下の＜3. 履修心得＞の項を参照してください。

3. 履修心得（卒業要件と履修登録上の心得）

3-1. 卒業の要件

本学を卒業するためには4年以上在学して、次の表に従いそれぞれの区分の単位を修得する必要があります。なお、この表は各自の履修の基準になるので、必ず学年始毎に参照し確認するようにしてください。

区 分	卒 業 要 件 (必要最少単位数)
教養科目	10単位
外国語科目	6単位
専門基礎科目	16単位
専門科目	78単位
小 計	110単位
自由選択※ (体育科目を含む)	14単位
合 計	124単位以上

必修科目（○印）6単位を含む。

必修科目（○印）8単位、選択必修科目（△印）から8単位を含む。

必修科目（○印）30単位、選択必修科目（△印）から18単位（うち演習領域6単位）を含む。

※自由選択として、各区分の卒業要件を超える分を合算して14単位以上修得しなければならない。「体育科目」は自由選択に含める。

3-2. 履修科目区分

以下は履修上の科目区分の一覧で、それぞれ必要最少修得単位数が決められています。これに従って履修計画を立ててください。

- (1) **教養科目**： 必要最少単位数は**10単位**です。この中には、「教養ゼミナール」「教養特別講義」をそれぞれ4単位まで算入できます。なお、それぞれ4単位を超えると、卒業要件に算入できない修得単位（卒業要件非加算の特別履修）となります。
また、等々力キャンパスで開講する科目のほか、世田谷キャンパスで開講する科目もありますので、よく確認してください。
- (2) **外国語科目**： 必要最少単位数は**6単位**です。このうち、外国語科目**6単位**の必修科目は必ず履修しなければなりません。（つまり必修科目6単位の修得が、必要最少単位数を充たすことになります。）
- (3) **専門基礎科目**： 必要最少単位数は**16単位**です。このうち、**8単位**の必修科目は必ず履修しなければなりません。また、選択必修科目として**8単位**を修得しなければなりません。

- (4) **専門科目**： 必要最少単位数は**78単位**です。このうち、**30単位**の必修科目は必ず履修しなければなりません。また、選択必修科目として**18単位**（うち演習領域6単位）を修得しなければなりません。
- (5) **自由選択**： 上記4区分の必要最少単位数の小計は110単位となりますが、卒業要件を充たすには、各区分の必要最少単位数を超えた分を合算して14単位以上修得しなければならず、この**14単位**分を「自由選択」とします。これにより、卒業要件は**合計124単位**となります。
- (6) **体育科目**： 「体育科目」区分として履修した単位数は、「自由選択」に含めます。なお、この科目は世田谷キャンパスで開講されます。

3-3. 履修方針の作成

- (1) 学期の始めに当り、「教授要目」を熟読するとともに、その年度の教育課程を充分理解した上で、各自一年間の履修方針を策定してください。
- (2) 当該年度に組まれている授業時間表に従い、必修科目、選択必修科目、選択科目の順に、履修方針に基づき選択した上で、学部履修申告をしなければなりません。
- (3) 自学自習に多くの時間を要する単位制度の下では、授業時間表に組まれている選択科目の全部について履修することは困難です。従って、科目選択に当たっては、クラス担任教員等の助言を受け、無理のないように適切に選択することが必要です。
- (4) 所属学年に組まれている授業科目は、できるだけその学年で修得するよう努力すべきです。次の年度で再履修しようとしても、他の授業時間や試験時間と重複して履修できない場合があるからです。

3-4. 履修登録の流れ

「履修登録」とは、その学期に履修する科目を登録することです。登録手続きはWEB上から指示された期日までに必ず行う必要があります。この手続を経ない科目は、受講の上試験に合格しても単位は与えられません。以下は、履修申告に関する各学期の流れです。

(1) 履修科目の選択・調整期間

学期開始から履修登録までに1～2週間の期間があります。この時間を活用し、前項に従い自分の履修科目を選択し確定します。その際、「学修要覧」「教授要目」等を参考にし、実際に授業を体験するなど十分検討してください。なお、この期間に履修者を調整する科目もあります。履修登録前に履修者を確定する場合もあるので、1週目の授業は特に重要ですから必ず出席してください。

(2) 履修科目の登録

履修登録はWEB上から行います。なお、登録後の履修科目の追加はできません。また、本人の不注意による履修登録の誤りは、すべて自己の責任となりますので、特に慎重な注意が必要です。

他学部や他学科、他大学などの科目を履修する場合には、WEB上での登録ではなく、別途所定用紙（特別履修科目履修申告書など）によって提出します。科目によっては、担当者の許可印を必要とする場合もあります。

なお、必修科目も自動的にその履修が登録されるようなことはありません。すべての科目は所定の手続きにより各自が登録を行う必要があるので十分注意してください。

(3) 履修登録の確認

履修登録の1～2週間後、履修科目が正しく登録できているか否かを確認する機会を設けています。この機会に、登録した科目を履修辞退することができます。

(4) クォーター開講科目の履修登録

科目によってはクォーター開講（前学期・後学期をさらに分割した期間で開講）する場合がありますが、履修登録の手続きについては「前学期」「後学期」として学期ごとに行う必要がありますので注意してください。

3-5. 習熟度別クラス編成・履修免除

英語科目においては、入学後オリエンテーション期間内で実施する基礎学力調査の結果により、習熟度別に編成したクラスを指定する場合や、履修を免除する場合があります。詳細は、別途配布される「授業時間表」の注意事項を参照してください。

3-6. 履修登録単位数の制限

(1) 履修登録単位数の上限

1 学期あたりの履修登録単位数は **24 単位を上限** とします。

なお、通年科目については、単位数に 1 / 2 を乗じた値を 1 学期分の単位数とします。

(2) 履修登録単位数の上限対象外とする科目

「集中講義系科目」「学外実習系科目」「卒業要件非加算科目」については、履修登録単位数の制限内に含みません。具体的な科目については、事務局に確認して下さい。

(3) 成績優秀者等への履修登録単位数の上限緩和

各学期末に発表される成績において、GPA で 2.8 以上の成績優秀者等においては、履修登録単位数の上限を緩和し、**28 単位を上限** とします。

(4) 特例措置による上限緩和

履修登録単位数の上限を超えて履修登録したい場合は、別途申請により認める場合があります。ただし、履修登録した科目に対して 2 科目以上修得できなかった場合、次学期以降の当申請（上限を超えた履修登録）は一切認められません。

3-7. 履修登録上の注意事項

(1) 履修登録方法

履修登録は、WEB 上から行います。他学部、他大学などの科目を履修する場合は、WEB 上での登録ではなく別途所定用紙による登録が必要です（前項参照）。詳しくは、事務局に照会してください。

(2) 再履修とは

過去に不合格になった科目を、再度履修する場合の履修を「再履修」として取り扱います。

(3) 合格科目の再履修

既に合格（単位修得）した科目を再度履修することはできません。（すなわち、一度履修して合格した科目の成績評価の変更はできません。）

(4) 高学年配当科目の履修

自己の学年よりも高学年に配当されている科目は履修できません。

(5) 履修者指定のある科目

科目によっては、所属学科・クラス・班などによる履修者指定をしている場合があります。また、授業開始前の希望者事前審査や、授業開始時の出席状況により、受講者指定や履修者の人数制限をする科目もあります。

(6) 2 年次以降の履修登録注意事項

2 年次以降に履修登録する際には、以下の事項に注意してください。

- ・履修する科目は初めての履修、再履修を問わず、すべて登録する。
- ・低学年の必修科目と所属学年に配当されている必修科目の授業時間が重複している場合は、低学年の科目を優先して履修する。

4. 履修心得（科目履修上の心得）

4-1. 出席の定義

「出席」とは、授業の開始時間から終了時間まで受講していることであり、それ以外は、原則として「出席」と認められません。欠席はもちろんのこと、どんなやむをえない事情の遅刻や早退も、授業を受講していない以上は「出席」にはならないということです。

(1) 欠席

事務局には「欠席届」(短日の欠席により授業科目ごとに提示する書式と、インフルエンザなど長期欠席の際にまとめて提示する書式があります)や「課外活動の公式[試合・行事]参加証明書」という書類がありますが、これらは授業に「欠席」したことの理由を明示する書類に過ぎません。

欠席の際に提出を義務づけられているものではありませんし、このような書類を提出したことによって、「出席」扱いになるわけでもありません。

ただし、当該担当教員が欠席理由を鑑みた上で、当該授業科目の学修目標を達成するための自主的課題を指示するなどの配慮がされることがあります。これらの措置は担当教員の裁量に委ねられます。

(2) 遅刻・早退

授業の開始時間から終了時間まで受講していないものは「出席」とは認められません。担当教員によっては「遅刻」や「早退」などの記録をとる場合がありますが、「出席」扱いにするためのものではありません。その取扱いは担当教員に確認して下さい。

なお、20分以上の遅刻・早退、および入退室等の時間が明確に確認できない場合は欠席として扱われます。

4-2. 出席管理

等々力キャンパスで開講する多くの科目では、出席管理の方法として、学生証のICカード機能を利用した「出席管理システム」を利用しています。各自でリーダーが読み取ったことを必ず確認してください。

この他、出席カードの利用、呼び上げ確認など、出席確認の方法は担当教員の裁量に委ねられています。学生は、科目ごと、担当教員からの指示による方法で、出席の確認を受けてください。

なお、代返等是不正行為であり、処分の対象となります。

4-3. 出席に関する各種対応

前述までの基本的なルールを前提に、「出席」のルールは担当教員の裁量に委ねられる部分もあります。また、出席に関する具体的な対応についてまとめました。

(1) 対象となる科目

この書面に記された「出席」に関するルールと取り扱いは、都市生活学部の学生が、都市生活学部で開講する科目を受講する際において適用されます。

(2) 学生証を紛失して、出席管理システムに登録できない場合

学生は、学生証携帯の義務があり、学生証がないと本来は受講そのものができません。したがって学生証紛失の場合は、自己責任により、当該科目の出席は登録されないことになります。

ただし、緊急的な措置として「(3)学生証を忘れた場合」により、緊急対応をすることが可能です。

なお、学生証の再発行は、事務局で所定の手続き(有料:3000円)を行えば、交付されます。

お渡し日については、別途事務局にて確認してください。

(3) 学生証を忘れた場合

学生は、学生証携帯の義務があり、学生証がないと本来は受講そのものができません。したがって学生証不携帯の場合は、自己責任により、当該科目の出席は登録されないことになります。

ただし、緊急的な措置として、事務局で発行する「受験のための証明書(1通200円)」を、学生証の代替措置とすることを認めます。1科目ごとに1枚の証明書が必要です。

交付手続きには5分ほどかかりますので、余裕をもって手配してください。

また、担当教員に提出した時間が出席登録の時間になります。授業終了時に渡した場合は既に無効になるわけですから十分に注意してください。

(4) 電車が遅れて遅刻したことによる「遅延証明書」

通学電車等の日常的な遅延には特に注意し、普段から余裕をもった生活行動をとるように心がけてください。

したがって、原則として「遅延証明書」は無効であり、提出する必要はありません。

ただし、ストライキ等による全面運休や事故等による長時間にわたる遅延で、20分以上の遅刻により「欠席」になる場合は、「欠席届」に「遅延証明書」を添付しても構いません。あくまでも欠席であることには変わりありませんが、担当教員により、自主的課題の指示などがあれば従ってください。

4-4. 授業に関連する伝達事項

授業に関連して、担当教員から受講学生に伝達事項がある場合、以下の方法があります。科目ごとに運用が異なりますので、授業中の指示に注意するほか、日常的に各伝達方法を確認するようにしてください。

なお、最も主たる伝達方法は掲示（学内の掲示板・電子掲示板）としています。

(1) 掲示板

学内の掲示板・電子掲示板は、最も主たる伝達方法となりますので日常的に確認してください。

(2) WEB

WEB上の「ポータルサイト」における「お知らせ」や、「授業支援システム」における「WEB掲示板」に伝達事項を掲載することがあります。

(3) 電子メール

特に個人別の伝達事項の場合は、大学から学生に付与された「g（学生番号）@tcu.ac.jp」に限り連絡します。携帯の電子メールアドレスは対象外となります。

4-5. 課題提出

授業では適宜、課題提出を求める場合があります。提出方法として、WEB上の「授業支援システム」や、電子メール（添付ファイル）等を利用する場合がありますので指示に従ってください。

(1) 授業時間内提出・提出ポスト

授業時間内に課題提出をする場合や、研究室や事務局の課題提出ポストへ提出するよう指示する場合があります。

(2) WEB

WEB上の「授業支援システム」から課題提出を指示する場合があります。

(3) 電子メール

電子メールからの課題提出は、大学から学生に付与された「g（学生番号）@tcu.ac.jp」のアドレスを利用してください。それ以外のアドレスについて、特に携帯電話からのメールなどは提出者情報の確認ができず、提出や連絡が認められない場合があります。

5. 授業時間

各時限の授業時間は次の通りです。

時 限	1	2	3	4	5
時 間	9:00～10:40	10:50～12:30	13:20～15:00	15:10～16:50	17:00～18:40

6. 休講措置

学校行事や、担当教員の都合などにより授業を休講とする場合があります。その場合は補講措置、代行措置を含め、事前に掲示板等にて連絡します。

なお、休講の掲示やその他特段に指示がなく、授業開始時間から30分以上遅れても授業が行われない場合は、休講の扱いとします。

7. ストライキ等により交通機関が運行停止した場合及び台風による気象警報発表時の授業措置

7-1. 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止した場合

以下の状況に応じて段階的な措置をとります。

1	午前6時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前9時までにスト等による運行停止が解除された場合	→	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時までにスト等による運行停止が解除されない場合	→	全日休講とする

7-2. 東急電鉄（大井町線）がストライキ等により運行を停止しない場合

JR東日本やその他の電車がストライキ等により運行を停止しても、授業は平常どおり行います。

7-3. 台風による暴風警報が発表された場合

東京地方（23区西部、23区東部）及び神奈川県東部に暴風警報が発表されている場合、以下の状況に応じて段階的な措置をとります。

1	午前6時までに暴風警報が解除された場合	→	平常どおりの授業を行う
2	午前6時から午前9時までの間に暴風警報が解除された場合	→	午前は休講とし、午後は平常どおりの授業を行う
3	午前9時以降に暴風警報が解除された場合	→	全日休講とする

なお、暴風警報が発表されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することが想定されます。状況に応じて休講の措置をとることもあるので、大学発表の情報を必ず確認してください。また、授業開始以後に暴風警報が発表された場合は、学内放送等で授業措置の情報を発信します。

7-4. その他

その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります。

そのような場合、直ちに大学ホームページ及びポータルサイトへ掲載するので、各自で確認してください。

8. 科目試験

8-1. 試験の内容

定期試験は、全学一斉に期間を指定して行う試験で、前期末の「前期末試験」と、学年末の「学年末試験」があります。また、クォーター開講科目の場合は、クォーター終了時点で「前期前半末試験」「後期前半末試験」という定期試験を設定しています。

なお、担当教員により、これらの指定期間とは別に、授業期間中にこれらの試験に準ずる試験を行う場合がある他、中間試験その他を行うことがあります。また、レポート、論文等をもって試験に替える場合もあります。

受験に際しては次の事項に留意してください。

- (1) 試験科目、試験の日時および場所は予め掲示します（その際に受験についての注意事項を併せて掲示します）。
- (2) 次の何れかに該当する者は試験を受けることはできません。たとえ受験しても無効とします。
 - a. 科目の履修登録をしていない者
 - b. 学生証を所持しない者
 - c. 試験開始後20分以上遅刻した者
- (3) 試験当日学生証の携帯をしていない者は、事務局で確認の後それに代わる証明書を事前に発行してもらい、その上で試験を受けることができます。

- (4) 受験の際は学生証を必ず机の上に置かなければなりません。
- (5) 試験開始後 30 分以内の退場は許可しません。
- (6) 病気・負傷、登校途中の事故又はやむを得ない正当な事由により受験できなかった場合は、欠席届に診断書又は証明するものを添えて事務局に提出しなければなりません。その場合に限り、再試験を受けることができます。

8-2. 定期試験の試験時間について

定期試験の試験時間は以下の通りです。なお、各時限 60 分を原則としており、平常の授業時間（100 分）と異なるので注意してください。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9:00～10:00	10:20～11:20	11:40～12:40	13:40～14:40	15:00～16:00	16:20～17:20	17:40～18:40

8-3. 試験の際に不正を行った者に対する処分

本学部学生が、試験（単位互換により、本学部以外での受験を含む）において不正行為を行った場合、「学則」および「学生の懲戒に関する規程」に従って処分の手続きを行い、「当該学期に実施する全ての科目試験の評価を不可（0 点）にします」とともに、「10 日以上停学または退学」とします。

- (1) 試験には、大学が当該年度の学年暦で定めた定期試験期間中に行う試験の他、担当教員が授業期間中に各学期末試験または学年末試験として行う試験や、クォーター開講科目で学期途中に実施する試験も対象とし、これらのすべてを「当該学期に実施する全ての科目試験」として取り扱います。
- (2) 停学の期間は在学年数に算入します。
- (3) 処分の内容は決定後公示します。
- (4) 停学の執行開始は、処分を決定した日の翌日からとします。

注 1：下記のような場合を不正行為と断定します。

- (a) 代人に受験させた場合
- (b) 他人のために答案、メモ等を書いたり、他人に答案、メモ等を書いてもらったりしている場合
- (c) 持ち込みを許可されていない教科書、参考書、ノート、メモ等を参照したと認められる場合
- (d) 他人の答案を見たとして認められる場合
- (e) 他人に自己の答案を見せたと認められる場合
- (f) 言語、動作をもって互いに連絡した場合
- (g) 教科書、参考書、ノート等を参照してよい場合に、これらを互いに貸借した場合
- (h) その他、試験監督者および出題者が不正と判断する行為（例えばメモ、ノートを机の上においている場合や所持している場合等）を行った場合

注 2：不正行為は試験場で指摘された場合に限らず、採点の際に発見された場合も同様の扱いを受けます。

注 3：処分を受けると当該試験期間に実施される科目試験の全ての科目が不合格となるので、ほぼ確実に 1 年以上の卒業延期となります。

9. 科目成績

9-1. 成績の発表

- (1) 科目試験の結果は、8 月下旬（クォーター開講を含む前期配当科目）と 3 月下旬（クォーター開講を含む後期配当科目および通年配当科目）の 2 回発表します。
- (2) 成績は発表と同時に効力を発生するものとします。
- (3) 卒業の要件を充たして卒業資格を認定された者は、3 月に本学内に掲示します。

9-2. 成績の評価

学業成績の評価は、秀（100点～90点）、優（89点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点以下）の5段階に分け、秀、優、良、可を合格、不可を不合格とします。

9-3. 成績順位の算定方法

成績順位は、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）方式により算定されます。計算式は以下の通りで、算出された評定値の大きい順に順位がつけられます。

$$\frac{(\text{秀の科目単位数} \times \text{GP4}) + (\text{優} \times 3) + (\text{良} \times 2) + (\text{可} \times 1) + (\text{不可} \times 0)}{\text{履修単位数}} = \text{評定値}$$

- (1) 対象となる科目は「卒業要件対象科目」とします。（教職課程や特別履修で卒業要件非加算科目は対象外）
- (2) 評定値算出には不合格科目も対象とします。
- (3) 不合格科目を再履修した場合は、最新評価結果に替えて算出します。
- (4) 前期終了時に評定値を算出する場合、当該年度に履修中の通年科目については、分母（履修単位数）に含めません。
- (5) 評定値が同じ場合には、分子が大きいものを上位とします。分子も同じ場合には同順とします。

10. 学年末の指導

10-1. 単位修得状況による指導

- (1) **1年次前期終了時に修得単位が10単位未満**の者に対しては、学修意欲の促進と成績向上を目的として、クラス担任が面談等の個別指導を行います。また、**1年次終了時に修得単位が20単位未満**の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、勉学意志の確認や進路変更を含めた今後の進め方に関する相談および指導を行います。
なお、いずれの場合も上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含みません。また、途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応します。
- (2) **2年次終了時に修得単位が40単位未満**の者に対しては、クラス担任が面談等を行い、生活状況や進路変更などに関する話し合いを行う他、その後についてより強い指導を行います。
なお、上記修得単位数には卒業要件非加算の単位数を含みません。また、途中で休学がある場合はその期間を考慮して対応します。

10-2. GPAによる指導

各年次終了時に、GPAが0.6未満の者には、退学勧告を行います。

11. 卒業研究の着手条件

4年次に、各指導教員の研究室に所属する「卒業研究」に着手（履修）するには、下記条件を満たしていることを必要とします。

この条件を満たしていない者は着手（履修）が認められず、卒業は延期されることになります。

- ① 100単位以上修得していること。

なお、卒業要件とならない科目の修得単位数は含みません。

- ② 3年以上在学していること。

なお、休学期間は在学期間を含みません。

注意：「卒業研究」は学年始めの4月からはじまります。3年終了時までに休学期間があると、それが1年未満であっても、着手は次の学年始めの4月まで延期されることになります。

12. 修業年限と卒業延期

12-1. 修業年限

本学を卒業するためには4年以上在学しなければなりません。4年を越えて在学し、なお卒業できない場合でも、在学年数は8年を超えることはできません。ただし、休学中の期間は在学期間に算入されません。

12-2. 卒業延期

4年を越えて在学する場合は、4月30日までに所定の学費を納入しなければなりません。履修登録手続きについては前年度までの方法と同じです。

なお、卒業延期者に対しては、科目試験については学期末毎に、卒業試験（卒業研究）については2カ月毎に審査が行われます。その審査の結果、卒業に必要な条件が満足されれば、前者については学期末に、後者については2カ月毎の月末に卒業資格が認定されます。

13. 他学部・他大学科目の履修

科目の5区分（3-2. 参照）に属さない、他学部（工学部・知識工学部・環境学部・メディア情報学部・人間科学部）あるいは他大学（単位互換提携をしている大学に限る）の科目を、「特別履修科目」として履修することができます。ただし、「特別履修科目」は、「卒業要件単位数」に加算される場合と、加算されない場合がありますので、事務局に確認してください。卒業要件単位数に加算される場合は、原則として「自由選択」の14単位内に含めることができます。

履修モデル

1. 進路・職業のイメージ

将来どの分野に進むのか、どのような職業につき、どのような企業に就職するのか。進路・職業を考えて、履修科目を選択する必要があります。本学部には①都市のライフスタイル、②都市のマネジメント、③都市のデザイン、④都市のしくみの4つの領域があります。下の表は、この4分野のもとに小分類を設け、卒業後の進路・職業のイメージを示したものです。もちろん、都市生活に関する産業、職業は多様で、これら以外の進路・就職先も十分考えられますので、これに縛られる必要はありません。あくまで例示したものとして参考にしてください。

<都市のライフスタイル>

大分類	小分類（職業、職種の例）
流通・広告・メーカー関係	デパートやブランド・ショップ等の仕入・商品構成・展示・営業・管理担当， 広告会社の企画・営業担当，メーカーの市場調査・営業担当，等。
文化・出版関係	文化施設（美術館，劇場，コンサートホール等）の企画，運営担当， 出版社・インターネット関連企業等の企画，編集，営業開発担当，等。
交通・観光関係	鉄道・航空会社等・旅行代理店・ホテル等の企画・商品開発・営業・企画・接客，等。

<都市のマネジメント>

大分類	小分類（職業、職種の例）
都市開発，マネジメント関係	都市開発会社社員，商業開発会社社員，商業プロパティマネジメント会社社員，建設会社社員，ビルマネジメント会社社員，鉄道会社開発部門社員，等。
都市計画，都市行政	地方公務員，独立行政法人，公益法人職員，まちづくりコンサルタント，等。
不動産仲介・住宅産業	宅地建物取引士，不動産仲介会社社員，ハウスメーカー社員，等。
不動産投資，金融関係	資産投資マネージャー，信託銀行などの銀行員，不動産鑑定法人職員，等。

<都市のデザイン>

大分類	小分類（職業、職種の例）
住宅産業関係	インテリアコーディネーター，ハウスメーカー設計・営業担当，住宅設備機器メーカー社員，開発プランナー，住宅関連独立行政法人，住宅不動産会社社員，等。
建築設計関係	建築家，建築士，インテリアプランナー，商業施設士，インテリアデザイナー， 建築設計事務所所員，ディスプレイ会社社員，インテリアデザイン事務所所員，等。
建設産業関係	建設会社設計・施工部社員，建設資材・設備機器メーカー社員，建築士，施工管理技士，等。

<都市のしくみ>

大分類	小分類（職業、職種の例）
都市計画，都市行政関係	地方公務員（都道府県・市区町村の職員），国家公務員，中央・地方の独立行政法人， 公益法人職員，等。
建設産業・コンサルタント関係	建設コンサルタント会社社員，社会調査会社社員，建設会社社員， 建設資材・設備機器メーカー社員，等。
インフラ関連事業関係	鉄道会社・バス会社社員，公営企業職員，電力・ガス・通信事業会社社員，等。

2. 進路・職業と履修モデル

履修モデルは、専門科目を選択する際に、それぞれの進路・職業において必要、有用な科目をそれぞれの分類にあわせて作成してあります。履修科目を選択する際の参考にしてください。もちろん、このモデルだけが全てではありません。様々な組み合わせがあるでしょう。興味と将来のことを十分考えて、科目を選択しましょう。なお、履修要綱3-1卒業の要件に示されているように、卒業にはそれぞれの区分に従い合計124単位以上を修得する必要があります。

- (1) 都市のライフスタイルの履修モデル 66ページ (2) 都市のマネジメントの履修モデル 67ページ
(3) 都市のデザインの履修モデル 68ページ (4) 都市のしくみの履修モデル 69ページ

専門領域の科目一覧

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目
経営学概論							(基幹科目)
都市計画(Ⅰ)							(基礎共通科目)
統計と分析	民法と商法						
世界の住まい	都市の文化・芸術						
	会計学概論						
	世界の都市						
コンピュータ演習		まちの観察	プレゼンテーション				専門科目
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(Ⅰ)		都市デジタルシミュレーション(Ⅱ)				(演習領域)
空間デザイン演習(Ⅰ)	空間デザイン演習(Ⅱ)		空間デザイン演習(Ⅲ)				
	マーケティングリサーチ演習(Ⅰ)		マーケティングリサーチ演習(Ⅱ)				
	都市の社会学			経営戦略論			(ライフスタイル)
		ファッション文化	広告コミュニケーション	エリアマーケティング	集客学		
		都市観光計画	ブランド戦略	マーチャンダイジング	トラベルプランニング		
		ソーシャルマーケティング	集客空間論				
		簿記論					
	都市政策			プロジェクトマネジメント			(マネジメント)
		住宅と不動産	プランニングサーベイ	都市開発プロジェクト	不動産ビジネス		
		まちの防災	都市空間の演出	商環境とホテルの企画	コミュニティマネジメント		
		参加型まちづくり		エリアマネジメント	ファシリティマネジメント		
	都市デザイン		建築空間論				(デザイン)
		インテリアデザインと繕	住宅計画	リノベーションとコンバージョン	鉄筋コンクリート構造		
		建築法規	建築構造	構造力学(Ⅰ)及び演習	構造力学(Ⅱ)及び演習		
		建築史					
		建築材料					
	都市の環境			都市と交通			(しくみ)
		都市の財政学	都市のインフラ	都市計画(Ⅱ)	都市経営		
		ユニバーサルデザイン	住まいの構造・生産・流通	環境と設備	福祉のまちづくり		
		情報社会とくらし	住まいと環境				
		ランドスケープデザイン					
フレッシュャーズゼミ		キャリアデザイン(Ⅰ)	キャリアデザイン(Ⅱ)	キャリアデザイン(Ⅲ)	キャリアデザイン(Ⅳ)		(総合領域)
				プロジェクト演習(Ⅰ)	プロジェクト演習(Ⅱ)	卒業研究	
以下は学年配当なし							
まちづくり演習(Ⅰ)	まちづくり演習(Ⅱ)	まちづくり演習(Ⅲ)	インターンシップ(Ⅰ)	インターンシップ(Ⅱ)			
特別講義(Ⅰ)	特別講義(Ⅱ)	特別講義(Ⅲ)	海外研修(Ⅰ)	海外研修(Ⅱ)			
凡例	必修科目	選択必修科目					

専門領域履修モデル：都市のライフスタイル

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目 (基幹科目)
経営学概論							
都市計画(Ⅰ)							
統計と分析	民法と商法						(基礎共通科目)
世界の住まい							
	会計学概論						
コンピュータ演習		まちの観察	プレゼンテーション				専門科目 (演習領域)
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(Ⅰ)		都市デジタルシミュレーション(Ⅱ)				
空間デザイン演習(Ⅰ)							
	マーケティングリサーチ演習(Ⅰ)		マーケティングリサーチ演習(Ⅱ)				
	都市の社会学		経営戦略論				(ライフスタイル)
		ファッション文化	広告コミュニケーション	エリアマーケティング	集客学		
		都市観光計画	ブランド戦略	マーチャンダイジング	トラベルプランニング		
		ソーシャルマーケティング	集客空間論				
		簿記論					
	都市政策		プロジェクトマネジメント				(マネジメント)
		住宅と不動産		不動産ビジネス			
			都市空間の演出	商環境とホテルの企画	コミュニティマネジメント		
	都市デザイン						(デザイン)
	都市の環境						(しくみ)
		都市の財政学	都市のインフラ				
		ユニバーサルデザイン	住まいの構造・生産・流通				
フレッシュアーズゼミ		キャリアデザイン(Ⅰ)	キャリアデザイン(Ⅱ)	キャリアデザイン(Ⅲ)	キャリアデザイン(Ⅳ)		(総合領域)
				プロジェクト演習(Ⅰ)	プロジェクト演習(Ⅱ)	卒業研究	
以下は学年配当なし							
まちづくり演習(Ⅰ)	まちづくり演習(Ⅱ)	まちづくり演習(Ⅲ)	インターンシップ(Ⅰ)	インターンシップ(Ⅱ)			
特別講義(Ⅰ)	特別講義(Ⅱ)	特別講義(Ⅲ)	海外研修(Ⅰ)	海外研修(Ⅱ)			
凡例	必修科目	選択必修科目					

専門領域履修モデル：都市のマネジメント

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目 (基幹科目)
経営学概論							
都市計画(1)							
統計と分析	民法と商法						(基礎共通科目)
世界の住まい	都市の文化・芸術						
	世界の都市						
コンピュータ演習		まちの観察	プレゼンテーション				専門科目 (演習領域)
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(1)						
空間デザイン演習(1)	空間デザイン演習(2)						
	マーケティングリサーチ演習(1)		マーケティングリサーチ演習(2)				
	都市の社会学			経営戦略論			(ライフスタイル)
			広告コミュニケーション				
		都市観光計画	ブランド戦略				
	都市政策			プロジェクトマネジメント			(マネジメント)
		住宅と不動産	プランニングサーベイ	都市開発プロジェクト	不動産ビジネス		
		まちの防災	都市空間の演出	商環境とホテルの企画	コミュニティマネジメント		
		参加型まちづくり		エリアマネジメント	ファシリティマネジメント		
	都市デザイン		建築空間論				(デザイン)
				リノベーションとコンバージョン			
		建築史					
	都市の環境			都市と交通			(しくみ)
		都市の財政学		都市計画(2)	都市経営		
		情報社会とくらし					
フレッシュャーズゼミ		キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)	キャリアデザイン(3)	キャリアデザイン(4)		(総合領域)
				プロジェクト演習(1)	プロジェクト演習(2)	卒業研究	
以下は学年配当なし							
まちづくり演習(1)	まちづくり演習(2)	まちづくり演習(3)	インターンシップ(1)	インターンシップ(2)			
特別講義(1)	特別講義(2)	特別講義(3)	海外研修(1)	海外研修(2)			
凡例	必修科目	選択必修科目					

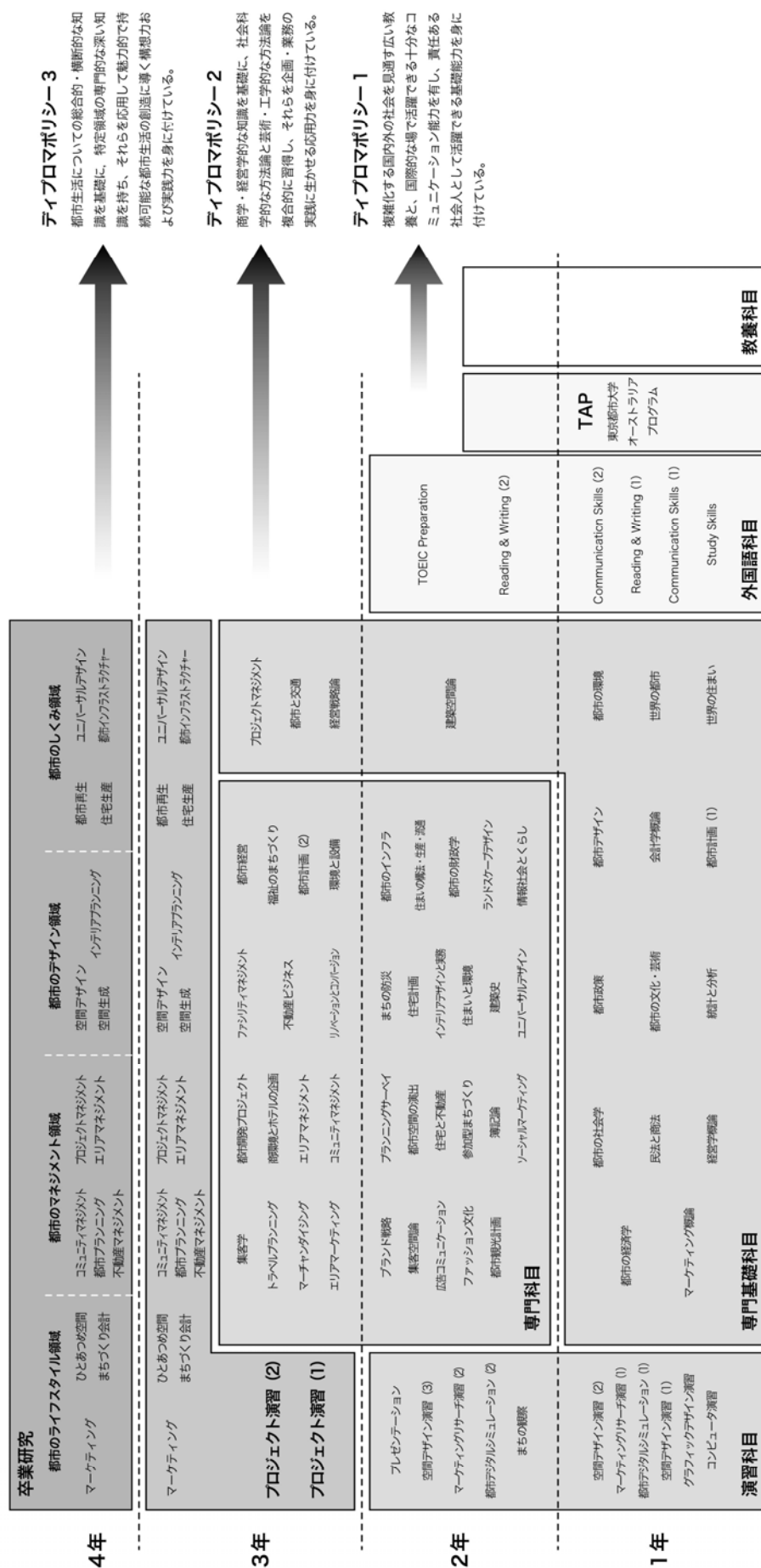
専門領域履修モデル：都市のデザイン

資格の履修科目は「資格」の頁を参照すること

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目 (基幹科目)
経営学概論							
都市計画(Ⅰ)							(基礎共通科目)
統計と分析							
世界の住まい	都市の文化・芸術						
	世界の都市						
コンピュータ演習		まちの観察	プレゼンテーション				専門科目 (演習領域)
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(Ⅰ)		都市デジタルシミュレーション(Ⅱ)				
空間デザイン演習(Ⅰ)	空間デザイン演習(Ⅱ)		空間デザイン演習(Ⅲ)				
	マーケティングリサーチ演習(Ⅰ)						
	都市の社会学			経営戦略論			(ライフスタイル)
			ブランド戦略				
	都市政策			プロジェクトマネジメント			(マネジメント)
		都市空間の演出	商環境とホテルの企画				
			エリアマネジメント				
	都市デザイン	建築空間論					(デザイン)
	インテリアデザインと繕	住宅計画	リノベーションとコンバージョン	鉄筋コンクリート構造			
	建築法規	建築構造	構造力学(Ⅰ)及び演習	構造力学(Ⅱ)及び演習			
	建築史						
	建築材料						
	都市の環境		都市と交通				(しくみ)
		住まいの構造・生産・流通	環境と設備				
	情報社会とくらし	住まいと環境					
フレッシュャーズゼミ		キャリアデザイン(Ⅰ)	キャリアデザイン(Ⅱ)	キャリアデザイン(Ⅲ)	キャリアデザイン(Ⅳ)		(総合領域)
			プロジェクト演習(Ⅰ)	プロジェクト演習(Ⅱ)	卒業研究		
以下は学年配当なし							
まちづくり演習(Ⅰ)	まちづくり演習(Ⅱ)	まちづくり演習(Ⅲ)	インターンシップ(Ⅰ)	インターンシップ(Ⅱ)			
特別講義(Ⅰ)	特別講義(Ⅱ)	特別講義(Ⅲ)	海外研修(Ⅰ)	海外研修(Ⅱ)			
凡例	必修科目	選択必修科目					

専門領域履修モデル：都市のしくみ

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
マーケティング概論	都市の経済学						専門基礎科目 (基幹科目)
経営学概論							
都市計画(1)							
統計と分析							(基礎共通科目)
	都市の文化・芸術						
	会計学概論						
	世界の都市						
コンピュータ演習		まちの観察	プレゼンテーション				専門科目 (演習領域)
グラフィックデザイン演習	都市デジタルシミュレーション(1)						
空間デザイン演習(1)	空間デザイン演習(2)						
	マーケティングリサーチ演習(1)		マーケティングリサーチ演習(2)				
	都市の社会学						(ライフスタイル)
		ソーシャルマーケティング					
		簿記論					
	都市政策			プロジェクトマネジメント			(マネジメント)
		まちの防災					
				エリアマネジメント			
	都市デザイン						(デザイン)
		住宅計画					
		建築史					
	都市の環境			都市と交通			(しくみ)
		都市の財政学	都市のインフラ	都市計画(2)	都市経営		
		ユニバーサルデザイン	住まいの構造・生産・流通	環境と設備	福祉のまちづくり		
		情報社会とくらし	住まいと環境				
		ランドスケープデザイン					
フレッシュャーズゼミ		キャリアデザイン(1)	キャリアデザイン(2)	キャリアデザイン(3)	キャリアデザイン(4)		(総合領域)
				プロジェクト演習(1)	プロジェクト演習(2)	卒業研究	
以下は学年配当なし							
まちづくり演習(1)	まちづくり演習(2)	まちづくり演習(3)	インターンシップ(1)	インターンシップ(2)			
特別講義(1)	特別講義(2)	特別講義(3)	海外研修(1)	海外研修(2)			
凡例	必修科目	選択必修科目					



資格

資格には、国家試験によって得られる「国家資格」をはじめ、各種団体の実施による「公的資格」「民間資格」などがあります。資格取得に際しては、

- (1) 所定単位を修得して卒業すれば、無試験で資格を取得できるもの（実務・研修・講習を含む。）
- (2) 所定の単位を修得して卒業すれば、試験の受験資格を取得できるもの
- (3) 単位の修得や学歴が資格と関係ないもの

などがあります。

また、資格ではありませんが、公務員試験は単位の修得とは関係がありません。ただし、資格・試験が単位修得と関係がなくても、試験科目と関係のある科目がありますので、本要覧に履修を推奨する科目として示していますので、参考にしてください。なお、試験日、試験科目や受験資格など詳細は、それぞれの試験要項などでよく調べてください。

<総括表>

	資格名	類型	資格と単位修得との関係
1	一級建築士、二級建築士、木造建築士	(2)	所定単位修得により受験資格
2	インテリアコーディネーター	(3)	関係なし
3	商業施設士補	(1)	所定単位と講習により資格取得
4	商業施設士	(2)	士補の資格があると、士の学科試験免除／実技試験あり
5	福祉住環境コーディネーター（2級）	(3)	関係なし
6	宅地建物取引士	(3)	関係なし
7	公務員試験	(3)	関係なし

資格・試験ごとの関係科目

1. 一級建築士、二級建築士、木造建築士

(1) 資格の種類

国家資格

(2) 建築士の区分

- ・一級建築士：国土交通大臣の免許を受け、すべての建築物の設計、工事監理等の業務を行うことができる。
- ・二級建築士：都道府県知事の免許を受け、建築物の構造や規模等の制限を受け、規定された建築物の設計、工事監理等の業務を行うことができる。
- ・木造建築士：都道府県知事の免許を受け、木造の建築物の設計、工事監理等の業務を行うことができる。

(3) 受験資格

国土交通省が指定する建築に関する科目（指定科目）を修めて卒業後、所定の実務経験により建築士試験受験資格が与えられる。

一級建築士試験および二級・木造建築士試験の受験に必要な単位数および実務経験の年数は、次表の通りである。

なお、二級建築士が一級建築士試験を受験する場合は、建築実務の経験が4年以上必要とされる。

指定科目（⑤参照）		一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
必修科目	建築設計製図	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
	建築計画	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位
	建築環境工学	2単位	2単位	2単位			
	建築設備	2単位	2単位	2単位	6単位	6単位	6単位
	構造力学	4単位	4単位	4単位			
	建築一般構造	3単位	3単位	3単位			
	建築材料	2単位	2単位	2単位			
	建築生産	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
必修科目の総単位数(a)		30単位	30単位	30単位	20単位	20単位	20単位
必修科目以外の総単位数(b)		適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a) + (b)		60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
建築実務の経験		2年	3年	4年	0年	1年	2年

(4) 試験科目

試験科目は、次表の通りである。

	一級建築士試験	二級・木造建築士試験
学科の試験	学科Ⅰ 建築計画、建築積算等 (20問) 学科Ⅱ 環境工学、建築設備等 (20問) 学科Ⅲ 建築法規等 (30問) 学科Ⅳ 構造力学、建築一般構造、 建築材料等 (30問) 学科Ⅴ 建築施工等 (25問) 5科目合計 125問、四枝択一	学科Ⅰ 建築計画 (25問) 学科Ⅱ 建築法規 (25問) 学科Ⅲ 建築構造 (25問) ・二級建築士：構造計算および建築材料を含む ・木造建築士：建築材料を含む 学科Ⅳ 建築施工 (25問) 4科目合計 100問、五枝択一
設計製図の試験	あらかじめ公表された設計課題に対する計画、設計の知識および技能に加え、記述、図的表現等による構造および設備計画の基本的な能力も求められる。	あらかじめ公表された設計課題に対する計画、設計の知識および技能を求められる。

(5) 指定科目

本学都市生活学部都市生活学科は、平成21年度以来、建築士指定科目が認められた課程である。平成28年度入学者については、平成29年3月までに変更申請による認可を得る予定であり、下表の指定科目を予定している。認可後の詳細は平成29年4月にあらためて周知する。

学校・課程名 東京都市大学 都市生活学部 都市生活学科

指定科目の分類 (単位数)		指定科目に該当する科目 (予定)				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数 時間数	備 考
①建築設計製図 実務0～2年 (5単位以上) 実務3～5年 (3単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	都市デジタルシミュレーション(1)	1年後期	必修	3	
		都市デジタルシミュレーション(2)	2年後期	選択	3	
		空間デザイン演習(1)	1年前期	必修	3	
		空間デザイン演習(2)	1年後期	選択	3	
		空間デザイン演習(3)	2年後期	選択	3	
②～④ 建築計画、 建築環境工学 又は建築設備 実務0～2年 (7単位以上) 実務3～5年 (2単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	建築史	2年前期	選択	2	
		ユニバーサルデザイン	2年前期	選択	2	
		都市デザイン	1年後期	選択	2	
		住宅計画	2年後期	選択	2	
		建築空間論	2年後期	選択	2	
		商環境とホテルの企画	3年前期	選択	2	
		リノベーションとコンバージョン	3年前期	選択	2	
		コミュニティマネジメント	3年後期	選択	2	
	③建築環境工学 (2単位以上)	住まいと環境	2年後期	選択	2	
	④建築設備 (2単位以上)	環境と設備	3年前期	選択	2	

指定科目の分類 (単位数)		指定科目に該当する科目				
二級・木造	一級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数 時間数	備 考
⑤～⑦ 構造力学, 建築一般構造又 は建築材料 実務 0～2 年 (6 単位以上) 実務 3～5 年 (3 単位以上)	⑤構造力学 (4 単位以上)	構造力学(1) 及び演習	3 年前期	選択	3	
		構造力学(2) 及び演習	3 年後期	選択	3	
	⑥建築一般構造 (3 単位以上)	建築構造	2 年後期	選択	2	
		鉄筋コンクリート構造	3 年後期	選択	2	
		※木質構造	※建築学科開講科目		2	他学部履修
	⑦建築材料 (2 単位以上)	建築材料	2 年前期	選択	2	
⑧建築生産 (1 単位以上)	⑧建築生産 (2 単位以上)	住まいの構法・生産・流通	2 年後期	選択	2	
⑨建築法規 (1 単位以上)	⑨建築法規 (1 単位以上)	建築法規	2 年前期	選択	2	
⑩その他	⑩その他	世界の住まい	1 年前期	選択	2	
		世界の都市	1 年後期	選択	2	
		都市の環境	1 年後期	選択	2	
		住宅と不動産	2 年前期	選択	2	
		都市空間の演出	2 年後期	選択	2	
		まちの防災	2 年前期	選択	2	
		インテリアデザインと実務	2 年前期	選択	2	
		都市計画(2)	3 年前期	選択	2	
		都市開発プロジェクト	3 年前期	選択	2	
		福祉のまちづくり	3 年後期	選択	2	
		参加型まちづくり	2 年前期	選択	2	
		ファシリティマネジメント	3 年後期	選択	2	
		都市計画(1)	1 年前期	必修	2	
		都市政策	1 年後期	選択	2	
一級建築士試験の受験に必要な単位数は、 建築実務の経験 2 年：上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計 30 単位を含め、合計 60 単位以上 建築実務の経験 3 年：同 合計 50 単位以上 建築実務の経験 4 年：同 合計 40 単位以上						
二級・木造建築士試験の受験に必要な単位数は、 建築実務の経験 0 年：上表①～⑨までの各区分の要件を充たした計 20 単位を含め、合計 40 単位以上 建築実務の経験 1 年：同 合計 30 単位以上 建築実務の経験 2 年：同 合計 20 単位以上						

注意 1：工学部建築学科で受講を認められている指定科目以外の科目を建築学科で受講しても、都市生活学科の指定科目としては認められない。

注意 2：「構造力学(1)及び演習」「構造力学(2)及び演習」を履修する場合は、高校の数学および物理（特に力学）を理解している必要がある。

2. インテリアコーディネーター

- (1) 資格の種類
社団法人インテリア産業協会が認定する公的資格
- (2) 役割
住む人にとって快適な住空間を作るために適切な提案・助言を行うプロフェッショナル。インテリア（家具、ファブリックス、照明器具、住宅設備等）に関する幅広い商品知識を持ち、インテリア計画や商品選択のアドバイスなどを行なう。
- (3) 受験資格
単位修得と関係なし
- (4) 試験科目
1 次試験 学科（マークシートによる択一式・160 分）
2 次試験 論文試験・プレゼンテーション試験（記述式・180 分）
- (5) 試験のために必要とする科目（**太字科目**は必ず履修すること）
「空間デザイン演習(1)」**「空間デザイン演習(2)」**「都市デジタルシミュレーション(1)」
「都市デジタルシミュレーション(2)」**「ユニバーサルデザイン」**「住宅計画」**「インテリアデザインと実務」**
「住まいと環境」**「建築法規」**「環境と設備」**「建築構造」**「**建築材料**」

3. 商業施設士補

4. 商業施設士

- (1) 資格の種類
・「社団法人 商業施設技術団体連合会」が認定する公的資格
・（社）日本インテリアデザイナー協会、（社）日本ディスプレイ業団体連合会など 10 団体の推薦資格
- (2) 資格の目的・特性
・商業施設の企画、空間構成、設計、制作施工監理を行うのに必要な専門知識と技術を有すると認める技術者に「商業施設士」の称号を付与し、プロの育成を推進する。
・商業の従事者、専門技術者が持つことのできる現状唯一の資格。
- (3) 試験内容
・学科試験：商業施設と技術に関する共通問題（学科試験受験者必須）、選択問題（生活と商業、企画と計画、施設と設計、監理と施工の 4 科目のうち 2 科目）
・構想表現（実技）試験：文章表現または図案表現
- (4) 受験資格
・学科試験＋実技試験：満 20 歳以上で下表の実技試験受験資格に該当の者
・実技試験のみ：下表の実技試験受験資格に該当する者
《実技試験・受験資格一覧表》

	最終卒業学校または資格	実務経験年数	
		商業施設関連課程卒	左記以外の課程卒
学歴＋実務の場合	大学・短期大学	卒業後 1 年以上	卒業後 2 年以上
資格保有者の場合	一級・二級・木造建築士 インテリアプランナー 再開発プランナー 中小企業診断士 一級販売士 インテリアコーディネーター 商業施設士補	0 年	

(5) 商業施設士補資格と認定に関するメリット

- ・商業施設士補は、認定校の学生で、指定する認定課程の各科目の単位を取得しているという要件を満たす者に対して付与する資格（科目単位認定及び講習受講による）。商業施設に関する知識を習得した証となり、商業や街づくりを志す者に有利な資格。
- ・商業施設士補は商業施設士資格試験の学科試験が免除となる。

(6) 商業施設士補指定科目

本学都市生活学部都市生活学科は、商業施設士補の受験資格認定課程となっている。下表「区分・科目」の各要件に対して、「充当する教科目」を充足することで、資格の申請及び講習受講を経て資格取得をすることができる。

東京都市大学 都市生活学部 都市生活学科
商業施設士補 資格認定課程 教科カリキュラム

区分・科目			充当する教科目	単位数
区分	必須単位	科目		
商業一般	4 単位以上	商業一般に関する科目	マーケティング概論 (1 年・前期)	2
			都市の経済学 (1 年・後期)	2
			経営学概論 (1 年・前期)	2
			会計学概論 (1 年・後期)	2
			経営戦略論 (3 年・前期)	2
商業施設構成計画	10 単位以上	商業施設の企画	都市の環境 (1 年・後期)	2
		商業施設に係わる法規と安全計画	ユニバーサルデザイン (2 年・前期)	2
		商業施設の計画	ブランド戦略 (2 年・後期)	2
		商業施設の展示・装置計画	都市デザイン (1 年・後期)	2
		商業施設の設計	都市計画(1) (1 年・前期)	2
		以上に関する科目	都市空間の演出 (2 年・後期)	2
			都市観光計画 (2 年・前期)	2
			商環境とホテルの企画 (3 年・前期)	2
			都市開発プロジェクト (3 年・前期)	2
工 建 事 築 監 一 理 般 ・ 施 工 及 び	4 単位以上	建築一般に関する科目	建築史 (2 年・前期)	2
		及び	住まいの構法・生産・流通 (2 年・後期)	2
		商空間の工事監理に関する科目	建築空間論 (2 年・後期)	2
			住まいと環境 (2 年・後期)	2
			建築構造 (2 年・後期)	2
			インテリアデザインと実務 (2 年・前期)	2
			リノベーションとコンバージョン (3 年・前期)	2
			建築材料 (2 年・前期)	2
			福祉のまちづくり (3 年・後期)	2
			建築法規 (2 年・前期)	2
			環境と設備 (3 年・前期)	2
設計製図	12 単位以上	商業施設の設計製図に関する科目	空間デザイン演習(1) (1 年・前期)	3
			空間デザイン演習(2) (1 年・後期)	3
			空間デザイン演習(3) (2 年・後期)	3
			都市デジタルシミュレーション (1) (1 年・後期)	3
			都市デジタルシミュレーション (2) (2 年・後期)	3

※各区分をバランスよく修得するために、**太字科目**の履修を推奨する。

5. 福祉住環境コーディネーター（2級）

- (1) 資格の種類
東京商工会議所が認定する公的資格
- (2) 目的
高齢者や障害者に対して住みよい住環境を提案するアドバイザーを目指す。医療・福祉・建築について体系的で幅広い知識を身につけ、各種の専門職と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを提示する。
- (3) 主な業務
介護保険制度下での住宅改修に係わるケアマネジャーとの連携
福祉施策、福祉・保険サービスなどの情報提供
福祉用具、介護用品から家具までの選択と利用法のアドバイス
バリアフリー住宅への新築、建て替え、リフォームにおけるコーディネート
- (4) 受験資格
単位修得と関係なし
- (5) 出題内容（公式テキストより出題）
 - ・高齢者、障害者を取り巻く社会環境と住環境
 - ・リハビリテーションと自立支援
 - ・高齢者・障害者の心身の特性
 - ・福祉用具
 - ・福祉住環境整備とケアマネジメント
 - ・建築図面の読み方、建築関連法規、建築構造の基礎知識
- (6) 試験のために履修を推奨する科目

A：推奨科目（資格試験の内容に対応した科目）
「ユニバーサルデザイン」

B：有益科目（資格試験に関連する科目／上記科目とあわせて受講することが望ましい）
「インテリアデザインと実務」「空間デザイン演習（1）」「住まいと環境」「建築材料」「建築法規」

6. 宅地建物取引士

- (1) 資格の種類
国家資格
- (2) 資格の意義
不動産取引業に欠かせない資格。事務所ごとに、業務に従事する者5名に1人以上の専任の主任者の設置義務があり、宅地建物取引業者（一般にいう不動産会社）の相手方に対して、宅地又は建物の売買、交換又は貸借の契約が成立するまでの間に、重要事項説明などの不動産取引業務に従事する。
- (3) 試験分野
権利関係（財産法など）、宅建業法、法令上の制限（都市計画法、建築基準法など）、税・価格の評定、土地・建物、需給・実務
- (4) 受験資格
単位修得と関係なし
- (5) 試験のために履修を推奨する科目
「民法」「都市計画（1）」「都市計画（2）」「建築法規」「住宅と不動産」「不動産ビジネス」「簿記論」「会計学概論」等

7. 公務員試験

(1) 公務員という職業

公務員とは、国や地方公共団体の機関に勤務する職員のことです。「全体の奉仕者」（憲法第 15 条）と言われるように日々の仕事そのものが社会貢献であることに特徴があります。公務員の仕事の分野は社会のあらゆる側面に関わるほど多岐に渡るが、とくに地方公共団体（都道府県や市町村）が行う「まちづくり行政」の分野は、都市生活学部の学生にとって専門科目で学習する内容ととても関わりが深く、教育課程表において「都市のしくみ」や「都市のマネジメント」に分類されている科目を中心に多くの科目を学修すれば、まちづくり行政の職務分野の感覚が自然に身についたものになる。

(2) 資格の種類

公務員の採用は、職務に適する能力を持った者を公平な基準によって選抜するため、公務員採用試験に合格した者のうちから行われる。公務員試験には種々の試験区分があるが、以下の試験が大学卒業者（卒業見込み者を含む）が受験する一般的な試験区分である。

- ・国家公務員総合職（省庁の幹部職員候補者の採用試験）
- ・国家公務員一般職（省庁の中堅職員又は出先機関の幹部職員候補者の採用試験）
- ・地方上級公務員（都道府県と市区町村、採用試験はそれぞれの地方公共団体ごとに実施）

(3) 職種

公務員には職種があり、大きくは事務職、技術職、専門職に大別され、採用試験の区分が異なり、採用後の主たるポストや異動範囲が異なっている。技術職はさらに土木職、建築職、機械職などに分かれ、事務職も行政機関によって一般事務職、社会福祉職などに分かれている場合がある。この他、専門職（資格・免許職）として保育士、栄養士、司書などがある。また、警察官、消防士、交通局職員などは別途の採用試験による。

(4) 試験科目

国、各々の地方公共団体、さらに職種によって異なるが、基本的には一次試験（多肢択一型）、二次試験（記述式の試験）および面接試験の順に進む。一次試験は、一般に出題数が多く、出題範囲が非常に幅広い。例えば、教養試験（択一式 40～50 問。内容は一般知能（文章読解と数的処理）及び一般知識（社会・人文・自然科学および時事・社会事情）と専門試験（択一式 40 問程度。事務系の場合は憲法、民法、行政法、政治学、経済学、社会学、会計学、経営学、国際関係など）という場合が多い。詳しくは、過去の出題例の問題集が書店に並んでいるので、進路として公務員を検討している者は、試験時間を設定して自宅で模擬試験をやってみることをお勧めする。

(5) 資格の種類

単位修得と関係なし。なお、都市生活学部の学生は通常は事務職を受験するが、建築職、土木職でも受験できる。

(6) 試験のために履修を推奨する科目

公務員試験は非常に幅広い分野から出題されるため、これだけをマスターしておけばといった特定の科目というものはないが、日頃から社会や経済に関心を持つとともに、人文・社会科学系の科目を広く受講しておくことをお勧めする。例えば、以下の科目がある。

「民法」「都市政策」「都市経営」「簿記論」「会計学概論」「都市の財政学」「マーケティング概論」「経営学概論」「経営戦略論」「日本国憲法」「法学」「社会学（１）」「社会学（２）」「政治学（１）」「政治学（２）」「国際関係論（１）」「国際関係論（２）」等

8. 建築施工管理技士

(1) 資格の種類

国家資格（国土交通省）

(2) 建築施工管理技士の効用

- ・一般建設業、特定建設業の許可基準の一つである営業所ごとに置く専任の技術者、建設工事の現場に置く主任技術者及び監理技術者の有資格者として認めらる。
- ・経営事項審査における技術力の評価において、計上する技術者数にカウントされる。

施工技術の指導的技術者として社会的に高い評価を受けることになる。

(3) 建築施工管理技士の区分

- ・ 1 級建築施工管理技士：特定建設業の営業所の専任技術者および監理技術者となり得る国家資格。
- ・ 2 級建築施工管理技士：一般建設業の営業所の専任技術者および主任技術者となり得る国家資格。2 級は、建築・躯体・仕上げの種別に細分される。

(4) 受験資格

現在、都市生活学部都市生活学科は受験資格の環境改善のため、建築施工管理技術検定の指定学科認定に向けた準備を進めている。指定学科以外の場合、受験資格を取得するためには、1 級の場合は卒業後 4 年 6 ヶ月以上、2 級の場合卒業後 1 年 6 ヶ月以上の実務経験年数が必要となる。今後、指定学科に認定された場合、1 級の場合は卒業後 3 年以上、2 級の場合卒業後 1 年以上の実務経験年数に短縮される。

東京都市大学オーストラリアプログラム（TAP）

TOKYO CITY UNIVERSITY AUSTRALIA PROGRAM 【通称 TAP】



1. TAPが目指す人材像

都市大の伝統である実践的な専門力を有した国際人がTAPの目指す人材像です。
「英語で学び、英語で考え、英語で議論する」を達成目標とします。

2. TAPの目標

TAPは、1年次の準備教育と2年次の5か月間の留学を合わせた2年間に亘る本学独自の国際人育成プログラムです。このプログラムを通じて、国際的な視野とコミュニケーション能力を持った、時代に柔軟に対応できる人材を育てます。留学先の西オーストラリア州は、アジア、ヨーロッパ、アフリカなどのさまざまな国の出身者が暮らす多様性に富んだ州であり、このような恵まれた環境の中で、学生は国際人としてグローバルに活躍するために語学力と異文化を理解する力を磨きながら、自主性や自立心を高めます。

3. プログラム概要

1年次の準備教育として、語学準備講座と留学準備研修を提供します。2年次の5か月間は、西オーストラリア州パース近郊にあるエディスコワン大学（以下ECU）に留学し、英語と教養科目を学びます。

(1) 参加対象学部学科・募集定員・派遣期間（平成28年度入学者）

工学部 全8学科	定員80名	サイクルB	2017年8月～12月
知識工学部 情報科学科+自然科学科	定員15名		
環境学部 環境創生学科	定員15名	サイクルA	2017年2月～6月
環境学部 環境マネジメント学科	定員10名	サイクルB	2017年8月～12月
メディア情報学部 社会メディア学科	定員15名	サイクルA	2017年2月～6月
メディア情報学部 情報システム学科	定員5名	サイクルB	2017年8月～12月
都市生活学部 都市生活学科	定員90名	サイクルA	2017年2月～6月
人間科学部 児童学科	定員2名		

(2) 派遣先

エディスコワン大学（オーストラリア連邦西オーストラリア州パース）

(3) 参加費用

- 90万円 ・準備教育、航空運賃、学生寮、教材費、査証取得費用などを含みます。
- ・支払い時期については、募集説明会時に詳細を説明します。

4. プログラム内容

1. 準備教育 < TAP in Japan >

2年に亘る日本での準備教育とオーストラリアでの体験を通しての国際人育成プログラムがTAPの魅力です。留学前の準備教育では、語学準備講座と留学準備研修の2つのプログラムが提供されます。

1-1. 語学準備講座 < Preparation for English >

出発までに、TOEIC550点以上の取得を目指し、ネイティブスピーカーによるレッスンを週5日、オーストラリア留学に備えて合計100回のレッスンを受けます。レッスンは授業期間中の空き時間に行われ、その内容は「読む・書く・聞く・話す」の4技能の習得に加え、プレゼンテーションスキルなども磨きます。

1-2. 留学準備研修 < Global Personnel Training in Japan >

国際人として成長するための準備として、異文化理解やコミュニケーション能力を高めるためのプログラムを提供します。研修会は、原則月1回開催予定です。その内容は、ゲストスピーカーによる講演会、留学経験を活かすためのキャリアガイダンス、危機管理セミナーなどに加え、異文化理解のためのグループワークなども行います。また、現地で日本文化を紹介するための勉強会なども企画しています。

2. オーストラリア留学 < Study Abroad at ECU >

1 年次終了の 2 月から（サイクル A），または，2 年次の 8 月から（サイクル B），約 5 か月間 ECU に留学します。ECU では最初の 9 週間キャンパス内の語学学校で他国の留学生とともに英語のスキルを上げるためのクラスに参加します。その後の 7 週間は国際人として必要な教養を身につけるための科目を学びます。

ECU における授業科目

英語科目 （9 週間） English language Education	Academic English (1)	3 単位
	Academic English (2)	3 単位
	Academic English (3)	3 単位
	Academic English (4)	3 単位
	Academic English (5)	1 単位
教養科目 （7 週間） General Education	Collaborative Design	2 単位
	Social, Cultural and Media Studies	2 単位
	International Relations	2 単位
	Urban Movement and Analysis ※1	2 単位

※1 都市生活学部独自科目

3. 現地での過ごし方

留学中は ECU キャンパス内にある学生寮に滞在します。約 5 か月の長期滞在のメリットを生かし，現地学生や他国の留学生と交流を深めることができます。また，現地では，ECU の学生団体主催のイベントや寮主催のイベントに参加するなど充実したアクティビティを体験することも可能です。さらに，TAP 参加者対象のアクティブプログラム事業（Let's be Active in TAP（以下 LBA））を利用した自発的な活動により，多くの現地での交流の機会を得ることができます。

4. 帰国後の過ごし方

留学前及び留学後は，TOEIC テストを受験することとしており，自分がどれだけ成長したかを確認することができます。帰国後，3 年生になると，海外インターンシッププログラム，協定大学への交換留学及び各学部学科主催の海外フィールドワーク研修などにチャレンジする機会があります。そのためにも，TAP では，語学力の向上を目指して努力してください。

5. TAP の参加方法

1 年次 4 月の入学オリエンテーション期間中に，TAP 参加募集説明会を開催します。その説明内容をよく理解した上で参加を検討して下さい。参加を希望する場合は，4 月初旬から中旬までの募集期間の間に，各キャンパス事務取扱窓口にて，申し込みをして下さい。TAP は定員 90 名の選抜制ですので，その結果は，申し込み締め切り日の翌週に，窓口及びポータルサイトで発表され，参加が認められましたら，所定の手続きを行い，準備講座に参加して下さい。

6. 奨学金制度

学校法人五島育英会「夢に翼を奨学金」より，TAP に対して次の奨学金制度があります。

(1) TAP アワード

参加人数の上位 20 % の学生に奨学金が給費されます。この奨学金は，語学準備講座の成績，TAP に参加し ECU で修得した成績，留学後の TOEIC テストなど大学が指定した英語能力テストの成績及び出席状況などを基に総合的に審査した結果，成績上位 20 % の以内の人物優秀なものに対して奨学金を給費します（帰国後の給費となります）。

(2) LBA サポート

豪州留学中の学生（個人又はグループ）による自発的な事業（LBA）に対して，審査の結果採択された場合に奨学金を給費します。



※内容は一部変更になる場合があります。

科目概要

教養科目

哲学(1)

001

Philosophy(1)

「政治学」や「心理学」といった学問は、学問名自体が研究対象を大まかに指し示していますが、「哲学」はそうではありません（「哲学」の「哲」はけっして研究対象を示しているわけではない）。では、いったい哲学の「哲」は何を意味するのでしょうか。また哲学はそもそも何を研究する学問なのでしょうか。前期の哲学の講義では、この根本的な問いに対する答えを、西洋哲学の源流である古代ギリシャ思想に遡りつつ探り出してゆきます。

哲学(2)

002

Philosophy(2)

このシラバスを書いている「私」は「大野」ですが、だからといって「私」を「大野」と規定することはできません。そんなことをすれば、「私」と自らを名指す人は何十億といるため）世界は「大野」で溢れかえってしまうからです。では「私」とはどうとらえるべきなのでしょう。

後期の講義では、この問いに対する解答を、主にデカルトの思索を手掛かりにしながら探し求めてゆきます。

倫理学(1)

003

Ethics(1)

倫理学は、哲学の一分野であり、人と人との間に生成する価値、規範、善悪などを考える学問である。

私と他者、そして両者を架橋する言葉の問題を中心に講義する。

倫理学(2)

004

Ethics(2)

バイオメディカル・エシックス(生命医学倫理)を講義する。

生命が問われる現場では価値観・倫理観が激しく対立する。

生命の問題を医学・医療関係者に任せきりにせず、自らの問いとして考えてみよう。

倫理学

005

Ethics

古来、哲学者たちは「善／悪とは何か?」、「いかに行為すべきか?」という倫理的・道徳的問題を扱ってきた。こうした問題は、私たちが生きていく上で多かれ少なかれ問わざるを得ない問題である。しかし近年は、科学技術の発達により、さらに高度に枝分かれし専門化した文

脈においてこうした問題が問われるようになってきた。こうした時代の要請に応える学問分野として登場してきたのが応用倫理学である。この授業では、その下位領域としての環境倫理学と情報倫理学を扱う。

文化人類学

006

Cultural Anthropology

文化人類学は文化を「ものさし」としながら、人類が持つ共通点と差異を見出そうとしてきました。本授業では人類学者の視点の取り方を、誤解や思い込みをも含んだ形で映像、文章などを通して追体験していくことで、人類学という学問の歩みをとともに踏み固めるとともに、現代人類学の模索にまで踏み込んでみたいと思います。

視覚芸術史(1)

007

History of Visual Arts(1)

絵画と彫刻が美術の全てではない。建築やデザインも美術の範疇に含まれる。厳密に美術の範囲を規定することにそれほど意味はない。しかし「芸術とは何か」という問いには、真摯に向き合わなければならない。本講義はこうした姿勢を培うことを目的とする。

視覚芸術史(2)

008

History of Visual Arts(2)

17 世紀の西洋社会における科学革命によって「近代主義」がはじまり、それによって 18 世紀の産業革命が起こり、芸術の分野がそれを自覚するのは 19 世紀の半ばといわれている。新しい絵画は印象主義より始まる。本講義では、印象主義以降の絵画、建築、デザインを扱う。

デザイン概論(1)

009

Introduction to Design:Theory and History(1)

「デザインとは何か」という問いの一つの解答を導けるよう本講義を行ないたい。そのため機能と形態の関わりを中心として、デザインという言葉あまり広くとりすぎないよう「もの」に即して考察していく。本講義を履修するにあたり視覚芸術史(1)(2)を履修済みのこと。

デザイン概論(2)

010

Introduction to Design:Theory and History(2)

本講義は「デザイン概論(1)」と関連し、もののデザインについて講義していく。特に、ここでは「日本再発見」というテーマで、日本のデザインに着目し、伝統的なものから現代のものまでを見ていきたい。デザインは、社会の動向と無関係ではないため、時事に即した問題についても随時とりあげる。

文学	011
Literature	
本授業では英国と米国の代表的な文学作品を紹介しながら、その根底にある物語のあり方を検討する。古代の神話や民話の主人公にも共通するよく利用される物語の枠組みに着目する。ルネッサンス時代の演劇作品から19世紀、20世紀初頭へと歴史の流れの中で人間は何を考え、いかに行動して世界を変えたのか。映像と資料を使いながら、現代に生きる私たちの視点から考察を行う。	
日本文学	012
Japanese Literature	
古今東西の文学作品から、現代にも通じるものを選び、文学の意義とその鑑賞の方法を知る。また、幅広く奥の深い文学の世界を探索するために、文学のジャンル、作家群、文学批評についても知る。	
西洋史(1)	013
European History(1)	
古代ローマから中世末期に至るまでの西洋史を概観する。その際、都市構造の変化を縦軸に、各時代の社会状況を横軸に据えながら、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また『グリム童話』などのポピュラーな話を素材にしながら、その背後に隠された時代状況を読み解く。	
西洋史(2)	014
European History(2)	
ルネサンス以降の西洋史を近代まで概観する。都市構造の変化を縦軸に据えながら、各時代の社会状況を横軸に据えて、時代的推移を多面的に眺められるようにする。また飲み物やレジャーなど日常的なものを素材にしながら、それと当時の世界情勢との関係も読み解く。	
民俗学	015
Folklore Studies	
「一日・一年・一生」の民俗学	
日本民俗学は日本という地域を主な対象に、人々の生活を大きなスパンで眺めてきました。その中で、特に大事にしてきたのが日常、つまり「当たり前の生活」でした。本科目では、人々の生活感覚に繋がる三つの異なる時間幅としての「一日」「一年」「一生」を軸に、民俗学が注目してきた人々の「当たり前の生活」を、皆さん自身の現在に繋げながら理解を深めていきます。	
比較文化史	016
Comparative Cultural History	
Large cities in Japan today look much like large	

cities in the US and Europe. There is no question that modern day Japan has been greatly influenced by the history and culture of the west. And in many regards, the resultant similarities are apparent. However, in the experience of this lecturer, at a fundamental level no two cultures are more different than Japan and the US. Based on that personal experience, this class will examine several aspects whereby the cultural history of Japan and the US differ and consider possible implications for the role of Japan in the future development of global society.

宗教学 017

Religious Studies

三大一神教を中心に、世界で主要な宗教の教義、思想、実践について学ぶ。また、宗教に関する国際問題について学び、宗教が現代社会において果たす役割について考える。

社会学(1) 018

Sociology(1)

社会の中で生きる私たちにとって、「社会」は聞き慣れた言葉であるが、それが何であるかを説明するのは難しい。社会学は、そのような掴みどころのない「社会」について記述・分析しようと試みる学問であり、そのためそれは、私たちがもっている社会への眼差しである「常識」について問い直すものとなる。そこで本授業では、まず「社会」を捉えるための基本概念について解説し、それから現代社会をめぐる多様なトピックを取り上げながら社会学的な検討を行っていく。

社会学(2) 019

Sociology(2)

社会の中で生きる私たちにとって、「社会」は聞き慣れた言葉であるが、それが何であるかを説明するのは難しい。社会学は、そのような掴みどころのない「社会」について記述・分析しようと試みる学問であり、そのためそれは、私たちがもっている社会への眼差しである「常識」について問い直すものとなる。そこで本授業では、まず「社会」を捉えるための基本概念について解説し、それから現代社会をめぐる多様なトピックを取り上げながら社会学的な検討を行っていく。

社会学入門 020

Introduction to Sociology

社会学入門では、社会学で培われてきた基本的な考えかたを学ぶことで、私たちが生きる社会のしくみを読み解

いていくための基礎体力をつけることを目的とする。社会は個人の存在なくしてはなりたないが、単なる個人の集まりでもない。私たちは社会によって拘束されているが、社会を変えることも不可能ではない。このようなジレンマをひとつひとつ解きほぐしていくことで、社会の「なりたち」が見えてくる。社会のなりたちを理解することで、私たちが生きる社会への見通しをよくしていく。社会学入門とは、そんな講義である。

経済学(1)

021

Economics(1)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのミクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

経済学(2)

022

Economics(2)

経済を把握する際に必要となる基礎的な学問領域はミクロ経済学とマクロ経済学に分けられます。本科目では、それらのうちのマクロ経済学を学習していきます。近代経済学は経済事象をモデル化して実際の事象を説明していく学問です。本科目で経済事象モデルを説明する際には、数式による説明は極力避け、図式による説明を中心にして直観的な理解ができるよう講義していきます。また本科目では経済用語が多く出てくるので、適宜その用語の意味について解説していきます。

日本経済論

023

Japanese Economy and Economics

日本経済の現状と課題、およびそれを示す主要指標を学ぶ。最初に日本経済の現状と課題および歴史を概観し問題意識を高める。経済政策の枠組みを学んだあと、財政、金融、地域、企業、雇用、エネルギー、環境などの分野別考察を行い、最後に全体をまとめる。

政治学(1)

024

Political Science(1)

政治とは、私たち自身が当事者であるさまざまな問題を共同で解決しようとする営みである。人間の自由な活動は日々新たな問題を生み出す。政治学はそうした問題を理性的に考え、解決や判断を行うための道具箱であると同時に、政治それ自体を批判的に理解するための手段で

ある。本講義ではまず、政治学の方法および基礎概念を簡潔に解説する。次に、現代政治学の基本問題のいくつかを取り上げ、その歴史的な経緯と現状を検討してゆく。

政治学(2)

025

Political Science(2)

哲学者たちは古来より政治という営みの本質について、またその在るべき姿について考察してきた。政治とは結局のところ権力者同士の闘争のことであるのか、それとも市民の自由な善き生が開花する場なのか。政府はどのような目的のもとで設立され、その権力行使の限界はどのように画定されるべきか。政治学の目的は、政治という人間の営為を分析・理解する一方で、政治の現実を変革する可能性を示すことにある。本講義は政治学の基本的諸問題を、それらの問題を提起した古典の文献の講読を通じて検討してゆく。時事的問題についても適宜取り上げ、コメントシートを用いて受講者と討論する。

日本の政治

026

Modern Politics in Japan

1945年の連合国の占領から今日までの日本の政治の歴史をいくつかの時代に区切り、それぞれの時代に見られた政治の特徴と政治運営の仕組みを解説する。

国際関係論(1)

027

International Relations(1)

国家は政治や経済、安全保障などさまざまな領域において外国との間で互いに利害関係を調整し、複雑な国際関係を築いている。本講義では国際関係の歴史を振り返りながら、国家が果たす役割について理解し、国家を介して我々が国際社会といかにつながっているのかについて考察する。

また本講義では新聞記事やニュースで取り上げられた事件を取りあげながら、その背後にある国際関係をめぐる様々な問題についても解説する予定である。

国際関係論(2)

028

International Relations(2)

戦後の日本外交、特に、日米関係、日露(日ソ)関係、日台・日中関係、日韓・日朝関係に絞って概説し、現在の日本外交が直面している問題点について講義する。

日本国憲法

029

the Constitution of Japan

憲法は、日常生活で意識される機会は多くはないが、国家の基本法であり非常に重要である。本講義では、国家の基本法である憲法の全体像を学ぶ。憲法についてより深く理解するために、まず、法と歴史について概観する。

そのうえで、憲法とは何か、その意義および成り立ち、憲法の基本原理、国家の統治機構の枠組み（司法権、行政権、立法権）、人権（精神的自由権、経済的自由権、社会権等）について、条文および判例を中心に学習する。必要に応じて、基本的な法律用語の意味についても説明する。

民法 030

Civil Law

本講義では、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。具体的には、債権総論、物権、親族、相続について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

法学 031

Jurisprudence

本講義では、法学についての基礎的なことから概観したうえで、日常生活において特に身近な法である民法について学ぶ。まず、民法の歴史および構造を概観したうえで、個別のルール（総則、物権、債権総論、契約）について学習する。具体的設例の検討を通じて学ぶことで、法の規定を理解するだけでなく、身近な出来事を法的に分析することができる能力（法的思考力）も身につけてもらいたいと考えている。民法のルールは相互に密接な関連があるため、例えば物権について学ぶ回であっても、総則、債権などのルールに言及する場合がある。

行政史 032

History of the Bureaucracy

大日本帝国憲法から日本国憲法に変わることによって、内閣、議会、外交、防衛の各制度がどのように変わったかをテーマに、講義を行う。

西洋経済史 033

Economic History

「大航海時代」を出発点にして、ヨーロッパとアメリカ大陸、アジアの経済的関係を概観した上で、産業革命の実態と社会的影響力、産業構造の転換、消費型社会の誕生、スタンダード・テクノロジーの登場、世界恐慌とニューディール政策などを講義する。

人文地理学 034

Human Geography

本講義では、人文地理学の意義と役割、研究成果などに

ついて説明しながら、自然と人間との関わりをさまざまな空間スケールで捉えて考察していく。随時、具体的な地域事例を取り上げて解説する。最後に、人文地理学の課題について考えさせる。

現代中国論

035

Contemporary Chinese Society

中国の名目国内総生産（GDP）は2010年に日本を追い抜いて世界第2位となった。2020年代には米国を抜いて第1位になるとの予測もあり、「21世紀は中国の時代」「世界の工場」といった将来性の高さが期待・注目されるが、その一方で、「バブルの崩壊」や「シャドーバンキング（影の銀行）」問題といった先行きへの懸念が取り沙汰されることも増えつつある。中国経済の高成長の背景には1970年代末以降の「改革・開放」政策による経済的な資本主義制度の導入があるが、政治的には社会主義が堅持され、共産党の一言独裁が維持されている。また、近年の日中関係は靖国神社問題や尖閣諸島問題などをめぐって摩擦が絶えず、1970年代初めの関係正常化以来で「最悪の状態」との評さえある。本講義では、このような中国内外の現状や諸問題について、様々な視点から検討してゆく。

教育学(1)

036

Education(1)

人間は次世代の育成をつねに考え、そのために努力してきた。それゆえ教育についての社会的な関心は大変強いのだが、教育それ自体について深く考える機会は多くない。この授業では、現代の教育問題を偏見や固定観念にとらわれず議論するための、教育に関する事実や概念の正確な認識の習得を目指す。講義の前半では、おもに歴史上の思想家たちによる教育論を検討していく。続いて海外の教育状況を考察し、後半ではこうした論を単なる知識の習得におわらせず、現代の教育問題にどのように適用できるかを議論していく。

教育学(2)

037

Education(2)

近現代日本の教育について歴史的に考察していく。その出発点として、いわゆる前近代の教育状況の検討からはじめ、基本的には時代順に現代教育の諸問題まで扱う予定である。考察の対象は教育についての歴史的事実と思想だけでなく、教育と深く関わる言語や芸術、社会論なども含める。近現代史に関しては今でも見解の分かれる論点が多数ある。それゆえ講義では近現代の教育に関する具体的な知識だけでなく、現代の私たちが考え判断するための素材を提供すべく、可能な限り偏りなく多くの議論を紹介していく。

スポーツ・健康論

038

The theory of Health, Physical Fitness and Sports
現代社会における心身の健康に関する諸問題やスポーツをとりまく現状について考えるとともに、生涯にわたって健康な生活を送るために必要な知識について解説する。

心理と生理

039

Psychology and Physiology

人間は社会的存在であるとともに自然的存在でもある。本講では、大脳生理学および認知心理学的知見に基づく自然的存在としての人間の心と行動に関する基礎概念の解説と学習を行う。心理学の基礎となるヒトの生物学的共通要素を探る。

文化とパーソナリティ

040

Culture and Personality

人間は自然的存在であると同時に社会的存在である。社会の構成要素である個人について、その個人を個人たらしめているパーソナリティについて、理論、とらえ方（心理テスト）、変容、対人技法（カウンセリング）などを学ぶ。その上で人々の集団を俯瞰して文化的考察を行う。

学習と動機づけ

041

Learning and Motivation

心理学の基本領域のひとつである学習と動機づけを中心として自己および他者の行動、またその変容について理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

発達と教育

042

Development and Education

人間の発達と教育という心理学上の重要なテーマを中心として、遺伝、環境、自己認知の関連を理解することを目的とする。ただ単に心理学の知識を獲得するのではなく、自分自身の体験と理論を各自が結びつけられるようにしたい。

心理学概論

043

Basic Psychology

「心理学」がひとつの科学としてどのように発展してきたかを、最新の知見を通して学んでいく。また、いろいろな分野の知見を学ぶことで、心の不思議さや仕組みの理解・自己や他者への理解を深め、生涯にわたる自己変革と豊かな人間関係の育成といった、学習者としての資質向上をはかる。

心理学入門

044

Introduction to Psychology

ここでは心理学における二つの対立するパラダイムについて概説する。一つは、知性を「心」の内部に展開する表象活動に由来するもの、したがって人間が自身で作り出すものとみなす見方、もう一つは知性を人間と環境の相互作用が生み出すもの、人間と環境が相互的に構成するものとみなす見方である。前者は私たちには馴染みが深く、現代心理学の主流派の見方で、そこから認知科学なども派生してきた。他方、後者はアフォーダンス心理学あるいは生態心理学と呼ばれ、近代に特徴的な心身二元論を超越しており、今後、革新的理論として隣接領域にも大きな影響を与えると期待されている。ここでは二つの見方がどのように異なるのか、アフォーダンス理論の革新性とは何かについて学ぶ。

社会とジェンダー

045

Gender in Society

ジェンダーとは社会的に作られた性別、性差という意味である。「男は仕事、女は家事」といった性別役割分担など、この社会で観察される多くの「性差」の大部分は従来、自然なことだと考えられてきた。それに対し、ジェンダーという概念は、これらの性差は自然でも、必然でもなく、社会的に構築されたものだと捉える視点を与える。本授業では、私たちを取り巻く社会の課題をジェンダーの視点で考察し、人々の生活と日本の政治・法律・社会制度と国際社会との関連などを理解する。

国際化と異文化理解

046

Globalization and Intercultural Understanding

国際化が進む現代社会では、様々な文化背景の人々と関わり協力することが必須である。私たちの日常生活や子どもを取り巻く環境においても、異文化と多文化共生について理解を深める必要性は高まっている。日本の文化や保育について再認識し、異文化間で生じる問題と対処方法について理解を深めることを目指す。自分と異なる文化を持つ他の民族に関心を寄せ、尊重し理解すること、さらに幼児期の発達上の問題をふまえて実際に関わる方法を探る。

日本文化の伝承

047

Transmission of Japanese Culture

日本文化の一つである茶道は書道・華道・香道や能・狂言といった芸能など様々な伝統文化が活かされている。この講義ではその茶道が現代でどのような役割を果たしているのか、茶道の歴史をさかのぼり茶道の真意・点前の意義・懐石の意味やマナー、茶室などの数寄屋建築といった衣食住の重要性を学びます。

現代を生きる知恵を学びましょう。

演劇文化論

048

Theatre Arts

演劇という芸術をより深く豊かに鑑賞するための方法を知る。実際に劇場などで演劇鑑賞を通して、演劇芸術に触れる楽しさおもしろさを経験する。演劇についてDVD・ビデオ鑑賞を通して、さまざまな演劇について知る。これらのことを通して、演劇についての審美眼を養い、演劇の質について考える。特に、子どもを観客対象にした児童・青少年演劇鑑賞を通して、鑑賞教育の意義と目的について考える。

地域福祉論

049

Community Welfare

この講義は、古くて新しい概念である地域福祉の思想と実践について学ぶ科目である。地域福祉は社会福祉における1分野であるというより、高齢者、障害者、児童のすべてに横断的に関わる福祉思想である。様々な領域に共通する新しい福祉サービスの在り方の体系とシステムを学ぶことは、地域主権・地方分権が叫ばれ、地域重視の傾向が加速化する今日において、地域コミュニティの形成および都市計画の立案にとっても欠くことのできない実践体系である。

現代の疾病と食生活

050

Contemporary Disease and Diet

医学の進歩や生活水準の向上に伴い感染症は減少している。しかし、人々の生命を脅かす疾病からの開放は困難であり、国民すべてが健康で長生きできるという保障は得られない。さらに、加齢に伴う慢性疾患は増加し、がん、脳血管疾患、心臓病および糖尿病などが死因順位のトップを占める。この原因となる好ましくない生活習慣（食習慣、運動、休養、喫煙、不規則な生活、痩身志向など）は若年期に始まり、一人暮らしなどの生活の変化がこれを助長する。この授業では、健康増進と疾病予防の観点から、食行動が心と身体の健康にとってなぜ大切であるかという人間側からの理解を基に、健康上の問題が発生したときに好ましくない要因を回避する方策、生活行動の変容に結びつけるための基礎知識を学ぶ。

論理学(1)

051

Logic(1)

論理学は推論（前提からある主張を結論として導き出すこと）について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが（前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが）、それらがどのような点において区別されるのか

を学ぶことが本講義の目的である（この講義では、「タブローの方法」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる）。また、そうした学習を通じて論理というものについての理解を深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

論理学(2)

052

Logic(2)

論理学は推論（前提からある主張を結論として導き出すこと）について研究する学問である。そして推論には正しい推論と正しくない推論があるが（前提から結論を「ちゃんと」導き出せている推論とそうでない推論があるが）、それらがどのような点において区別されるのかを学ぶことが本講義の目的である（この講義では、「自然演繹」と呼ばれる方法の学習を通じてその点を学ぶことになる）。また、そうした学習を通じて論理というものについて考えを深めてもらうとともに、論理的に考える能力を養うことも目的とする。

生活とメディア

053

Media and Society

本講義では、日常的なメディアや、メディア利用状況を取りあげ、それらが私たちの生活にどのような影響を与えているかを論じる。具体的には、ブリクラやケータイ小説、SNSといった、私たちの認識や思考に強く染み込んだメディアについて、認知科学や社会文化学的の観点から概説する。またあわせて、講義の後半では今日的な場のデザインや文化構築とメディアとの関係を取りあげる。

公衆衛生学

054

Public Health

共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、生命を延長し、身体的・精神的・社会的健康の保持・増進を図るため、環境保健、疾病予防、保健・福祉、健康教育、健康管理、衛生行政、医療制度および社会保障などの基本的概念を学ぶ。また、プライマリ・ヘルス・ケアおよびヘルスプロモーションの概念を学び、さらに、集団での各種疾病や中毒の予防、診断などについて、疫学、統計学などの技術を学び、科学的根拠に基づいたデータの評価方法を知り、応用として、健康教育・政策・管理が自ら立案できるよう学習する。具体的には、シラバスにそって、公衆衛生の観点に立って健康を意識し、視野を高めると同時に、自ら自発的に公衆衛生活動ができるように教育する。公衆衛生学の学習は、保育所や幼稚園など集団生活を営む機関において、特に就学前の成長・発達の著しい園児の健康の保持、増進を図る上で、極めて重要であるばかりでなく、そこで働く保育・教育者の健

康の保持・増進においても、最も基本的で重要である。

現代の物理

055

Contemporary Physics

20世紀に大きな発展を遂げた現代の物理は、科学の多くの分野と関連し、環境や情報を含む技術の重要な基礎となっている。社会は科学と技術の発展を基に作られているので、誰でも物理学を学ぶことが望ましい。この講義では、大事で面白いテーマを、できるだけわかりやすく取り上げる。

科学技術と社会

056

Science, Technology and Society

現代の社会は、科学と技術の発展をもとに作られていて、科学と技術は社会に不可欠の要素である。しかし、一方で、科学技術は我々の意識の中で縁遠くなりつつあり、地域－地球環境問題のような負の影響も無視できない。この講義では、科学と技術の歴史をふまえ、それらと社会とのかかわりを具体的に考察する。

PBLによる産学協働演習

057

Industry-University Collaborative Practice on
Project Based Learning

企業からの課題に対して、専門分野の異なる学生がグループワークを重ね、アイデアをプレゼンテーションし、それを企業が講評するという PBL(Problem based learning)である。

ボランティア(1)～(2)

058～059

Volunteer(1)～(2)

学生の自発的な意志により、個人が持っている能力あるいは労力をもって災害、人権、福祉、平和などの他人や社会に貢献する国内で行われる無償の活動を経験するものである。得られた体験や知見をまとめた活動報告書等により評価し、単位認定を行う。

教養ゼミナール(1)～(2)

060～061

Cultural Seminar(1)～(2)

この科目は、名称・内容ともに各教員の積極的な提案により、双方向性を前提として少人数の学生を対象に開講する。学生はこの科目において、教員の熱意と蘊蓄を傾けたゼミ内容に魅せられるであろう。また、少人数で学年・学科を問わず履修できるので学生同士や教員との人間的な交流も深められるはずで、学生にとっても極めて有益であろう。

なお、教養ゼミナールは、4単位まで「教養科目」区分の卒業要件として認められる。開講されるゼミは、年度によっても異なるので、時間割等で確認すること。

教養特別講義(1)(2)

062～063

Special Lecture of the Liberal Arts (1)(2)

外国語科目

Study Skills

064

Study Skills

英文法や英語構文の理解を深め、後期科目の Reading & writing(1)、および2年次の Reading & writing(2)、さらに TOEIC Preparation の学習につなげるための英語基礎能力の養成をおこなう。

Communication Skills(1)

065

Communication Skills(1)

In this course students will be exposed to large amount of English and will focus on improving their communication skills, specially both listening and speaking skills.

Communication Skills(2)

066

Communication Skills(2)

In this course students will be exposed to large amount of English and will focus on improving their communication skills, specially both listening and speaking skills.

Reading and Writing(1)

067

Reading and Writing(1)

The main aim of this course is to improve general English skills through reading & writing exercises.

Reading and Writing(2)

068

Reading and Writing(2)

英語を読み、書くことで、大学生としての思考力を鍛える科目です。よく練られた英語文章を読み、そこに論理性や感性を感じ取ることで、みなさんが、知的好奇心を自分自身で育てていくための科目です。授業は、東京都市大学スタンダード(学年統一カリキュラム)のもとで、3キャンパスの学生たちが同じテキストを使用して行います。全クラスが、ある程度と同じ学習項目を共有しつつ、各教員が、それぞれの個性を生かした授業を行います。

TOEIC Preparation

069

TOEIC Preparation

学期末の TOEIC 試験による英語実力判定を受けるための準備クラスとして、半期間に集中して TOEIC 形式によるリーディング・リスニングを学ぶ。

英語でライティング&プレゼンテーション 070

Academic Writing and Presentation

Each week, students will prepare a presentation in English and Japanese to present to the class.

Each presentation will be followed by a question-and-answer session in English.

アカデミック・イングリッシュ・セミナー 071

Academic English Seminar

This course concentrates on improving all four skill areas with an emphasis on speaking and listening.

Advanced TOEIC 072

Advanced TOEIC

TOEICの問題形式に慣れ得点を上げることを目指す。授業では、毎回テーマごとに問題演習をたくさんこなすことで、TOEICに対応できる力を養い、押さえておくべきポイントをつかめるようにする。

英語読解力養成 073

Advanced Reading

テキストの英文を読みながら、世界で起きている様々な問題について理解を深め、自分と異なることを理解する想像力が身につくよう、学習を進めます。

英文中の単語・熟語・構文等を理解して読み進める中で、その正確さとスピードの両方を伸ばすように、集中して読解作業に取り組み、それを継続して英語力を高めましょう。

海外・特別選抜セミナー 074

English seminar for Overseas Study

英語文法トレーニング 075

English Grammar

英語運用能力を高めるためには英語基礎力の土台となる文法・構文の理解が必須である。

半期の集中学習で英語基礎力の強化を図る。

英語発音・聴解トレーニング 076

English listening comprehension

Students will improve their English proficiency while we work on all four skill areas with a focus on pronunciation.

キャリア・イングリッシュ 077

English for Career Preparation

国際的なビジネス場面で求められる英語コミュニケーション力を養うことを目的とする。交渉、接客、プレゼン

テーション等における英語を教材として、語彙や表現を習得するとともに、スピーキング、リスニングの練習を行う。また、日本語と英語のコミュニケーション・スタイルの異なりを学んだうえで、国際場面で理解されやすい英語の話し方を練習する。

サバイバル・イングリッシュ 078

Survival English

英語の多読多聴を通し、自分の考えを書いたり話したりすることに自信が持てるようになることを目指す。具体的には、多読プロジェクトを行い、ライティングやプレゼンテーションの練習を行う。

ニュースを英語で読む 079

Reading News in English

ニュースには、新しい情報だけではなく、文化と過去と将来が詰まっています。Views on the News というテキストと生の新聞記事、YouTube や CNN.com の映像を通して、ニュース英語や Media Literacy を学んでいきましょう。

スポーツで学ぶ英語 080

Learning English through Sports

スポーツに関する新聞や雑誌、ネットの記事を読みながら、英文読解力を強化し、内容について受講者と教員が英語による質疑応答をとおしてコミュニケーション能力を養う。

映画で学ぶ英語 081

Learning English through Movies

This course has been constructed as a topic-based film course for students who have attained a pre-intermediate to intermediate level of English proficiency.

文学で学ぶ英語 082

Learning English through Literature

物語を楽しみながら読み進めることで、英語への理解を深める科目です。

世界的に有名なアメリカ文学作品 The Adventure of Tom Sawyer 『トム・ソーヤーの冒険』を読みます。作品の登場人物の心情を想像したり、小説の中の奇妙な体験が英語ではどのように表現されるのかを学びます。文字媒体のみならず、視覚や聴覚（映像や朗読）を通じて、物語の世界を体験しましょう。とりわけ、アメリカ文学や文化の話題や作品を中心に学びます。

音楽で学ぶ英語	083
Learning English through Music	
洋楽を聴くひとが最近では減ってきたといわれていますが、この時間では講師の選んだポップスを聴いて歌のリズム、ビートを体感することを第1の目標にします。第二の目標は歌詞のなかの独特の語句を紹介してさまざまな感情表現に応用することをめざします。	
Cultural Comparison	084
Cultural Comparison	
Modern Society	085
Modern Society	
科学技術英語	086
Sci-Tech English	
科学技術に関する英文を読みながら、科学技術に関する論文や新聞を読むための語彙力、読解力の向上を目的とする。	
外国語特別講義(1)	087
Learning English for Specific Purposes(1)	
外国語特別講義(2)	088
Learning English for Specific Purposes(2)	
ドイツ語(1)	089
German(1)	
初学者を対象に、ドイツ語を理解・習得する上で基礎となる独文法をゼロから学んでいきます。	
ドイツ語(2)	090
German(2)	
ドイツ語を習得するための基礎となる初級文法の解説および問題演習を反復して行う。	
フランス語(1)	091
French(1)	
フランス語基礎会話	
フランス語(2)	092
French(2)	
続・フランス語基礎会話	

スペイン語(1)	093
Spanish(1)	
テキストの解説と会話表現を通じて、文法の基礎を教える。	
スペイン語(2)	094
Spanish(2)	
テキストの解説と会話表現を通じて、文法の基礎を教える。	
イタリア語(1)	095
Italian(1)	
イタリア語(2)	096
Italian(2)	
中国語(1)	097
Chinese(1)	
中国語1（入門と基礎）では、基本的な語法を学ぶとともに、発音の練習に重点を置き、中国語独特の音声構造が体に染み込むまで徹底的に訓練します。おそらくそのプロセスは今まで経験したことがない不思議な言語体験になるでしょう。また、長い歴史に培われてきた中華文明のエッセンスもあわせて紹介する予定です。さらに、必要があれば中国をめぐる時事問題にも言及します。	
中国語(2)	098
Chinese(2)	
中国語2（初級）は中国語1で学んだ事柄を土台にして初級レベルの中国語を基礎から学びます。中国語2でも発音は依然として重要な課題であり、反復練習を続けます。さらにより複雑な語法と表現に踏み込み、短文読解を通して中国語独特のロジックを体感することで、今後とも継続して自学自習できる素地を固めたいと思います。会話練習もより実践的な内容になります。また、「中国問題」と呼ばれる事象も取り上げ、現代中国の実状にもアプローチします。	
アラビア語(1)	099
Arabic(1)	
アラビア語(2)	100
Arabic(2)	
韓国語(1)	101
Korean(1)	
韓国と日本は、言語、文化、風俗習慣等様々な面において、お互いに理解し合えるもっとも近い国同士である。	

最近、歴史問題、領土問題など課題も抱えているが、交流と対話を続けていけば必ず良い方向に進むと思う。韓国語の授業では、こうした社会的状況をも踏まえ、韓国語の学習（文字、文法、単語）を基盤に、韓国の文化、歴史、韓国人の価値観等も考察していきたい。なお、韓国ドラマ・映画鑑賞の時間も設け、韓国語・韓国文化への理解を深めていく。

韓国語(2) 102

Korean(2)

韓国語の単語をたくさん覚えよう！そうすれば韓国に、K-POP に、ドラマに直接アクセスできるのです。

体育科目

基礎体育(1) 103

Physical Training(1)

近代科学の発展は、経済的に恵まれた国民生活を誕生させてきた。しかしその一方では、運動不足による疾病の増加やストレスによる心の健康問題など、心身の健康に関する現代的課題が深刻化している。このような状況において、スポーツを通して心身の健康の保持増進を図ることが重要なことは言うまでもない。この授業では、受講者がバレーボール、ソフトボール、テニス、卓球から1種目を選択し、週1回の授業を通して運動習慣を身につけ、生涯スポーツの基礎とする。

基礎体育(2) 104

Physical Training(2)

近代科学の発展は、経済的に恵まれた国民生活を誕生させてきた。しかしその一方では、運動不足による疾病の増加やストレスによる心の健康問題など、心身の健康に関する現代的課題が深刻化している。このような状況において、スポーツを通して心身の健康の保持増進を図ることが重要なことは言うまでもない。この授業では、受講者がサッカー、バスケットボール、テニス、卓球から1種目を選択し、週1回の授業を通して運動習慣を身につけ、生涯スポーツの基礎とする。

応用体育(1) 105

Advanced Physical Training(1)

現代社会において、運動不足による疾病の増加やストレスによる心の健康問題など心身の健康に関する問題が深刻化している。このような状況の中で、生涯にわたって親しむことができるスポーツを身につけることによって心身の健康の保持増進を図ることが重要なことは言うまでもない。この授業ではテニス、バドミントン、球技等の種目を開設する。週1回の授業を通して運動習

慣を身につけ、生涯スポーツの考え方をより深めていく。
※ゴルフ・スキー等の集中授業もあります。

応用体育(2) 106

Advanced Physical Training(2)

現代社会において、運動不足による疾病の増加やストレスによる心の健康問題など心身の健康に関する問題が深刻化している。このような状況の中で、生涯にわたって親しむことができるスポーツを身につけることによって心身の健康の保持増進を図ることが重要なことは言うまでもない。この授業ではテニス、バドミントン、球技等の種目を開設する。週1回の授業を通して運動習慣を身につけ、生涯スポーツの考え方をより深めていく。
※ゴルフ・スキー等の集中授業もあります。

専門基礎科目：基幹科目

マーケティング概論 107

Principle of Marketing

マーケティング・プロセス全体の流れと、その主要な構成要素を理解することで、マーケティングに関する基礎的な理解を築く。最初に、生産、製品、販売の各コンセプトとの対比でマーケティング・コンセプトの必要性を理解する。次に、マーケティング環境情報の収集と分析に基づくマーケティング戦略立案の基礎を理解する。その後、消費者行動心理の基本を学習した後に、ターゲット・マーケティング(STP)について、市場の細分化、標的セグメントの選択、選択したセグメントにおける差別化/ポジショニングの基礎的な学習をする。そして、設定したSTPを具現化するためのマーケティング・ミックスの構築方法について学習をする。すなわち、製品施策、価格施策、流通施策、販売促進施策立案に必要な基本についての理解である。また、サービス経済の拡大を反映して、サービスマーケティングについても、製品マーケティングとの対比という視点で解説をする。

経営学概論 108

Principle of Business Administration

経営学とは社会において重要な存在である企業について研究されはじめた学問であるが、今やあらゆる組織が対象となっている。経営学概論では、経営戦略・経営管理と経営組織に関する経営学の世界で議論されている考え方の基本的事項を、理論と事例を通して学ぶ。

都市計画(1) 109

Urban Planning(1)

この科目は、都市計画を初めて学ぶ皆さんを対象にして、都市計画に関する基礎知識をひとつとおり知るための講

義です。具体的な事例を交えながら、法定都市計画の制度構成、都市計画図、建築規制、事業制度、策定プロセスなど、都市計画が現実はどうやって実施されているのかを知るとともに、近代都市計画の歴史など、都市計画の意味と方法を理解し考えることができるための基礎的素養を身に着けます。

都市の経済学

110

Urban Economics

経済学を初めて学ぶ学部学生を対象に、人の行動を分析するツールとしてのミクロ経済学を用いて、都市問題及び不動産市場に関する分析力を養うことを目的とする。また、都市生活学部学生として知っていてほしい、不動産市場特有の問題とその経済学的な解決方法の考え方を、直観的に理解しやすい図表を用いて説明する。

専門基礎科目：基礎共通科目

統計と分析

111

Statistics and Analysis

私たちの周りには多くのデータであふれている。企業はそうしたデータの中から自分たちに必要なものを収集し、分析することで有益な情報を得ようと努力している。本講義では、市場にあふれるこうした情報をどのように取得し、どのように分析するのかを学ぶ。本講義の受講対象者は統計と分析の初学者なので、講義では数式は使わないように配慮する。数学に不安のある学生も奮って受講されたい。

世界の住まい

112

Housing around the World

都市のデザインコースの入り口として、住居を世界の地理的、歴史的な視点から観る初歩的な方法を学ぶとともに、多様な住まいづくりの基礎的素養を身につける。具体的には、まず現存する世界各地の気候風土、歴史文化の違いが生み出した多様な住居形態を具体的にレビューした後、主として産業革命以降の欧米で展開した近代から現代の生活・建築に関する時代思潮とともに、著名な建築家等によって構想・実現されてきた代表的な事例を通して、その概要について学ぶ。本科目の内容は、将来、住宅の計画・設計だけではなく、住まいに関する営業やコーディネーション等の業務にも役立つような基礎的知識の涵養を骨子とする。

民法と商法

113

Civil law and Commercial law

民法が一般市民の間の法律関係を規律するものであるのに対して、商法は商取引（ビジネス）を営む者を規律

するものである。しかし、両者はまったくの無関係というわけではなく、商事に関して商法に規定がない場合は、民法の規定に従うという関係にある。

本講義では、私達の日常生活において適用される民法の重要事項を概観した後、民法と商法とで異なった扱いがなされている事項およびこんにちの商取引において中心的役割を担っている「会社」に関する事項の基本を学ぶ。

都市の文化・芸術

114

Urban Culture and Arts

ファッション、ブランド、エンターテインメント、レストラン、カフェ、出版、サロン、広場、大通り、商店街、モニュメント、ホテル、空港など、都市文化を生み出した歴史を考察。都市文化を生み出す多種多様な要素について学習する。

会計学概論

115

Principle of Accounting

経営の一領域を占める会計分野について全体の概要を述べるとともに、その入門から意義、活用方法などについて段階的に講義する。また、それを活用した事業収支計画の作成について解説する。具体的には、実際の企業事例などをもとに会計の果たす役割を理解してもらう。さらに、基本である財務諸表の構造と意義を把握することで、財務諸表を「読み解く」ことができるようにする。また、事例分析を基に経営分析の考え方についても概観していく。後半ではそれらを利用して各自事業収支計画の作成をしてもらう。

世界の都市

116

Cities around the World

この講義においては都市文化や都市経営を学ぶためにまちを観る視点を伝え、まちづくりについて専門的な学習を開始するに当たっての基礎的素養を身につけさせる。具体的には、各国の風土や歴史を代表する都市や街を対象に、各々のまちの創られてきた過程、特徴となる文化、社会、都市空間や建築、新しい街づくりの動きなどについて教授する。

専門科目：演習領域

コンピュータ演習

117

Computer Practice

この演習では、情報社会の必須の文房具として、パーソナルコンピュータの基本操作をマスターし、大学の講義、演習、レポート作成などに対応する。まず、ワープロソ

フトによる文章の作成, 表計算ソフトの操作スキルを習得する。さらに, プレゼンテーションソフトを使用したグラフィカルなスライドショー作成スキルを習得する。

グラフィックデザイン演習

118

Graphic Design Practice

自分の伝えたい情報を文字だけでなく効果的な図版や写真を使ってグラフィカルに表現するスキルは, デザイン領域に限らずあらゆる分野で重要である。本授業はデザインの現場で標準的に使用されている Photoshop, Illustrator の基礎を習得する。

まちの観察

119

Urban Observation

まちづくりのテーマを発見するため, 「①都市空間に係わる問題課題の抽出」, 「②街の性格, 個性の把握」のための総合的な街の観察方法を学ぶ。

まちを観察するには, フィールドサーベイによる自然, 空間, 生活, 歴史などについての五感的観察と, 地図・統計・計画&規制などの資料・データを通しての客観的観察の二つの方法があるが, この授業では五感的観察の手法を中心に学ぶ。五感的観察から得られた資料を分析することによりテーマの発見へと結びつける。

プレゼンテーション

120

Presentation

プレゼンテーションを行う対象と, 結果として目指す説得の方向性や内容を明確にしたビジネスプレゼンテーションの技法に関して, ロジカルなコンテンツ部分, エモーションに訴求するビジュアル部分をバランスよく学習する。最初にプレゼンテーションの意義や価値を理解し, パブリックスピーチとコミュニケーションについての基礎的な知識を修得する。それと共に, 与えられた時間内に伝えたい内容を比較的多数の人々の前で, 発表する経験を積む。こうした人前で話す準備ができた後で, プレゼンテーションをどのように構成していくか, ビジュアルとして訴求力のある内容とするにはどうするか, という知識を得た後, 実際のプレゼンテーションコンテンツを作成する訓練を積む。最後に, 提示された課題に関して, グループでプレゼンテーションコンテンツを作成し, クラス全体に対してプレゼンテーションを実施する。

空間デザイン演習(1)

121

Space Design Practice(1)

第一に将来どの分野に進んでも, 都市や街の主要構成要素である建築を見る目を養うことが重要であり, 建築の良し悪しを判断できる感性・能力を養うために, 建築と

都市に関連する数多くスライドなどでレクチャーする。第二に「建築はどのように存在しているか」を空間を構成する方法や構造架構の原理や方法を, 身体的に体感し学習する。そして, 空間形態の可能性を考えてみる。

第三にCADが主流の時代であるが, デザインワークの基礎はハンドワークのドローイングにあり, 手で思考することが大事である。ドローイングの基本である線の引き方, 道具の使い方, などを学習し, 平面図・断面図・立面図・パーススケッチ・模型制作・写真撮影など立体を表現する方法を学ぶ。頭に描いたイメージを出来るだけ早く他人(社会)へ図や模型等を使用して説明・表現をする能力とスキルを高めるため, 造形について深く考え, また, 理想の住宅の課題を通じて, 身体的な寸法と空間の関係を考えたりライフスタイルの提案を表現できるようにする。”

空間デザイン演習(2)

122

Space Design Practice(2)

空間デザイン演習(1)を継続する形で演習と講義を平行して行う。引き続き, 建築を見る眼, 建築の良し悪しを判断できる感性・能力を養うために, 名建築を数多くスライドなどでレクチャーする。

空間デザイン演習(1)で培った空間の形成方法や手書き表現スキルを前提に, この学年の能力に見合った内容, 規模の美術館や集合住宅のデザイン(コンセプト・ドローイング・模型製作など)を通じて空間デザインスキルを習得する。

また, この空間デザイン演習は作品を仕上げることはもちろんだが, 毎週時間内におけるデザインに関する教員と学生の対話における, 幅広い建築や都市を構成する知識を理解し学習することが大変重要である。つまり, デザインを行うときのプロセスを非常に重要視する科目である。

空間デザイン演習(3)

123

Space Design Practice(3)

都市・建築にとって基本的な要因である「空間・かたち・架構」の関係を体得し, そこで理解したことをさらに進めて, 建築の設計に結びつける。

そのために, 前半では短期のシリーズ課題により, 自分の手で「つくる」ことを通じて, 空間構成と構造架構の, 原理やシステムを「体感」学習する。

後半は, その成果を生かしながら, 建築課題(複合建築等)を解いて「設計」作品に結実させる。

都市デジタルシミュレーション(1)

124

Digital Urban Simulation (1)

この演習では, 従来と異なり最初から3次元仮想建物

モデルをPC内に組み立て、必要に応じてその3Dモデルから図面、パース、および各種建物情報を取り出して扱うという新しいタイプのCADであるArchiCADによる建築教育を行う。これは新世代3DCADと呼ばれ、PCの中に3次元仮想建物モデルを作成して、設計者・施工者・メーカー・クライアントなどの関係者の情報共有を促進し、建築生産全体の生産性を向上させるBIM (Building Information Modeling) の方法論に基づいたものである。

演習では、単純で基本的な床・柱・壁で構成される建物を組み立て、階段・出入口・家具など建物部位を配置するという順序で、建物の成り立ちを理解させると同時にBIMの特徴の理解と基礎的な操作を習得させる。また内蔵された環境シミュレーション機能を用いて、建築の性能評価について基礎的な理解を得る。”

都市デジタルシミュレーション(2) 125

Digital Urban Simulation (2)

BIM (Building Information Modeling) は、3DCADと異なり、空間を構成する部位に属性情報を持っている。都市・建築・インテリアの計画段階において、このBIMの特性を生かした各種シミュレーションにより、設計品質を向上させることができる。この演習では、都市・建築・インテリアのコース別に、BIMモデルをベースにデータ連携を行い、エネルギー評価による環境計画、人の行動特性に基づいた導線計画、光のバランスを配慮した照明計画、アルゴリズムを応用した3Dモデリング、景観計画などを行う。

マーケティングリサーチ演習(1) 126

Marketing Research Practice(1)

本科目は、企業や組織のマーケティング活動に必要な顧客関連データの収集・分析・報告に関する演習である。マーケティング活動とは、顧客・消費者のニーズを起点に価格、製品、プロモーション、チャネルなどを設計することを意味するが、マーケティングリサーチはその各々の局面で必要に応じて実施される。マーケティングリサーチ演習(1)においては、こうしたマーケティングリサーチの意義、プロセス、ステップを理解したうえで、定量的な方法により具体的課題に対するリサーチを演習形式で行っていく。

マーケティングリサーチ演習(2) 127

Marketing Research Practice(2)

本科目は、マーケティングに活用できる質的調査の方法を習得する演習である。質的調査は、社会生活を営む人たちが、具体的に「どのように」行動しているか、「なぜ」そのように行動しているかといった個別の体験にフ

ォーカスし、聞き取り調査や参与観察によって探る調査方法である。ここでは質的調査の基礎的な原理と方法を学んだ上で、実際に調査を行い、そのデータに基づいた事業企画を提案する。

専門科目：都市のライフスタイル

都市の社会学

128

Urban Sociology

都市は、「多くの人々が相互に関わりあうことによって生じる社会的な現象」である。本講義ではこのように社会学的な視点で都市を捉え、その結果浮き彫りになるさまざまな問題について議論する。「都市社会学」の体系を深く理解するというよりもむしろ、現代の都市をめぐるさまざまな「社会課題」を手掛かりに、都市という問題を「人と人との相互作用」として分析する力を身につける。このため講義では、現代の都市をめぐる多様な問題を事例を挙げて紹介するとともに、事前レポートやディスカッションを通じて理解を深める。これらを通じて、自ら課題を発見し解決方法を提案していくことのできる「実践的研究者」の基礎となる知識と思考習慣を身につけることを期待する。

経営戦略論

129

Principle of strategic Management

本科目では、経営戦略に関する基本的な概念の把握と思考方法などについて学ぶ。

激しく変化する現代社会の中で組織が効果的・効率的に生き残っていくためには、資源を正しく使い、成員の心と行動を一つにまとめあげ、成功に導くための経営戦略が不可欠である。組織を成功に導く「良い戦略」とは何かを学ぶことは重要である。

本科目では「戦略論の歴史」の中で形成された代表的な経営戦略に関する考え方、代表的な戦略分析の方法論を学ぶ。また経営戦略にかかわるケースを通じて、現実の中での戦略分析の適用、戦略構築のプロセスの実際を学ぶ。

ファッション文化

130

Fashion and Culture

「ファッションは時代を映す鏡」と言われている。ファッションは常に時代を反映し、ファッションを見ればどの時代かがわかる。本講義では、どんな時代背景(政治、経済、美術、音楽、文学、科学、思想、ライフスタイルなど)の中、どのような衣服デザインが創られてきたかを学ぶ。また現代の衣服になるには、多くの才能あるデザイナーたちが新たなデザインをクリエーションしてきた。その仕事に焦点をあて、現在のデザイナーたちに

も大きな影響を与えていることを知る。

都市観光計画 131

Urban Tourism Planning

欧米の大都市から遅れること 30 年、ようやくわが国においても都市観光の本格的な取り組みが始まっている。これは都市観光が人口減少社会における都市政策の重要政策課題に浮上してきたからである。

本講義では、最初に都市観光とは何か、都市政策における都市観光の現代的意義と観光立国戦略での意義づけを明かにした上で、わが国の都市観光の現状と課題を理解させる。この課題を解決するための都市観光計画の作り方を一般論とケーススタディから明らかにする。

ソーシャルマーケティング 132

Social Marketing

本科目の内容は、ソーシャルマーケティングとサステナブルマーケティングの 2 つのコンセプトを含むが、科目名の冗長さを避けるために、主要な内容であるソーシャルマーケティングとしている。いずれの場合も、企業的大量生産と市場における大量消費を可能とし、資金拠出者を主要なステークホルダーとして収益性を第 1 義的に考慮する伝統的なマーケティング手法に対する批判や反省に基づく比較的新しいマーケティングコンセプトである。ソーシャルマーケティングは、P. コトラ等によるマーケティング概念の拡張の延長線上にあり、資金拠出者や顧客を越えて、より多様なステークホルダーへの貢献を意識しており、企業の社会的責任を果たすためのマーケティングという側面と、社会における様々な課題に対して、マーケティングの技法をもって態度と行動の変化をもたらそうとする側面の両面を持っている。一方、サステナブルマーケティングは、多様且つ広範なステークホルダーとの協調をはかりつつ企業活動の持続的発展を可能にするための戦略、計画、マーケティングミックスの開発・実施・統制管理である。

簿記論 133

Bookkeeping Theory

会計学習の基本となる「簿記」について、基礎的な知識を得るとともに、その構造を理解し、財務諸表の内容を読み取り、活用できるようにする科目である。

簿記というと、資格検定が一般的に知られている。本講義は、レベルとしては全経簿記検定 2 級もしくは日商簿記検定 3 級程度の内容である。ただし本学部の主旨から、検定合格が主たる目的ではなく、会計的な手法と意義を理解し、多方面に応用できるようにすることが目的である。

広告コミュニケーション 134

Advertising Communication

広告という「企業が生活者にメッセージを伝えるためのコミュニケーション」について、その歴史から最新の動向を、事例を交えながら学んでいく。

また、ソーシャルメディアの浸透などがもたらす情報革命の影響についても掘り下げ、これからの広告コミュニケーションが向かう方向性を探っていく。

ブランド戦略 135

Branding Strategy

私達の生活の中では、「憧れのブランド」というものが存在する。「いつかは、あのブランドを手にしたい」と思うようなブランドである。また、小売店に行くと、商品が持っている様々な機能では、他の商品と差がないのに、値段が高く、値引きには応じないというようなブランドが存在する。企業の立場からすると、こうしたブランドは、単なる商品と比較すると、値段を高く設定することで、儲けを多くすることができ、また、「このブランド以外では私は満足しない」という熱烈なファンが存在することで、長い年月にわたって、安定したビジネスを創ることができる。こうして、ブランド力を創ることができると、人間関係に例えると、企業と顧客との間に、親密な忠誠心のようなものが創られる。この授業では、こうした強いブランドとは何か、そして、いかにして、こうした関係を創り上げることができるかを、事例を交えて学習していく。

集客空間論 136

Space for customer attraction

人々が惹きつけられるような魅力ある集客空間や仕掛けは、どのように考え企画、計画されるのか、またそのような空間はどのように創られるのか、集客空間を実際に考察し、デザインをしていくための基礎を学ぶ。都市のなかに活気や人気を生み出すものとして「集客」の概念がある。この講義においては、人を集めることをテーマとした都市的空間の創出について学習し、いかにして人が集まり、賑わいをもたらす魅力的空間や仕掛けをつくるかを科学的に分析、提案していくための力を養う。また、魅力的な集客空間の形成を行う上での方策や、戦略について研究する。集客空間のとしてミュージアム、リゾート、都市開発、ウォーターフロント、非日常空間等の事例もとりあげながら考察する。また 2020 年東京オリンピックにむけた集客、観光への取り組みや近年注目を浴びるビッグデータのもつ集客空間への可能性、地域創生の方策、波及効果などについても学習する。

エリアマーケティング

137

Area Marketing

エリアマーケティングは、風土・環境や歴史・文化などから醸成された地域性とその市場の特性に基づいて、顧客ニーズを導き出し商品戦略を立てて成果を上げていくマーケティングプロセスである。

まずは地域性を、人口統計、人口分布、世代構成、昼夜間人口差等のデータ調査と、所得水準、消費量、企業構成風土・環境、そして歴史・文化等の社会科学的な視点で明らかにしていく方法を具体的に学ぶ。次に市場規模と商圏の分析、競合店の分析、顧客の特性の分析の基本的な考え方を身に付け需要予測を立てていく。更には、地域政策や制度の変更、交通インフラや建築都市開発の状況、企業進出あるいは撤退などの将来の環境変化を予測してその影響を検討していく考え方を学び、それらを統合して、エリアマーケティング戦略の立案をおこなう手法を事例を交えながらわかりやすく学んでいく。

マーチャンダイジング

138

Merchandising

本科目では、主に、小売店におけるマーチャンダイジングを扱う。すなわち、小売店全体のマーケティング戦略に基づき、ターゲットとする消費者を明確にし、そのターゲットのニーズを満たすような訴求力があり、且つ、競合店との差別化が行われるような、商品の品ぞろえの決定、商品の仕入れ先の選定と仕入れ値の決定、価格付け、在庫コントロール及び発注管理といった全体的な小売店における活動と管理を対象とする。また、店舗のデザイン、商品の陳列方法、セールスプロモーション等を含んだ広義のビジュアル・マーチャンダイジング（VMD）についても、事例等を参照しながら学習する。以上を通じて、都市に生活する人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献するような小売店創りを目指す。

集客学

139

Customer Attraction

「ひとをあつめる」をテーマに街づくりや集客空間、都市デザイン、観光資源、文化などを複眼的な視点で統合した「集客学」を、学際的に学ぶことをめざす。集客を科学的に捉え、実践的に考察をすること、デザイン的な展開や仕掛けづくり等を考えていくことを目的としている。人を多く集めることのできる集客施設、商業施設、ソフトウェアなどを戦略的につくるのであれば「にぎわい」や「活気」が生まれ、繁栄が生まれる。集客的な資源、集客技術、集客施設、集客マネジメントなど集客に関する学術的研究とその交流連携を行いながら学術・文化・科学技術の発展に貢献するための方策などを学習する。「集客」を考えることは「都市とは何か」、

「デザインとは」という大命題にも関係し、戦略的な経営や地域への波及としての経済的な視点、また文化芸術の分野にも関連性が深い。デザインやイメージ等の感性の部分とともに、観光や経営学への応用も利くと考えられるものが集客学の要素である。授業内では参考になると思われる集客の事例のエッセンスも紹介していく。

トラベルプランニング

140

Travel Planning

都市は世界中のビジネスや文化等が集合するポイントであり、その中で、生活や仕事をしている都市生活者は、地球規模で進んでいるファッションやモードを、さりげなく日常生活の様式に取り込んでいる。このような人々が、海外に旅行をする場合、昔ながらの、全て団体行動で、同じ行き先で同じ過ごし方をするのではなく、個別、多様、自由で洗練されたプログラムを求める傾向がある。この授業では、都市生活者の行動様式に組み込まれるような海外旅行商品を旅行会社側の視点にたって、企画、販売促進、販売するビジネスモデルを学習する。様々な規制緩和の中で、旅行会社のあり方に変化がある中で、旅行業法、航空業界、ホテル等地上手配業界、インターネットによる集客技法といった重要な周辺知識も併せて学んでいく。

専門科目：都市のマネジメント

都市政策

141

Urban policy

この講義は、都市の暮らし、活力、魅力を対象とする公共政策について、現代の多様な事象に関する基礎知識を習得するとともに、都市問題を地域や立場の違いから多面的に理解し、それらの解決に向けた政策の組み立て方を筋道だてて考える視座を養うことを目指している。扱うテーマが毎回異なり、全体として今日的话题に幅広く触れる。

プロジェクトマネジメント

142

Project Management

まずは、あらゆる分野に適応可能な、プロジェクトマネジメントの基本的な考え方を理解することから始める。すなわち、プロジェクトマネジメントの用語、目的、組み立てと、統合、スコープ、コミュニケーション、人的資源、スケジュール、コスト、リスク、調達、品質にデザインを加えた10の領域について、基本的な構成と内容を身近な事例を交えて解説を行い、理解することから始める。

次に、多くの利害を異にする関係者が関わる、建築やまちづくりの分野を例として、社会的課題に応える開発と

は何か、事業性・収益性中心から脱却した真の経済的価値とは何か、情報発信と交流という文化的価値とは何かという、プロジェクトマネジメントの目的である価値創造について考え、プロジェクトマネジメントの業務の流れとプロジェクトチームの編成について学ぶ。

更に、建築・都市開発に焦点を当て、企画段階の魅力的で骨太なプロジェクトマネジメントについて、3本柱である基本理念、事業企画、建築企画の構成と内容を、国内外の複数のプロジェクトを通して解説し理解を深める。また、実行（運営）段階の柔軟で創造的なプロジェクトマネジメントについて、基礎的な学習を行う。

住宅と不動産 143

Housing and Real Estate

私たちの生活に身近な、住宅を借りる、住宅を購入する、住宅を管理する等をテーマに取り上げ、それに係わる法や経済、建築・街づくりに関する工学、それらを支える住宅・不動産に関する基礎を総合的に学んでいく。

まちの防災 144

Urban Disaster Prevention

本講義では、これまでの自然災害や将来発生が危惧されている地震・風水害などを取り上げ、都市空間にどのような被害が生じるかを学ぶ。また、事前の備えと、災害発生直後の緊急対応から復旧・復興に至るまで、災害にどう対応すべきかを考える。さらに、各地の復興まちづくりや安全・安心まちづくりの取り組み事例を学び、これからの都市のあり方を考える。

参加型まちづくり 145

Participatory Community Development

まちづくりは、国や自治体の行政のみで計画・実施されるものではなく、まちに関わる多くの主体、中でもそこに居住する住民や市民の「参加」が不可欠である。わが国でも、多くの地域で市民や住民の参加によるまちづくりが実践されている。さらに最近では単なる参加の域を超えて、住民と行政が「協働」してまちづくりの合意形成を行うことの重要性が指摘され、注目されている。そのような「参加型まちづくり」の事例を紹介しながら、まちづくりにおける「参加」の考え方の推移を示し、「参加」と「協働」による「合意形成」の意味を掘り下げるとともに、その実践的な手法・技術を学ぶ。

プランニングサーベイ 146

Survey for Urban Design

「まちの観察」では、まちづくりのテーマを発見するため、都市空間に係わる問題課題の抽出、街の性格、個性の把握のための総合的な街の観察方法を学んだ。本講義

では、観察によって得られた街の課題や個性を、実際のまちづくりや都市開発企画のプランニングに結びつけるための、調査・分析・構想のスキルを習得する。

都市空間の演出 147

Production of Urban Space

特徴的な「都市空間」と個性的な「都市空間の演出」は、街の賑わいづくりと情報発信、更には街の広報とブランディングにおいて最も重要な役割を担う。そして「演出」により「都市空間」は魅力的になりビジネスにつながる。「都市空間を新しく開発する」より「既にある都市空間」や「演出」の特徴を捉えそこに相応しい「様々な演出」を加えていくことにより人が集まり金を生む「魅力的な都市空間を再創造」することに FOCUS をあてる。

都市開発プロジェクト 148

Urban Development Projects

都市開発のプロジェクトについて、実践のケーススタディーを中心に事業推進のプロセスを伝え、将来、都市づくりのプロジェクト・メンバーとして活躍するための基礎的素養を身に付けさせることを目的とする。そのため、第1ステップとして六本木ヒルズや丸の内などさまざまなタイプ、また大小異なった規模の都市開発プロジェクトの事例を教える。次いで、第2のステップとして典型的なプロジェクトの計画策定の事例を取り上げ、そのプロセスと方法について教授し、都市開発プロジェクトの進め方を理解させる。

不動産ビジネス 149

Real Estate Business

不動産ビジネスについて、事業者サイドの視点（マーケティング）からビジネスモデル特性と市場の概要を実例とともに学習し、不動産ビジネスのダイナミズムと、社会的要請（少子高齢社会、環境、グローバル化）に応える都市経営への意義、可能性を学ぶ。

商環境とホテルの企画 150

Planning of Commercial Environment and Hotels

都市の賑わいや、情報発信と交流、経済活動、観光に重要な位置を占める、商環境とホテルの企画について、複合施設を含め国内外の実例を題材として学んでいく。商業施設開発の、市場と事例の調査分析、まちの文脈や敷地条件の読み取りからはじめ、MD 計画、企画の動機・目的・過程・成果を学ぶ。そして、空間商品計画・ゾーニング・プランニング・空間構成・動線・商環境デザインを学習する。同時に、プロジェクトの進め方、テナントリーシング、プロパティマネジメントの概要に触れながら、事業のしくみや手法の基礎を学ぶ。ホテルに

については、ホテルの歴史、運営と経営の仕組みから、企画の立て方までを学ぶ。

エリアマネジメント 151

Area Management

これまでの都市づくりは、社会資本の整備を中心としてすすめられてきました。社会が成熟し、少子高齢化がすすむこれからの社会においては、社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の構築が求められています。また、まちづくりからまち育てについて考える必要もあります。こうしたパラダイムシフトの時代に対応した新たな都市マネジメントの手法が求められており、エリアマネジメントが注目されています。新たな価値創造と持続可能な発展をめざしたエリアマネジメントは、大都市や地方都市の都心中心部のみならず住宅地においても展開されています。こうした国内の事例や英米での先進的な取り組みの紹介から理解を深め、エリアマネジメントの手法を学びます。

コミュニティマネジメント 152

Community Management

本格的な少子高齢社会に向かう現在、これからの社会にふさわしい現代的コミュニティの形成は喫緊の課題である。そのため、コミュニティの現状を分析し、適切なマネジメント計画を立案・実行するコミュニティマネジメントの必要性が高まっている。本科目では、コミュニティの基礎的な概念と現代社会におけるコミュニティの課題を理解した上で、全国で取り組まれている多様なコミュニティデザインプロジェクトの事例を学び、実際にコミュニティマネジメント計画を立案する。人と人との関わりによって生活の質を高めていくコミュニティのマネジメントは、建築や印刷物などと違い、目に見えない。それゆえ、関わりのなかで起こる価値、できごとやサービスを可視化し計画に仕上げていくための独自の手法を必要とする。本科目では、デザイン思考やサービスデザインの手法を取り入れたユーザー参加型のデザインスキルを学び、地域から企業まで、これからの社会で求められるコミュニティマネジメントの手法を身につける。

ファシリティマネジメント 153

Facility Management

土地神話の崩壊、地球環境問題や加速する技術革新、多様化するライフスタイルとワークスタイルなどの社会・技術・人々の価値観が急速に変わってきている。これまで、施設は作る側からの発想で出来ていたが、「経営・運営する」、「所有する」、「使う」、「発注する」というユーザの立場から、すまいや都市施設のライフサイク

ルを視野に入れ、施設の構想企画・設計・建設プロセス、プロジェクト管理、施設運営管理等とその体系・手法、次世代施設のあり方についての概略について学ぶファシリティマネジメント（FM）の概論である。FMの概念、方法、重要な専門用語について解説し、具体的な事例で理解を深める。

専門科目：都市のデザイン

都市デザイン 154

Urban Design

都市を構成する要素は、建築をはじめとして多種多様であり従来の都市計画から都市再生へ、または、都市活用へと社会的要求が変化している。そもそも私たちが生活している都市とは何か？、都市空間とは何か？、また、それらはどのようにデザインされるのか？ 人の生活と密接に関係のある建築計画やデザイン、都市デザインの例から、今日までの基本的な捕らえ方を、建築家や都市計画家の思想とデザインを通じて、都市をデザインする手法や考え方に関して学ぶ。

本科目は都市計画や都市空間の演出等の科目と異なり、過去から現在、そして未来へと変わりゆく手法やデザインを体系的に捉えること、且つ、人・建築・都市・文化を総合的に理解することを目的としている。

建築空間論 155

Theory for Architectural space

建築には様々な満たすべき「条件」がある。住宅には気持ちよく眠れるための空間が必要で、劇場ではどの席にもいい音が届く必要があり、駅での待ち合わせも場所も楽しくあってほしい。そうした条件をどう達成するか、それが設計に求められる。しかし、そうした条件に応えただけでは、まだ、いい建築には至らない。いい建築とは何か、どうするといい建築が「生成」されるのか、ここではそれを考え、探求する。その過程で、私たちを取り巻く自然や人工物の世界から、そのすぐれた設計の「しくみ」を学ぶ「アルゴリズムック・デザイン」を用いて、その「方法」を探していく。

インテリアデザインと実務 156

Interior Design and Practice

身近な住まいからオフィス、公共建築、商業施設に至るまでそのインテリアには共通するデザイン要素が多い。インテリアデザインを決定する要素や手法を数多くの事例を基に学習する。また、インテリアデザインの潮流を学び、現在から将来に社会が求めるデザインを、構成

方法、エステティック、機能、性能、環境、また、人体機能に関連しながら習得し、デザイン界やマーケットを意識し、社会におけるクライアントの求める快適な空間を総合的に提案できる人材の育成を目的とした授業とする。更に、実務として建築家、ディベロッパー等とどのように仕事を進めるのかを学ぶ。インテリアコーディネーター等の関連資格取得の準備も授業の目的の一つとする。

建築法規

157

Building Law and Regulation

国民の「生命・健康・財産の保護」と「公共の福祉の増進」を目的に定められた建築基準法を中心に、建築設計をする上で関係する主要な法文の読解や、法規間の関連性に関して解説する。ここでは、個別の建築物に適用する単体規定と、建築物を集团的に規制する集団規定の二つの基準を、前半と後半に分けて取り上げる。

建築史

158

History of Architecture

古代から近世に至るまで、自然・社会・文化と関わりながら形成されてきた建築・都市の特徴を理解する。さらに、技術革新以降の近・現代の建築・都市について、日本を含む世界各地における建築家たちの課題とそれに対する取り組み、新たな創造などを概観し考察する。

建築材料

159

Building Materials

建物は建築材料で構成されている。建築材料は、無機材料と有機材料に分類され、材料の性質により、建物を支える構造材料や建物を保護する仕上材料として用いられる。また、建築材料はほとんどが人工材料であるが、古代より使われているもくざいや石材、土、漆などの天然材料もある。

本科目では、構造材料や仕上材料を含む各種建築材料の歴史や特徴を理解し、建物での使われ方について学習する。

住宅計画

160

Housing Design

これまでの日本の住宅の在り方を理解し、これからの日本の住宅の在り方を考える。対象として戸建住宅と共同住宅の両方を扱い、多角的な視点から住宅を考える。最初にライフスタイルと空間の関係を理解する。比較対象として海外の事例も紹介する。シェアハウスなど新しい共同生活の在り方についても考える。次にその空間の計画の仕方を理解する。住宅全体の骨格、外観や室内に使われる素材や色彩、部分の詳細、そして家具や庭のデザ

インなど、さまざまな計画項目とその関連性、扱い方を把握する。新築のみならず既存ストックを活用したリフォーム・リノベーションや、住宅の施工の仕方についても取り上げる。続けて、住宅自体の取得方法、住宅に関連する法律・税制・金融など、住宅計画に影響を与える仕組みについて理解する。最後に環境対応、安全安心、都市景観など現時点で重要視されている社会的価値の視点から住宅の価値の在り方を考える。

建築構造

161

Building Structure

建築一般構造の基本・特徴、建築構造のおさまり等も含めて講義する。また、建築物に作用する様々な荷重、外乱要因等について学び、それらに対する各構造部位の役割について説明する。さらに、簡単な構造模型の実験を通して、その力学的仕組みを体験的に理解させる。

リノベーションとコンバージョン

162

Renovation and Conversion

これからも増加する傾向にあるオフィスビルや住宅のストックの有効な再利用方法を具体的なケーススタディを通して理解する。建築を再生することはデザイン、不動産、ビジネスモデル、コミュニティなどが総合的に組み合わせられて実現される。この授業では、アートやメディアを駆使した事例、コミュニティと連動したモデル、不動産投資を活用した事例など、具体的なケーススタディを使って方法論を伝える。

また、実際に街中に現存する具体的なストックをモデルケースとしながら、それを有効再生するための手法のシミュレーションなどを行い、実践的なノウハウを学ぶ。

構造力学(1)及び演習

163

Architectural Structures(1)

建築物は人が生活したり働いたりする、いわゆる人と関わる構造物であることに特徴を有している。したがって、建築物には様々な荷重が作用するが、第一にその荷重に耐える構造安全性が求められる。構造力学は構造物の安全性の観点から、様々な荷重が構造物に作用した時に各部材がどのような力を受け、どのように変形し、そしてどのように壊れるのかを科学し、工学的な知見を得る学問である。

構造力学(1)では建築を学ぶ上で必要な力学の入門として、建築物と荷重をいかにモデル化して数式表現するかを学び、特に静定構造物(釣り合い式で全ての反力を求めることができる構造物)が様々な荷重を受けた時に生じる応力(軸方向力、せん断力、曲げモーメント)を力の釣り合いから求める方法を理解し、講義と演習により基礎力を養う。

構造力学(2)及び演習

164

Architectural Structures(2)

構造力学(1)でも述べたように、構造力学の基本は静定構造物の応力を求めることにある。構造力学(2)では「構造力学(1)及び演習」に引き続き、まず「力の釣り合い条件」の概念を復習する意味で、静定構造物の反力と応力の求め方を、静定梁とトラス構造物を対象として取り上げる。次に構造設計に必要な構造力学の例として「梁の変形」と「梁の応力度」について断面の性質を用い、剛性と強度の観点から学習する。

次に、釣り合い式のみでは全ての反力が求められない構造物の例として、不静定梁の応力の求め方について述べ、その他、構造設計で考慮しなければならない力学現象である振動や座屈についても演習を交えて学習する。最後に、大地震時の構造物の状態を許容する塑性力学についても基本事項を修得する。

鉄筋コンクリート構造

165

Reinforced Concrete Structures

鉄筋コンクリート構造は木質構造や鉄骨構造と並んで代表的な構造形式である。コンクリートの圧縮強度は構造的に期待できるが、引張り強度は全く期待できないことから鉄筋を用いることになる。また、我が国の構造設計では鉄筋コンクリート構造にも靱性(粘り特性)が求められることから、圧縮側にも鉄筋を用いる。このように、コンクリートと鉄筋の複合材からなる鉄筋コンクリート構造を梁、柱および耐力壁の役割を中心に構造設計の観点から解説する。とくに、各部材の特性に基づく各種鉄筋の配筋の仕方について学ぶ。また、地震国である我が国の鉄筋コンクリートの柱と耐力壁の役割について理解する。

専門科目：都市のしくみ

都市の環境

166

Urban Environment

口の大半が都市に住居する今日、その生活環境は最重要課題の一つである。前半は、都市緑化による環境改善効果と緑化技術を中心にして、講義を行う。目的は、都市緑化が、その背後にある機能や技術、生活とのつながりを理解することにより、複合的な観点で「緑」を理解する力を養うことである。後半では、日常の生活や活動が地域や地球環境に及ぼす影響を把握するためにエネルギー消費や資源の問題を取り上げ、環境影響に配慮しつつ、快適・健康に暮らすための要件についての基礎知識を学ぶ。さらに、地球環境時代における持続可能な社会のあり方の概念と、そのような時代思潮に至る国内外の経緯をレビューするとともに、その実現に向けた代表

的な方策として広く普及している「環境マネジメント」「環境アセスメント」の概要を学ぶ。

都市と交通

167

City and Transportation

都市生活は生産や居住等の諸活動を行う各種施設とそれらを結ぶ交通施設により支えられている。そして、都市活動の空間分布である土地利用と交通は相互に依存し、都市を変化させていく。一方で、交通はエネルギー消費や環境にも大きな影響を及ぼしている。本講義においては上記を踏まえて、交通の役割を中心に今後の都市改善に必要な基本的な素養を習得することを目的とする。

まず、諸外国とわが国における交通施設と交通の状況を概観し、都市と交通に関する課題を明らかにする。次いで、交通を中心とした政策手段とその背景にある理論を説明する。また、交通に着目した計画における基本的な計画手法について概説する。さらに、財源をはじめとする交通事業に関わる諸問題についても紹介する。

都市の財政学

168

Urban Public Finance

都市財政とは、地方財政制度を所与と中央政府(国家)と関係性を保ちながら都市の経済・社会活動を支えそして発展させることを目的としている。そのため、都市の財政問題を考えるためには、地方財政制度と都市の財政活動を理解する必要がある。

本講義では、地方財政(特に都市財政)の歴史・制度を概観し、地方財政制度のフレームとその意味について解説する。その上で地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債などの歳入、社会保障や公共事業などの歳出などの個別制度の理解とその課題について修得する。さらに、新しい都市財政運営の多様な方法、三位一体の改革、自治体財政健全化法などの近年の財政改革を取り上げる。換言すれば、都市の財政学とは「都市問題」の解決に主要な役割を担う地方公共団体(都道府県や市区町村)を予算の側面から規定し、その行動を支える。そのため、都市における社会資本、教育、医療、介護、生活保護、まちづくり、警察等の公共サービスを考える上で必須の知識である。これらの理解を促すために時事問題への言及や特定の事例に適時、解説して具体的に講義する。

ユニバーサルデザイン

169

Universal Design

近年、高齢者の増加や障がい者の増加に伴い、誰もが快適に過ごせるようなデザインを最初から行うユニバーサルデザインが注目され、世界的にもそれをスタンダードにする動きがある。この科目では、色々な身体の障が

いを意識しながら、誰もが快適に使える最大公約数的なユニバーサルデザインの基礎を学ぶ。ユニバーサルデザインと一言と言っても、駅や空港などのハードのユニバーサルデザインもあれば、お店での人的サービスに代表されるソフト面でのユニバーサルデザインもあり、対象領域はかなりの多岐に亘る。それらを網羅しながらユニバーサルデザインを学び、就職後にも役立つような知識を提供する。

情報社会とくらし

170

Life in Information Society

デジタルネットワーク、モバイル、マイナンバー(公的個人認証)等の次世代社会基盤の普及、PC やテレビ、携帯端末のスマート化等が及ぼす企業・産業全体の変化、サイバー攻撃等のセキュリティ・プライバシー問題の深刻化、デジタルディバイド問題などについて最新の知識を伝え、経済社会の変化を学ばせ、次いで、これらを活用した都市経営、地域・コミュニティ活動、建築や住環境の変化についての知識を教える。

ランドスケープデザイン

171

Landscape Design

ランドスケープデザインを通して、サスティナブルな環境を創造し、グローバル時代の都市空間を創造し、豊かな都市生活を提供する試みが展開されています。建築、都市、地域の各レベルにおいて様々なランドスケープデザインによる、よりよい建築都市環境の創造がすすめられています。講義では、ランドスケープ概念の形成や、ランドスケープデザインの展開とその手法について、わが国や欧米の先進的な事例の紹介を通して理解を深め、ランドスケープデザインについて学びます。また身近な都市生活の環境からランドスケープデザインの展開の方法を学ぶために、教室内でのディスカッションやキャンパス外でのフィールドワークを通じて、自ら問題を発掘し新たな提案を行う力を身につけます。

都市のインフラ

172

Urban Infrastructure

都市生活は道路や鉄道、上下水道等のインフラストラクチャー(社会資本)によって支えられている。その都市インフラの現状、機能、経済分析、財務分析、維持・管理・更新問題、事業方式、財源問題等に関して、講義を中心に学ぶ。公共財の役割と国民経済の視点からの費用便益分析、その受益と負担、さらにはその事業形式に関する基本的な考え方を理解することを目的としている。また、国内のインフラだけではなく海外プロジェクトも取り上げる。

住まいの構法・生産・流通

173

Building System, Production and Distribution of Housing

現代の日本における住まいのつくり方、すなわち住宅の構法は極めて多様なものになっている。代表的なものとして、多数のストックを保持している「在来木造住宅」、通称プレハブ住宅と呼ばれている「工業化住宅」、そして鉄筋コンクリート造による集合住宅等があり、これらは20世紀後半の社会的変化や需要を背景に生み出され、淘汰されてきた。

構法は時代を反映するものであり、これからも変化していく。そこで、本講では代表的な構法を対象に、生まれてきた社会背景や変化を学習し、これからの持続可能型社会における住まいのあり方について考える。

住まいと環境

174

Dwelling and Environment

安全・健康で快適な暮らしを実践するためには、人と環境の関係や建築と環境の関係を理解する必要がある。建築空間の環境性能は、音環境、熱環境、光・視環境、空気環境に分類されるが、ここではその各々についての基礎知識を修得する。快適な住まいを作るうえで、これらの環境に配慮したデザインが不可欠であり、また地域性や住まいの構造・形態がどのように影響しているかを学び、さらにエコロジカルなデザインのための基礎知識、要素技術、その手法を修得する。

都市計画(2)

175

Urban Planning(2)

この科目は、都市計画の基礎知識をひとまず学習した皆さんを対象にしている。都市計画は、都市の環境を今よりも望ましい状態にしていこうとする積極的な意思を持った取り組みであるが、その実現手段となる法律制度には、恣意性のある行為を抑制する法令固有の原則があり、両者は相反する側面がある。そこで、都市計画・まちづくり関連の行政法規の全体像を確認するとともに、それらの背景をなす法理と、実用の場面で工夫を考えるにあたってポイントとなる知識の習得を目指す。

環境と設備

176

Building Equipment for Environment

住宅・建築を理解する上で必要となる環境工学の基本を習得するとともに、空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備、輸送設備、通信設備などの住宅用設備、一般建築用設備、およびエネルギーインフラや上下水道、地域熱供給等の都市設備についての概要を把握する。計画・デザインあるいはマネジメントに必要な設備の基本構造、所用面積・容積、室内や外部に露出する端末機器等

の情報を、写真等を多用したビジュアルな講義内容で理解するとともに、最新の建築物の見学を通して実物を見聞き理解を深める。

都市経営

177

Urban Management studies

この科目は、都市の経営主体＝都市自治体という立場に立って、現代社会の都市行政に関する知識と見方を多角的に習得することを目指している。都市生活は、自治体が提供する様々な行政サービスに支えられている。自治体は、議院内閣制の国と異なり首長と議会という大統領制型の構成であるが、一方、地域社会という視点で見ると自治体の住民自治の枠を超えた市民活動の役割も見逃せない。また、国際的な都市間競争は自治体に都市経営の戦略を要求するとともに、競争社会や高齢社会は自治体にセーフティネット機能の充実を求めている。

福祉のまちづくり

178

Community Development for Welfare

現在、子どもの生活環境は、すまいや遊び場を含め大きく変化している。また、急速に少子高齢化が進むなかバリアフリーやユニバーサルデザインへの関心が高まっている。この講義は、望ましい子どものための空間の課題、また高齢者・障害者の福祉を念頭にといった方策について解説するものである。

講義ではコミュニケーション機能、ソフトウェア等について実態や課題を明らかにし、安全で創造的な遊び場空間の実際的な提案を検討する。子どもや高齢者・障害者の環境としての動作・作業空間、屋外空間、人間工学、危機管理などを検討していく必要がある。安全で快適な子どもや高齢者・障害者にとっての居住環境や、人間にやさしいデザインのあり方について都市やまちづくりの観点から基礎を学ぶ。

専門科目：総合領域 1

フレッシュャーズゼミ

179

Seminar for Fresher

全員対象の集合授業と15名程度のクラス別授業の2種類の形態で実施する。この2つの方式にて第1に大学生活のオリエンテーションを行い、第2に各自の大学4年間の学業、サークル活動、自己啓発活動の目標を盛り込んだキャンパスライフプランを作成する。また第3に個別課題に基づくレポート作成、意見発表を行い、大学の授業に対応するための基礎的能力を培っていく。より実りのあるキャンパスライフの構築をサポートするため、このようなプログラムにて総合的コーディネートを行う。

キャリアデザイン(1)

180

Career Design(1)

「キャリアデザイン」を通して、人生の働く期間を対象とするワークキャリアについて基本的な知識と実践的な方法を身につける。これにより長期にわたって自分のワークキャリアを見定めることができるようになる。また、ポートフォリオ視点で自分を客観視するとともに、会社の仕組みの学習、インターンシップ経験者からの経験談などを通じて、企業への理解を深める。最終的には、自分自身をアピールするための具体的な方法としてエントリーシートの基礎について学ぶ。また、自分の知識の現状を知る。

キャリアデザイン(2)

181

Career Design(2)

「キャリアデザイン」を通して、人生の働く期間を対象とするワークキャリアについて基本的な知識と実践的な方法を身につけることで、長期にわたって自分のワークキャリアを見定めることができるようになる。この授業では、キャリアデザイン(1)からの継続として、社会或は企業と自分自身との適合について考え、自分自身を企業に訴求する準備を始める。その為に、ポートフォリオ視点で自分を客観視し、会社の仕組みを学んだり、インターンシップ経験者からの経験談を通じて、企業への理解を深める。最終的には、企業に自分自身を売り込むための具体的な行動としてエントリーシートの基礎について学ぶ。また、SPIの模試を受けることで自分自身の現状を知り、スコア改善の準備を始める。

キャリアデザイン(3)

182

Career Design(3)

人の働く期間を対象とするワーク・キャリアについて基本的な知識と実践的な手法を身につけることで、人生を通して、いかなる段階でも自分のワーク・キャリアを見定められるようにする。キャリア理論の体系的な知識習得に始まり、自分の成功体験、価値観、欲求、強み・弱み等の分析に基づき各自キャリア・ビジョンを描く。また、長期的なキャリア形成の選択肢について各産業分野で活躍する講師から学び、各自のビジョンとの適合を図り、実現シナリオを創る。グループ内ディスカッションを通じて磨き上げ各自ワーク・キャリア設計書を創る。各段階において、理論とツールの理解、ディスカッションや設計書への取り組みについて評価を行う。集合授業と10数名のクラス別授業の2種類を組合せ、集合授業では体系的な知識と講師の講義により学習する。クラス別授業では、学生が個別課題として構築していく長期的なキャリアプランに対して、きめ細やかな指導やトレーニングを行い、学生生活全体をサポートする。

キャリアデザイン(4)

183

Career Design(4)

人の働く期間を対象とするワーク・キャリアについて基本的な知識と実践的な手法を身につけることで、人生を通して、いかなる段階でも自分のワーク・キャリアを見定められるようにする。キャリア理論の体系的な知識習得に始まり、自分の成功体験、価値観、欲求、強み・弱み等の分析に基づき各自キャリア・ビジョンを描く。また、長期的なキャリア形成の選択肢について各産業分野で活躍する講師から学び、各自のビジョンとの適合を図り、実現シナリオを創る。グループ内ディスカッションを通じて磨き上げ各自ワーク・キャリア設計書を創る。各段階において、理論とツールの理解、ディスカッションや設計書への取り組みについて評価を行う。集合授業と10数名のクラス別授業の2種類を組合せ、集合授業では体系的な知識と講師の講義により学習する。クラス別授業では、学生が個別課題として構築していく長期的なキャリアプランに対して、きめ細やかな指導やトレーニングを行い、学生生活全体をサポートする。

プロジェクト演習(1)

184

Project based Learning (1)

3年生に進級してきた学生が、学んできた教養・専門に関わる知識と、演習を通して身につけた専門スキルをもとに、自己の専門分野を絞り込む最初の玄関口がこの前期プロジェクト演習である。

専門分野の教員毎にカリキュラムの内容に関連する演習テーマを設定し、各研究室の演習テーマの中から学生は希望する分野の演習テーマを前期は2つ選択する。研究室によって、作品、小論文などの成果としてまとめプレゼンテーションを行う。この経験をもとに後期プロジェクト演習においては、1つの専門分野を絞り込んで選択を行う。

実施に当たっては、教員一人当たり24名程度の学生を担当し、ゼミ形式、グループワーク形式、個別指導形式などテーマに合った演習形式により、学生が自ら考え、成果をまとめる力を身につけさせる。複数の教員によるテーマ設定も可能とするが、その場合も、教員1人あたりの配属学生数は同じとする。

プロジェクト演習(2)

185

Project based Learning (2)

専門分野の教員毎にカリキュラムの内容に関連する専門性の高い演習テーマを設定し、学生は作品、小論文などの成果としてまとめプレゼンテーションする。卒業研究においては、プロジェクト演習(2)で学んだ専門分野をより深めて研究をおこなう。

実施に当たっては、教員一人当たり12名程度の学生を

担当し、ゼミ形式、グループワーク形式、個別指導形式などテーマに合った演習形式により、学生が自ら考え、成果をまとめる力を身につけさせる。また、卒業研究への導入として位置づける。複数の教員によるテーマ設定も可能とするが、その場合も、教員1人あたりの配属学生数は同じとする。

専門科目：総合領域2

海外研修(1)～(2)

186～187

Oversea Training Program (1)～(2)

1年次授業必修科目「世界の都市」および「世界の住まい」等で学んだ内容に関連し、ヨーロッパ圏やアジア圏などを訪問して本物の都市や住まいを実体験することによって、都市生活に関わる学修・研究の源泉となる生きた知見を獲得する。具体的には、各都市の専門博物館や行政機関・大学などで、都市空間・建築物・都市文化について見学・受講・学修するとともに、学生自身によるフィールドサーベイを行う。

インターンシップ(1)～(2)

188～189

Internship(1)～(2)

在学中に企業、設計事務所、研究所などで就業体験をすることで、自分の将来を見つめ、自己の適正を知り、将来の進路計画に役立てる有意義な機会とする。

大学における講義は、実社会で役立つことを想定して計画しているが、実際の産業界における価値観や要求されることを具体的に体得する機会ともなる。

2週間以上の実習を行い、実習先の証明書及び本人の実習報告書を提出することで単位とするが、その前後には、個別またはグループでの指導を行う。このように、産業界での経験を踏まえて、より実践的な指導を行う。

卒業研究

190

Graduation Studies

4年時に進級してきた学生が前年度のプロジェクト演習において絞り込んだ2つの演習テーマをもとに大学における専門分野の一つに絞り込むのがこの卒業研究である。

専門分野の教員毎にカリキュラムの内容に関連する研究フィールドを設定し、合計10～15程度の研究フィールドの中から、学生は希望する分野を通期とおして1分野選択し、その中から研究テーマを探索し設定する。文献研究、各種調査、観察、実験、分析などの研究活動を通じて作品、論文などの成果としてまとめ、プレゼンテーションする。

この経験をもとに学生は大学生活において学びとった知識とスキルをプロジェクトの企画、実施、成果品の作

成、伝達という一連の体験の中で統合的に習得し、プロジェクトマネジメントの実践力を身につけて社会に巣立っていく。

実施にあたっては、教員一人当たり10名程度の学生を配分し、ゼミ形式、グループワーク形式、個別指導形式など研究フィールドに合った演習形式により学生を指導する。複数の教員によるテーマ設定も可能とするが、その場合も、教員1人あたりの配属学生数は同じとする。

まちづくり演習(1)～(3)

191～193

Urban life studies (1)～(3)

年度により、特別な演習を行うことがある。実施詳細はその都度紹介する。

特別講義(1)～(3)

194～196

Special Lecture(1)～(3)

年度により、特別な講義を行うことがある。実施詳細はその都度紹介する。

平成28年度実施予定

特別講義 東急グループの都市創造

東急グループとの連携による寄付講座として行う。

東急グループの各社（交通・不動産・流通・レジャー・サービス・メディアなど）からの解説により、東急グループの街づくり、生活創造に関わる多岐に渡る企業活動を通じて、都市創造が現実になどどのように行われているのかの具体的事例を理解し、これらの分野の事業戦略のあり方を学ぶ。

